社会医療法人　仁生会年報2021　第23号
2021（令和３）年度（2021.4.1～2022.3.31）

細木病院

院長挨拶 …… 19

ほそぎハートセンター開設について …… 20

概　　要 …… 22
部署責任者一覧 …… 26
職員数一覧 …… 27
医師一覧 …… 28

年次報告 …… 29
診療部 …… 29
こころ診療部 …… 41
看護部 …… 43
薬剤部 …… 60
医療技術部 …… 61
事務部 …… 71
健康管理センター …… 80
ほそぎ入退院連携センター …… 82
在宅部 …… 85
委員会 …… 96

診療実績・業務実績統計 …… 102
業績一覧 …… 118
実習・研修生 …… 125



細木病院　屋上看板



ほそぎハートセンター　2020年 6 月開設



細木病院　本館



細木病院　北館　こころのセンター



細木病院　南館



細木病院　新館



深田順一

年度ごとに仁生会の歩みを振り返る年報の令和３年度版をお届けします。

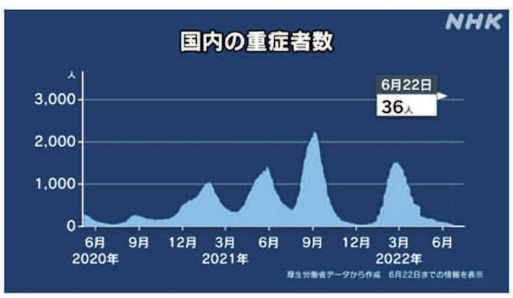
この１年間も仁生会にとりましては、引き続き新型コロナウイルスとの闘いに明け暮れた365日でした。令和２年２月29日に最初の感染患者が現れた高知県でも、当年度がスタートした４月１日で累計919人であった患者数が、１年後には17,073人にまで増加してしまっています。無症状者が感染源になりうる、このやっかいな感染症に対しては、本邦では当初から行政主導の対策がとられてきましたので、その基となる全国の状況を添付の図として取り上げましたが、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置などの対策が繰り返し取られたにもかかわらず令和３年度は、春先の第４波、真夏の第５波と続き、年を越えて始まった第６波は、年度末を過ぎても未だ収まりきっていない、という状況です。

この間、仁生会では細木病院を中心に、全職員が、組織を挙げて期待されている診療機能の維持・確保に全力を傾けました。前年度終盤に始めた新型コロナ感染者の入院受け入れは継続しましたし、有熱者外来も継続し、細心の注意を払ったうえで入院患者、救急患者への対応にも当たりました。制限せざるをえない入院患者さんへのご家族の面会制限には電子情報端末を用いたリモート面会の工夫を行いました。これらの対コロナ戦略立案には、引き続きコロナ対策チームのメンバーが献身的に当たってくれましたし、並行して、前年度終わりに医療従事者、次いで高齢者から始まったコロナワクチン接種に対しても、ワクチンチームの指揮の下、職員が交代でその対応に当たってきました。この間、このような努力にもかかわらず診療実績としての患者数減少が各部門で少なからずみられましたが、行政からの、いわゆるコロナ補助金は対コロナ診療を維持するには大きな力となりました。このあたりの詳細は本書の該当部分をご覧ください。

眼をコロナ以外に向けると、この１年もいろいろなことがありました。４月上旬には本県で中・高時代を過ごしたゴルフの松山英樹プロが、日本人として初めて米マスターズトーナメントを制し、７月の大リーグオールスター戦では大谷翔平選手が、史上初めて投打で先発し、シーズン終了後には満票でア・リーグの最優秀選手に選出されました。また、１年遅れで７月後半から原則無観客という形で開催された東京五輪・パラリンピック大会は、コロナを忘れさせるような連日の盛り上がりを見せましたが、８月のよさこい祭りは連年の中止となってしまいました。秋に入り、この年のノーベル物理学賞に、二酸化炭素による温暖化予想という業績での真鍋淑郎氏の受賞が発表されましたが、その10月には、政治面では菅義偉氏が首相を退き、岸田文雄氏が後任に就任という大きな動きがあり、同月末の衆議院選挙では前知事・尾崎正直氏が初当選しました。しかし翌令和４年になって、２月24日に開始されたロシアによるウクライナ侵攻は未だ続いており、年度末には医療界を含む日本社会全体への影響も懸念され始めたところでした。







仁生会年報は版を重ねるごとに、記録としての重みが加わっていると感じています。今回もその思いで、もう一度この１年を、皆さまとご一緒に振り返ってみようと思います。

令和４年12月１日

ほそぎハートセンター

心臓専門施設
『ほそぎハートセンター』開設



ハートセンター長　細木　信吾

令和２年６月８日、『心臓と血管のトータルケア』をコンセプトとした心臓専門施設『ほそぎハートセンター』がオープンしました。

『人は血管とともに老いる』と言われるように、高齢化が進む高知県においても、循環器疾患は、入院患者さんの多さと高い再発率から大きな問題となっています。細木病院では、『ほそぎハートセンター』を通じて、私たちの地域の患者さんの循環器疾患に正面から取り組みます。

ほそぎハートセンターは、総床面積180平米、２階建てで、１Ｆは心臓リハビリテーションと心エコー等の検査室、２Ｆは心臓カテーテル室２部屋とカンファレンスルームからなります。

心臓リハビリテーションは、専任の医師、看護師、理学療法士を中心とした専門チームによる循環器疾患２次予防プログラムのことで、運動処方に則った運動リハビリテーション、生活指導等を通じて、快適な家庭生活や社会復帰、心臓病再発予防をサポートします。心肺運動負荷試験用エルゴメーター１台、セントラルモニター、レッドコード５セット、自転車エルゴメーター４台、診察室、更衣室を備えています。交通手段を持たない遠方の患者さんには、送迎システムを導入します。

心エコー室には、既存機に加えて、フィリップス社製ハイエンド機を導入し３Ｄ画像での経食道心エコーができるようになりました。心エコー専任医師と生理検査部の協力により、心エコー診断精度向上、心エコー件数増加が見込まれます。

心臓カテーテル室では、２部屋のうち心臓カテーテル室１を稼働させました。フィリップス社製の心臓専用バイプレーンモデル血管撮影装置Azurion 7 B12／12（低被爆２方向同時撮影モデル）を導入しました。カテーテル検査を含めた心臓と血管の精密検査と治療（冠動脈造影検査を含めた造影検査、経皮的冠動脈インターベンション（ＰＣＩ）、末梢血管内治療（ＥＶＴ）、カテーテルアブレーション、恒久的ペースメーカ移植術、大動脈バルーンパンピング、ＥＣＭＯなど）が可能となりました。

検査室までの廊下天井からの太陽光、検査室窓のプライバシーに配慮した電動遮光ガラス、検査室内でのリラクゼーションミュージックなど、患者さんがリラックスできる環境に配慮しました。また、ＤＸとして、心臓カテーテル室の映像や音声を遠隔配信システムによりあらゆる場所に生配信できるようにしました。病院外からいつでも心臓カテーテル室とコンタクトできますので、休日夜間を問わない緊急心臓カテーテル治療の遠隔サポートや、国内外を問わず心臓カテーテル治療ライブが可能です。



ほそぎハートセンター



循環器内科部長
山本　哲史



心臓リハビリテーション科部長
西本　美香



循環器内科長
宮地　剛



循環器内科長
古川　敦子

スタッフとして５名の循環器専門医（細木信吾、山本哲史、西本美香、宮地　剛、古川敦子）、専属の看護師（上島里香）・理学療法士（上村梨菜、田中辰輔）・臨床工学技士を加えた循環器チームにより、患者さんの循環器疾患の早期発見、治療、予防を行います。

令和４年には、新たな循環器専門医１名（西本隆史）の加入、心臓カテーテル室２の稼働、心臓リハビリテーションと心エコー室の拡張を予定しています。

『ほそぎハートセンター』は、常に患者さんのニーズを汲みながら、地域に密着した医療で地域に貢献します。将来的には、細木病院の中核を担う部門となるよう取り組んでまいります。



心臓カテーテル検査
（冠動脈造影中）

1 常勤医師の氏名

細木　信吾（副院長、ハートセンター長）
山本　哲史（循環器内科部長）
西本　美香（心臓リハビリテーション科部長）
宮地　剛（循環器内科長）
古川　敦子（循環器内科長）

施設説明

	心臓カテーテル検査室	
2階	概要・特色	・心臓カテーテル室を２室とＩＣルーム、カンファレンスルーム等を備えています。 ・専任の医師（日本心血管インターベンション治療学会専門医２名・認定医２名）が一度の造影で２方向から撮影できる心臓血管撮影装置を用いて、心臓や足等の血管と不整脈の検査、治療を行います。 ・患者さんが検査、治療中にリラックスできるよう、白と木目を基調とした部屋に好きな音楽が聴ける音響システムを導入しています。
	主な設備	・フィリップス社製２方向血管撮影装置Azurion７ B12／12（２方向からの同時撮影が可能な低線量、低被爆を可能にした最新機器） ・ＤＶＸライブ配信システム（検査室以外の場所で血管造影画像のリアルタイム閲覧が可能となり情報の共有ができるシステム）
	心エコー／心臓リハビリテーション	
1階	概要・特色	・心エコー・ＣＰＸ室と心臓リハビリテーション室などを備えています。 ・専任の心エコー専門医（超音波専門医）による３Ｄ心エコー検査で心臓の状態を正確に診断します。 ・心臓リハビリでは、専任の医師（心臓リハビリテーション指導士）、看護師、理学療法士等のチームにより、個々の患者さんに最適な運動療法、学習活動、生活指導、カウンセリングを行い、快適な家庭生活、社会復帰、心臓病の再発予防をサポートします。
	主な設備	心肺運動負荷試験（ＣＰＸ）、自転車エルゴメーター、セントラルモニター心電図、レッドコード（スリングエクササイズセラピーツール）、診察室など



心臓リハビリテーション
（レッドコード）



ほそぎハートセンターでPCI LIVEを開催
～カテーテル治療術者の育成に寄与～





ほそぎハートセンター初心臓カテーテル治療（PCI）ライブ開催（2021年７月３日）

（文責：副院長、ハートセンター長　細木　信吾）

概　要

1．細木病院の理念

患者さんからも、地域からも、職員からも“この病院でよかった。”と心から思ってもらえる病院を目指します。

2．細木病院の基本方針

・私達は、医療人としての良心に基づいて、責任と思いやりのある医療を行うよう努めます。
・私達は、常に研鑽にはげみ、質の良い医療を提供するよう努めます。
・私達は、患者さんの立場に立って、人としての尊厳・権利を尊重した医療を行うよう努めます。
・私達は、医療についての十分な説明を行い、医療を提供するものと受けるものとの信頼関係を深めるよう努めます。
・私達は、細心の注意を払い、安全な医療を行うよう努めます。
・私達は、療養環境を整備し、心地良い医療・介護が受けられるよう努めます。
・私達は、地域のニーズに応じた医療・介護を提供するよう努めます。
・私達は、へき地医療支援病院として、へき地医療支援に努めます。
・私達は、就業環境の改善を図り、明るく働き甲斐のある職場づくりに努めます。
・私達は、経営・運営基盤を確立して効率的な医療を行い、病院の健全な発展に努めます。

患者さんの権利　5か条

基本方針に則り、以下の項目を中心に患者さんの権利擁護に努めます。

1）患者さんの人格が尊重され、思いやりのある丁寧な医療が受けられる権利
2）病気や診療について、分かりやすく説明を受ける権利
3）セカンドオピニオンを求めることができ、その上で、自身の意志に基づいて診療方法を選択し、同意、または拒否できる権利
4）プライバシーが保護され、個人情報が護られる権利
5）診療記録の開示を受ける権利

3．令和3年度の目標と取り組み（事業計画）

コロナ対応を継続しつつ、平常化に向けた新たな体制整備・構築の一年とする。

1．コロナ禍で担うべき社会的役割の発揮と経営の安定化

⇒担うべき役割は何かを適時判断しつつ、経営の安定化を図る。
①「コロナ陽性患者受け入れの協力医療機関」としての役割を果たす。
②「コロナ検査協力医療機関」としての役割を果たす。
③「コロナワクチンの住民接種医療機関」としての役割を果たす。
④各役割を果たすための院内体制を維持し、状況に応じ、適時見直す。
⑤適応する補助金・支援金を適時・適正に最大限確保する。
⑥リモート診療・リモート面会の体制整備を推進する。

2．経営基盤の安定と強化

⇒コロナ終息を見据えた患者および利用者の確保および単価ＵＰに取り組む。
①1日当たり入院患者数（休床補償解消時の計画値：410人／日）の確保を図る。
②「ほそぎハートセンター」のさらなる増患に取り組み、第2カテ室の稼働を検討する。
③酒井コンサル・ミーティングを継続し、具体的な取り組み課題を着実に実行する。
④「ドクターカー・ナースカー」の活用を推進する。
⑤介護報酬改定の正しい理解と“科学的介護”への対応整備を推進する。
⑥ＨＵ再統合の深化を図るため、組織や体制を見直す。

3．疾病構造の変化に対応した診療体制の整備

⇒高齢化に伴う疾病構造の変化を見据え、診療体制の整備を進める。
①チーム医療を生かしたフレイル対応を強化する。
②循環器内科と代謝内科の連携を図り、慢性疾患の診療体制整備につなげる。
③「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」などを踏まえた適切な意思決定支援に関する指針をもとに、その運用の定着を図る。
④一般科と精神科の円滑な診療体制の構築を図る。
⑤地域資源との連携（前方連携・後方連携・医療介護連携・医科歯科連携）を強化する。
⑥病棟再編（第2ステップ）の検討を進める。

4．働き方改革の推進と労働生産性の向上

⇒働き方改革の推進と労働生産性の向上を図る。
①働き方改革（有給休暇の取得、時間外勤務の削

減）への対応と勤務環境の改善を推進する。
②リモートを活用した会議や仕事の進め方を推進する。
③ストレスチェック度の改善と向上を図る。
④職業倫理指針の浸透を図る。

5．クラスター防止と非常時の対応力強化

⇒クラスター防止と非常時の対応力強化を進める。
①全力でクラスターの再発防止に努める。
②医療安全対策に、引き続き取り組む。
③作成したＢＣＰ（事業継続計画）の浸透を図り、非常時の対応力強化を進める。

4．施設とその概要

1）

	敷地面積(㎡)	建築延面積(㎡)
本館	1,554.45	3,288.20
新館	2,442.35	6,087.16
ほそぎハートセンター	220.13	440.26
南館	1,745.07	2,755.05
管理棟	384.22	453.44
事務棟	152.72	400.00
実習棟	155.37	285.78
北館（こころのセンター）	3,687.00	7,160.00
合計	10,341.31	20,869.89

2）**施設の概要**（各階の目的、機能別）

	南館	新館	本館	ほそぎハートセンター
6Ｆ			内視鏡センター　栄養指導室 臨床支援課 情報システム管理課	
5Ｆ		リハビリテーションセンター 理学療法室　作業療法室 言語療法室	健康管理センター	
4Ｆ		手術室 中央材料滅菌室 病理検査室　新館検査室 新館薬剤室	脳神経外科　耳鼻咽喉科 泌尿器科　緩和ケア課 外来化学療養室 皮膚科・形成外科	
3Ｆ	南５病棟：（新型コロナ陽性者受け入れ病棟／緩和ケア病棟）／12床 南３病棟：障害者施設等一般病棟／30床	新３病棟：急性期一般病棟／60床 病児・病後児保育室「キューピットハウス」	放射線科　骨塩検査室 乳房撮影室　臨床心理室 誘発筋電図（ＭＣＶ）室 Ｘ線ＴＶ室　エコー室　脳波室	
2Ｆ	南２病棟：医療療養病棟／49床 リハビリテーションセンター 医療相談室	新２病棟：地域包括ケア病棟／60床	内科　小児科　総合診療科 採血室　点滴室　臨床検査室 心電図室　エコー室 専門外来 小児リハビリテーション室	心臓カテーテル室 カンファレンスルーム
1Ｆ	南１病棟：医療療養病棟／52床 厨房	新１病棟：回復期リハビリテーション病棟／52床 臨床工学室	外科　整形外科　痛みの外来（ペインクリニック） 救急処置室　ＭＲＩ／ＣＴ室 薬剤室　医事課　会計 総合案内　外来受付 入院受付　有熱外来	心臓リハビリテーション室 心エコー・ＣＰＸ室、診察室
ＢＦ		ほそぎ入退院サポートセンター 入退院サポート室 患者サポート室 栄養管理室　厨房 高行記念講堂　会議室 売店「ローソン」仁生会細木病院店		

（北館）こころのセンター		
	Ｓ館	Ｎ館
6Ｆ	ホール	
5Ｆ	北５Ｈ病棟／（北５病棟48床）	屋上庭園
4Ｆ	北５Ｌ病棟	北４病棟／53床
3Ｆ	放射線室　薬剤室　臨床心理室 医療相談室　更衣室	北３病棟／40床
2Ｆ	診療情報課　臨床支援課 院内感染対策室　医療安全管理室 情報システム管理課　機能訓練室　食堂	センター長室　医局　事務部長室　企画課 応接室　図書室　会議室　脳波室　研修室 精神科デイ・ケア　ショート・ケア
1Ｆ	歯科　看護部長室　栄養管理室 臨床検査室　仁生会人事総務部　人事総務課	外来　医事課　心理検査室 精神科作業療法室　重度認知症患者デイ・ケア

5．標榜科目

診療科目

循環器内科、総合診療科、内科、外科、整形外科、小児科、放射線科、呼吸器内科、消化器内科、糖尿病内科、内分泌内科、腎臓内科、消化器外科、神経小児科、肛門外科、小児整形外科、脳神経外科、泌尿器科、リウマチ科、化学療法・緩和ケア科、耳鼻咽喉科、心臓リハビリテーション科、リハビリテーション科、麻酔科、乳腺外科、血管外科、皮膚科、形成外科、歯科

専門外来

せき外来、甲状腺外来、漢方外来、もの忘れ外来、小児こころの外来、補聴器外来、セカンドオピニオン外来、おしりの外来、脊椎外来、痛み外来（ペインクリニック）、禁煙外来、フレイル外来

健康管理センター

全国健康保険協会管掌健康保険生活習慣病予防健診、人間ドック、事業主健診、特定健診、乳がん子宮がん検診

こころのセンター（北館）

精神科、心療内科、内科

6．施設基準

入院基本料等

新1病棟：回復期リハビリテーション病棟入院料1
休日リハビリテーション提供体制加算
体制強化加算2
新2病棟：地域包括ケア病棟入院料2
看護職員配置加算
看護補助者配置加算
新3病棟：急性期一般入院料1
小児入院医療管理料4
25対1急性期看護補助体制加算
（看護補助者5割以上）
16対1看護職員夜間配置加算1
南1病棟：療養病棟入院基本料1
療養病棟療養環境加算2
夜間看護加算
南2病棟：療養病棟入院基本料1
療養病棟療養環境加算1
夜間看護加算
南3病棟：障害者施設等入院基本料10対1
ポピー病棟：緩和ケア病棟入院料2
北3病棟：精神科急性期治療病棟入院料1
精神科急性期医師配置加算2のロ
精神科応急入院施設管理加算
北4病棟：精神病棟入院基本料15対1
療養環境加算
看護配置加算
看護補助加算1
北5病棟：精神病棟入院基本料15対1
看護配置加算
看護補助加算1

基本診療料の施設基準に係る届出

入退院支援加算1（一般病棟・療養病棟）
データ提出加算2
診療録管理体制加算1
25対1医師事務作業補助体制加算1
医療安全対策加算1
医療安全対策地域連携加算1
感染防止対策加算1
感染防止対策地域連携加算
抗菌薬適正使用支援加算
後発医薬品使用体制加算1
患者サポート体制充実加算
救急医療管理加算
特殊疾患入院施設管理加算
重症者等療養環境特別加算
臨床研修病院入院診療加算（基幹型）
認知症ケア加算1
精神科身体合併症管理加算
精神科救急搬送患者地域連携紹介加算
初診料（歯科）の注1に掲げる基準
オンライン診療料
精神科地域移行実施加算
せん妄ハイリスク患者ケア加算

特掲診療料の施設基準に係る届出

薬剤管理指導料
地域連携診療計画加算
外来化学療法加算1
無菌製剤処理料1イ・ロ
検体検査管理加算（Ⅰ）（Ⅱ）
高度難聴指導管理料
糖尿病合併症管理料
糖尿病透析予防指導管理料
小児運動器疾患指導管理料
院内トリアージ実施料
麻酔管理料（Ⅰ）
夜間休日救急搬送医学管理料
神経学的検査
補聴器適合検査
乳房ＭＲＩ撮影加算
ＣＴ撮影及びＭＲＩ撮影
冠動脈ＣＴ撮影加算
大腸ＣＴ撮影加算
画像診断管理加算2
精神科作業療法
医療保護入院等診療料
精神科ショート・ケア「大規模なもの」
精神科デイ・ケア「大規模なもの」
重度認知症患者デイ・ケア料
ＣＡＤ／ＣＡＭ冠

クラウン・ブリッジ維持管理料
椎間板内酵素注入療法
開放型病院共同指導料
がん治療連携指導料
がん患者指導管理料　イ・ロ
がん性疼痛緩和指導管理料
先天性代謝異常症検査
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
胃瘻造設時嚥下機能評価加算
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
集団コミュニケーション療法料
運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
廃用症候群リハビリテーション料（Ⅰ）
心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）
医療機器安全管理料１
輸血管理料Ⅱ・輸血適正使用加算
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術（一連につき）（ＭＲＩによるもの）
乳がんセンチネルリンパ節加算１及びセンチネルリンパ節生検（併用）
乳がんセンチネルリンパ節加算２及びセンチネルリンパ節生検（単独）
経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
経皮的中隔心筋焼灼術
ペースメーカ移植術及びペースメーカ交換術
ペースメーカ移植術及びペースメーカ交換術（リードレスペースメーカー）
心臓ペースメーカ指導管理料の注５に掲げる遠隔モニタリング加算
胃瘻造設術（医科点数表手術の通則16に掲げる手術）
在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料
精神科退院時共同指導料２
ニコチン依存症管理料
静脈圧迫処置（慢性静脈不全に対するもの）
ヘッドアップティルト試験

【医科点数表第２章第10部手術の通則の５及び６に掲げる手術】

関節鏡下関節授動術・人工関節置換術・腹腔鏡下胆嚢摘出術
肝切除術・水頭症手術・母指化手術・内反足手術・胃瘻造設術
胆管悪性腫瘍手術・観血的関節授動術・髄液シャント抜去術
膵体尾部腫瘍切除術・食道裂孔ヘルニア手術・肝門部胆管悪性腫瘍手術
脳動脈瘤頸部クリッピング・バセドウ甲状腺全摘（亜全摘）術（両葉）

7．許可病床数

456床

新館	
新１病棟	52床（回復期リハビリテーション病棟）
新２病棟	60床（地域包括ケア病棟）
新３病棟	60床（急性期一般病棟）
南館	
南１病棟	52床（医療療養病棟）
南２病棟	49床（医療療養病棟）
南３病棟	30床（障害者病棟）
南５病棟	12床（新型コロナ陽性者受け入れ病棟／緩和ケア病棟）
こころのセンター（北館）	
Ｓ館	
北５Ｈ病棟	24床（精神科閉鎖病棟）
北５Ｌ病棟	24床（精神科開放病棟）
Ｎ館	
北４病棟	閉鎖：53床（精神病棟）
北３病棟	開放：14床・閉鎖：26床（精神科急性期治療病棟）

8．臨床研修

基幹型臨床研修指定病院

9．施設認定等

・第二次救急医療施設（救急告示病院）
・高知県精神科救急医療施設
・応急入院指定病院
・高知県へき地医療支援病院
・日本医療機能評価機構認定病院
・日本整形外科学会整形外科専門医研修施設
・日本内科学会教育関連病院
・日本外科学会外科専門医制度関連施設
・日本糖尿病学会認定教育施設
・日本循環器学会認定研修施設
・日本呼吸器学会認定施設
・日本消化器病学会関連施設
・日本内分泌学会認定教育施設
・日本リハビリテーション医学会研修施設
・日本乳癌学会関連施設
・日本精神神経学会研修施設
・日本病院総合診療医学会認定施設
・日本高血圧学会専門医認定施設
・日本甲状腺学会認定専門医施設
・日本緩和医療学会認定研修施設
・日本医療薬学会認定研修施設
・厚生労働省　基幹型臨床研修病院
・日本心血管インターベンション治療学会ロータブレーター施設認定研修修了施設
・マンモグラフィ検診精度管理中央委員会マンモグラ

フィ（乳房エックス線写真）検診施設画像認定施設
・日本静脈経腸栄養学会NST（栄養サポートチーム）稼動施設
・日本栄養療法推進協議会NST（栄養サポートチーム）稼動施設
・国土交通省　短期入院協力病院（自動車事故による重度後遺障害者）
・次世代育成支援基準適合一般事業主認定
・高知県ワークライフバランス推進企業（次世代育成支援部門）認証

部署責任者一覧　令和４年３月31日現在

院長	深田順一
名誉副院長	松田勇蔵
名誉副院長	北岡和雄
名誉副院長	小林誠
副院長	細木信吾
副院長	西岡達矢
副院長	上地一平
副院長	上田祐二
診療部	
診療部長・消化器内科部長・内視鏡センター長	中内昌仁
医局長・外科部長	尾崎信三
総合診療科副部長	熊谷千鶴
糖尿病･内分泌内科部長（兼務）ほそぎ入退院サポートセンター長	西岡達矢
ハートセンター長	細木信吾
循環器内科部長	山本哲史
心臓リハビリテーション科部長	西本美香
化学療法・緩和ケア科部長	安藤徹
血管外科部長	西村哲也
リハビリ・整形外科部長	山川晴吾
小児科部長	新井淳一
神経小児科部長	細川卓利
脳神経外科部長	栗坂昌宏
耳鼻咽喉科部長	楯敬蔵
病理診断科部長	山崎義一
放射線科部長	耕崎志乃
麻酔科部長	畠中豊人
麻酔科･ペインクリニック部長	細川滋俊
皮膚科・形成外科	野田理香
こころ診療部（北館）こころのセンター	
副院長・こころのセンター長	吉岡隆興
名誉副院長	松田幸彦
副こころのセンター長･精神科部長	徳岡雅嘉
看護部	
看護部長（兼務）	豊田邦江
看護部副部長（兼務）	岡崎千佐子
看護部副部長（兼務）	川田留美
教育師長	山村真智子
新１病棟師長	渡辺真智子
新２病棟師長	大原敬子
新３病棟師長	伊賀原由香
南１病棟師長	髙塚深雪
南２病棟師長	堀田美幸
南３病棟師長	弘田美貴

看護部	
南５病棟師長	片岡健
外来師長	曽我貴美子
手術室兼中央材料滅菌室師長（兼務）	岡崎千佐子
精神科外来師長（兼務）	川田留美
北３病棟師長	藤原奈津子
北４病棟師長	戸田陽子
北５病棟師長	窪内淳子
精神科デイ･ケア　フレンズ主任	永野吉昭
重度認知症患者デイ･ケア　デイ・アルテン師長（兼務）	中山充代
薬剤部	
薬剤部長（兼務）	田中照夫
薬剤部副部長（部長代行）	小松めぐみ
医療技術部	
医療技術部長（兼務）	田中照夫
放射線室長	小松剛
臨床検査室長	亀井佳代
栄養管理室長	橋本由佳
こころ栄養管理室長	前田光代
リハビリテーション課長	藤本弘昭
精神科作業療法室主任	吉村康世
臨床心理室係長	池田貴美
臨床工学室　担当	森勇樹
歯科衛生室　主任	内平真美
事務部	
事務部長（兼務）	宮地耕一郎
事務部副部長（兼務）	中路達也
事務部副部長	中嶋光宏
人事総務課長	文野正史
医事課長	古谷英理
医事課長	浅津里衣
こころ医事主任	新井桂子
用度課長	村田真
施設課長	真鍋誠
情報システム管理課主任	前田卓郎
診療情報課長（兼務）	古谷英理
企画課長	門田紘和
臨床支援課長	門田美紀
在宅部	
在宅部長	廣井三紀
在宅副部長	廣田明美
在宅部課長（兼務）ケアサポートセンターほそぎ	池上美幸
在宅部教育担当課長	井上加奈子

在宅部	
訪問看護ステーションほそぎ主任	谷　脇　貴美子
通所リハビリテーションゆうゆう主任	筒　井　章　恵
ケアサポートセンターほそぎ主任	木　村　ま　り
ホームヘルパーステーション城西主任	高　島　恵美子
高知市上街・高知街・小高坂地域包括支援センター主任	筒　井　千津子
サービス付高齢者向け住宅イチゴいちえ主任	野　口　優　子
デイサービスいちご学校主任	藤　崎　明　美
デイサービス赤とんぼ主任	溝　渕　万希子
デイサービスさくらんぼ主任	山　口　三　喜
グループホーム担当係長 グループホームハッピー万々(兼務)	堀　本　佐　知
グループホーム赤とんぼ主任	明　神　絵　美
グループホームさくらんぼ主任	小　原　純　子
グループホーム西町主任	藤　野　めぐみ
訪問リハビリ事業所係長(兼務)	橋　田　寿　恵
グループホーム管理者･サービス管理責任者	坂　本　万　理

健康管理センター	
健康管理センター部長	森　下　延　真
健康管理センター（兼務）	中　路　達　也
ほそぎ入退院サポートセンター	
ほそぎ入退院サポートセンター長	西　岡　達　矢
ほそぎ入退院サポートセンター副センター長	柏　井　早生吏
入退院サポート室長	永　野　亜希子
患者サポート室長	辻　　美知子
医療安全管理室	
医療安全管理室長（兼務）	上　田　祐　二
医療安全管理者	門　田　季　香
院内感染対策室	
院内感染対策室長（兼務）	上　地　一　平
院内感染対策管理者	土　居　世　知
認知症対策室	
認知症対策室長　（兼務）	吉　岡　隆　興
認知症対策室看護師長（兼務）	中　山　充　代

職員数一覧　令和４年３月31日現在

医師	55
正看護師	254
准看護師	36
看護補助者（ヘルパー）	65
介護福祉士	110
薬剤師	12
診療放射線技師	8
臨床検査技師	18
臨床工学技士	3
歯科衛生士	2
デジタルアシスタント	1
精神保健福祉士	9
理学療法士	50
作業療法士	42
言語聴覚士	18
社会福祉士	9

臨床心理士	7
介護支援専門員	11
管理栄養士	12
栄養士	6
調理師・調理員	36
保育士	2
医療秘書	11
診療情報管理士	2
事務員	65
司書	2
技能員	18
健康運動指導士	1
音楽療法士	1
マッサージ師	2
案内・交換	3
計	871



細木病院　ＥＲ入口

日本医療機能評価機構
認定第 MB14 号

細木病院は、(財) 日本医療機能評価機構の定める認定基準を達成しています。
（平成12年の初回認定より、全国最多の連続５回更新認定病院のひとつです。）

医師一覧　令和４年３月31日現在

理事長（内科）	細　木　秀　美	
総合診療科		
総合診療科	深　田　順　一	
	上　田　祐　二	
	細　川　滋　俊	
	熊　谷　千　鶴	
内　科		
内　科	松　田　勇　蔵	
	篠　原　雅　幸	
	弘　瀬　祥　子	
	猪　狩　俊　介	
	古　賀　　仁	
循環器内科	細　木　信　吾	
	山　本　哲　史	
	西　本　美　香	
	宮　地　　剛	
	古　川　敦　子	
呼吸器内科	小　林　　誠	
	森　下　延　真	
	弘　瀬　祥　子	
消化器内科	上　田　祐　二	
	中　内　昌　仁	
糖尿病･内分泌内科	西　岡　達　也	
	熊　谷　千　鶴	
	丸　山　　博	
	篠　原　雅　幸	
内科	寺　田　典　生	（非常勤）
	菅　沼　成　文	（非常勤）
	廣　瀬　　享	（非常勤）
	西　山　　充	（非常勤）
	田　口　崇　文	（非常勤）
	品　原　正　幸	（非常勤）
	森　下　美智子	（非常勤）
小児科		
小児科	新　井　淳　一	
	細　川　卓　利	
	堂　野　純　孝	
	中　岡　祐　子	
	齊　藤　由　実	（非常勤）
	竹　内　愛　那	（非常勤）
	藤　枝　幹　也	（非常勤）
	玉　城　　渉	（非常勤）
	島　崎　真　弓	（非常勤）
	高　橋　一　平	（非常勤）
	森　下　祐　介	（非常勤）
（北館）こころのセンター		
精神科・心療内科		
精神科	吉　岡　隆　興	
	徳　岡　雅　嘉	
	河　野　ちひろ	
	藤　原　維斗彦	
	小　南　博　資	（非常勤）
	樫　林　哲　雄	（非常勤）
	河　合　　亮	（非常勤）
内　科		
内　科	松　田　幸　彦	

外　科		
外　科	上　地　一　平	
	中　村　衣　世	
乳腺・甲状腺	尾　﨑　信　三	
血管外科	西　村　哲　也	
化学療法･緩和ケア科	安　藤　　徹	
外　科	安　藝　史　典	（非常勤）
脳神経外科		
脳神経外科	栗　坂　昌　宏	
	上　羽　哲　也	（非常勤）
整形外科		
整形外科	北　岡　和　雄	
	山　川　晴　吾	
	山　中　陳　靖	
	五十嵐　陽　一	
	池　内　昌　彦	（非常勤）
	武　政　龍　一	（非常勤）
	喜　安　克　仁	（非常勤）
	泉　　仁	（非常勤）
耳鼻咽喉科		
耳鼻咽喉科	楯　　敬　蔵	
放射線科		
放射線科	耕　﨑　志　乃	
	新　田　紀　子	（非常勤）
	吉　松　梨　香	（非常勤）
	松　本　知　博	（非常勤）
皮膚科・形成外科		
皮膚科･形成外科	野　田　理　香	（非常勤）
麻酔科		
麻酔科	畠　中　豊　人	
ペインクリニック	細　川　滋　俊	
麻酔科	橘　　壽　人	（非常勤）
病理診断科		
病理診断科	山　﨑　義　一	
泌尿器科		
泌尿器科	蘆　田　真　吾	（非常勤）
	山　本　志　雄	（非常勤）
	大河内　寿　夫	（非常勤）
歯　科		
歯　科	細　木　弓　子	
健康管理センター		
健康管理センター	森　下　延　真	
	平　川　充　保	（非常勤）
	大　黒　太　陽	（非常勤）
研修医		
研修医	飯　沼　未　来	
	伊　賀　亮　平	
	窪　　渉	
	吉　村　理　愛	
	中　嶋　桃　子	
	高　田　　玲	
	赤　尾　　敦	
	足　立　大　輔	

診療部



総合診療科



院長
深田　順一



副院長
上田　祐二



麻酔科・ペインクリニック部長
総合診療科科長
細川　滋俊



総合診療科副部長
熊谷　千鶴

1 活動内容・目標に対する達成状況

本院の総合診療科は平成27（2015）年「あらゆる患者を診察し、トリアージする」を目標に旗揚げされ、平成30（2018）年には新しい国の専門医制度で総合診療専門医を養成する高知家総合診療専門プログラム連携施設となった。初診において主訴からはどの科を受診すればよいのかわからないような場合、全人的医療の立場から診察を行い、必要に応じて他科に診察を依頼し、以後の適切な治療へとつなげることが当科の目的である。一般内科においても既知のさまざまな領域の内科的疾患をもつ患者に対し、一人の内科医師が総合的に診療を継続していく。したがって総合診療科と一般内科は重複する部分も多いが、総合診療科は内科的疾患に限定しないところが最も大きな相違となるだろう。

2 今後の課題

1．総合診療専門医の専攻医研修受入体制を構築することが喫緊の課題である。
2．在宅医療との連携を強化する。

3 常勤医師の氏名

深田　順一
上田　祐二（～令和４年３月31日）
熊谷　千鶴
細川　滋俊

（文責：総合診療科科長　細川　滋俊）

一般内科


理事長
細木　秀美


名誉副院長
松田　勇蔵


内科副科長
篠原　雅幸


内科長
弘瀬　祥子


内科医師
猪狩　俊介


内科医師
古賀　仁

循環器内科


副院長
ハートセンター長
細木　信吾


循環器内科部長
山本　哲史


心臓リハビリテーション科部長
西本　美香


循環器内科長
宮地　剛


循環器内科長
古川　敦子

1 活動内容・目標に対する達成目標

外来における、患者の訴えに沿った診療、および循環器疾患の早期発見、治療。

一次予防、二次予防のための患者教育を含めた治療介入。他院から紹介患者を幅広く受け入れ、より円滑な病診連携体制の構築。救急患者の受け入れ体制の拡充。

細木信吾ハートセンター長以下、西本美香医師、宮地剛医師、古川敦子医師、山本哲史の５名体制でより幅広い患者さんの受け入れを行ってきた。ドクターカーの運用の開始により、近隣のみならず比較的遠方の紹介医の先生方からの搬送要請も徐々に増え、非常に好評をいただいている。また、当科通院中の患者から夜間・休日の受診の希望があった際、ＥＲ看護師から循環器当番医師へ直接連絡を入れる体制を取った。これにより患者が他院に受診することもなくなり、患者安心にもつながった。循環器疾患での救急隊からの受け入れ要請に対してもこの体制で応えていきたい。また、定期的に行っている『こうち循環器アライアンス』という循環器に特化した研究会も継続している。毎回の勉強会のテーマについても地域の先生方からリクエストをいただけるようになり、より強固な信頼関係が構築されつつある。一方、高齢心不全患者では入院に伴う日常生活活動レベル（ＡＤＬ）の低下が、予後の悪化につながるが、当院ではケアミックス病院の強みを活かし、入院中に十分なリハビリテーションを行い、ＡＤＬの低下を最小限に食い止めている。また外来心臓リハビリテーション（心リハ）へとつなげることでＡＤＬの維持、向上が可能で心不全再発の予防に貢献している。高齢で交通手段がなく心臓リハに通うことが困難であったケースもあったが、現段階ではごく限られた地域ではあるが患者送迎を導入し、これを解決した。

この１年間はコロナ感染症のために多くの制約が課され、症例数という意味では制限されたが、外来患者数は9,519名（令和２年度8,379名）、心リハ件数は2,611件(同1,168件)と大きく伸ばすことができた。しかし、コロナ禍による入院制限もあり、残念ながら新規入院患者数は590名（同631名）と減少した。

2 今後の課題

令和４年度には第２カテ室が稼働し、心リハ室は拡充され、心エコーなどの検査スペースも拡大が予定されている。より多くの患者の受け入れが可能になり、検査数の増加が期待される。これらを十分に活かすためには、例年同様であるが、さらなる外来／入院患者さんの獲得が重要である。近隣の先生方で非常に御交誼をいただいている先生方が増えてきているが十分とは言えない。前述の『こうち循環器アライアンス』などの勉強会で当科の特色をより深く御認識いただく必要がある。何よりも丁寧な診療と情報提供を心掛け、近隣の先生方の信頼を得なければならない。救急隊からの信頼も重要で、当院他科の医師とも協力し、断らない救急体制の構築が急務である。

これまでも循環器医療で最も重要なチーム医療、他職種協働でのより良いチーム作りに努めてきた。これに応え、向上心あふれるコメディカルスタッフたちが技術や知識を磨き、また、豊かなコミニュケーション能力を発揮し、チーム内、そして多くの患者たちとも

良好な人間関係・信頼関係を築いてきた。これからは心不全のパンデミックの時代である。入院・外来で心不全患者を包括的に管理するチームが必要となってくる。このためにさらに必要な職種も加え、より成熟したチームへと展開させていく。

3 常勤医師氏名

細木　信吾（ハートセンター長）
西本　美香（部長）
山本　哲史（部長）
宮地　剛（科長）
古川　敦子（科長）

（文責：循環器内科部長　山本　哲史）

呼吸器内科


名誉副院長
小林　誠


健康管理センター部長
森下　延真


内科長
弘瀬　祥子

1 活動内容・目標

1．外来診療（気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患が中心）
2．喘息と慢性閉塞性肺疾患（ＣＯＰＤ）吸入指導についての医薬連携

2 今後の課題

1．高次医療機関との病病連携強化に努める。
2．喘息・ＣＯＰＤの患者さんに対する吸入療法に関し、コメディカル・周辺薬局との吸入手技向上のための連携を深める。
3．慢性重症喘息のバイオ製剤による治療の促進を可能な範囲で行う。
4．まとめ

　コロナ感染が続く中、有熱の患者さんに対応する有熱外来担当の先生方には第一線でコロナ検査で引き続きお世話になっているのが実情です。

　当科外来では咳が長引くとの訴えで受診される患者さんが多く、可能な範囲で対応しています。その中で頻度の高い喘息や咳喘息の診療に有益な呼気一酸化窒素（ＦｅＮＯ）測定装置をいち早く導入し診療に生かしています。コロナ感染が県内でも増えた影響で受診者数は前年度に引き続き減少傾向がみられます（図１）。

　慢性咳嗽の診療では気管支・肺病変を伴う喘息や副鼻腔気管支症候群の患者さんが散見され、胸部ＣＴに加えて副鼻腔のＣＴも取らせていただき、より正確な診断を期して、より有効な治療に結び付ける努力をしていきます。

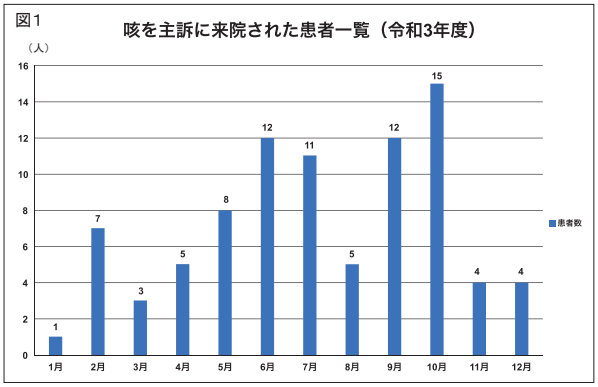
　喘息・咳喘息の外来治療に関しては、吸入ステロイド（ＩＣＳ）＋長時間作用性β２受容体刺激薬（ＬＡＢＡ）気管支拡張薬の２剤一体型吸入配合剤が登場して久しく喘息の治療管理が以前に比較して容易となっていましたが、さらに最近ではＩＣＳ＋ＬＡＢＡ＋長時間作用性抗コリン薬（ＬＡＭＡ）の３剤一体型吸入薬が新たに登場してきており、症例を選べば喘息・咳喘息・ＣＯＰＤに加えて慢性咳嗽の治療に一層の進歩がもたらされています。一方、頻繁に悪化を起こししばしば予定外受診されたりステロイドの内服がたびたび必要な重症喘息に対する高度の治療として、生物学的（バイオ）製剤（ゾレア®、ヌーカラ®など）月１～２回の注射による治療が最近少しずつ普及してきています。中には劇的な効果を実感する症例も増えており、症例によっては治療の選択肢としてお勧めしています。

　医薬連携として、喘息とＣＯＰＤの患者さんについて、各種の吸入デバイスの吸入手技の指導に関して近森病院との共通の指導評価箋を作成して取り組んでいます。コロナで十分な対応が困難となっていますが、今後も可能な範囲で継続していきたいと考えています。

3 常勤医の氏名

森下　延真
弘瀬　祥子
小林　誠

図1



（文責：名誉副院長　小林　誠）

消化器内科



診療部長／消化器内科部長
中内　昌仁



副院長
上田　祐二

1 活動内容・目標に対する達成状況

消化器内科は食道・胃・十二指腸・大腸などの消化管と肝臓・胆のう・膵臓を対象として診療を行っている。上記臓器に由来すると考えられる症状を有する患者さん、検診などでこれらの臓器の異常を指摘された方が診療の対象となる。適切な問診などにより情報収集に努め適宜、血液・尿検査、画像検査などを実施して診断をし、必要時には治療を行う。画像検査には腹部エコー、腹部ＣＴ･ＭＲＩ、上部消化管内視鏡検査･下部消化管内視鏡などがあり、できる限り待ち日数を少なくするように努めている。内視鏡検査は経験豊富な内視鏡医が担当し、必要時には鎮静剤を使用し苦痛の少ない検査を目指している。

2 今後の課題

消化器内科医１名が令和４年３月をもって退職したため、消化器内科診療全般において少なからず影響が出ているが、みんなで力を合わせて診療を行っている。特に内視鏡検査においてはリピーターを増やすべく、さらに苦痛の少ない・的確な診断ができる内視鏡検査を目指したい。

3 常勤医師の氏名

上田　祐二
中内　昌仁

4 非常勤医師の氏名

廣瀬　享（高知大学医学部附属病院第一内科）

（文責：副院長　上田　祐二）

糖尿病・内分泌内科



副院長
糖尿病･内分泌内科部長
ほそぎ入退院サポートセンター長
西岡　達矢



総合診療科副部長
熊谷　千鶴



内科副部長
丸山　博



内科副科長
篠原　雅幸

1 活動内容・目標に対する達成状況

1．糖尿病については、主に４名の常勤医師および週一回半日三愛病院から　１名の医師の協力を得て診療を行っている。健診で新たに見つかった、あるいは他院から紹介された患者さんに柔軟に対応している。個別指導としては、栄養指導は随時行っており、加えて糖尿病透析予防指導42件、フットケア21件、インスリン初期導入指導26件を行っており昨年度に比べ大きく件数を伸ばしている。入院診療として糖尿病教育入院（２週間コース６例、１週間コース３例）や血糖コントロールのための入院などを行っている。しかし相変わらず続くコロナ禍という非常事態のために、恒例であった年１回の糖尿病セミナー、年２回の糖尿病ウォーキングは開催できないままとなっている。また多職種で構成する療養担当スタッフ（糖尿病チーム）が参加する毎週木曜夕方のmeetingは、感染リスクを避けるため教育入院のある週のみ開催している。まだまだウィズコロナの状況は続いておりコロナ前に戻ることは期待薄であるが、引き続き医師、糖尿病療養指導士、関係するスタッフで質の高い糖尿病診療・指導を行っていきたい。

2．内分泌疾患診療については、引き続き高知大学からの２名の非常勤医師に多大な協力をいただきながら、患者数の多い甲状腺疾患を中心に下垂体疾患、副腎疾患の診療に当たっている。

2 今後の課題

コロナ禍にあっても

1．糖尿病については引き続き、チームとしての療養指導力を強化し、診療充実に努めていく。

2．学会、研究会は大きく制限されているが、ＷＥＢも利用しながら、医師、コメディカルともに新し

い知見を得ることに努め、診療に活用していくよう研鑽する。

3 常勤医師の氏名

西岡　達矢
熊谷　千鶴
丸山　博
篠原　雅幸

4 非常勤医師の氏名

田口　崇文（高知大学内分泌代謝・腎臓内科）
西山　充（高知大学保健管理センター）
品原　正幸（三愛病院）

（文責：副院長　西岡　達矢）

小 児 科



小児科部長
新井　淳一



神経小児科部長
細川　卓利



小児科副部長
堂野　純孝



小児科医師
中岡　祐子

1 活動内容・目標に対する達成状況

1．小児科一般診療（外来、入院）、内分泌、糖尿病、発達、神経、腎、循環器、アレルギー疾患などの専門診療
2．新型コロナウイルス感染症の流行があり、小児有熱外来枠を新設した
3．健診事業（1歳6カ月、保育園の定期健診）、各種予防接種
4．臨床研修医、学生実習教育、各種学会・研究会での発表や参加
5．大学での学生講義
6．救急、時間外医療への参加（平日夜間、休日のあんしんセンター勤務）
7．小児1型糖尿病サマーキャンプ、プラダーウィリー症候群親子キャンプは新型コロナウイルス感染症流行のため実施されず

令和2年と同様に今までの診療活動に加え、新型コロナウイルス感染症の流行に対応して感染症小児患者は小児有熱外来（濃厚接触者など新型コロナ感染の疑いが強い場合や、保護者に感染症状がある場合は　1階の有熱外来）、慢性疾患・非感染性の疾患は専門外来と診療場所を変えて診療体制を維持した。外来患者数は受診控えや院内患者クラスターなどの影響もあり減少した。また外来患者数の減少と入院制限などの影響から小児科入院数は減少した。

2 今後の課題

1．予約診療システムが周知され、飛び込みの外来患者数が減り、一般診療での待ち時間は短縮した。今後も診療体制を維持することが必要。
2．新型コロナウイルス感染症流行への対策として小児有熱外来を維持しながら、各専門外来診療、4階で実施している予防接種など患者さんからのニーズに応えた体制の維持が必要。
3．診療時のトラブルは最小限に維持すること。
4．将来的には医師の高齢化に対応すること。

新型コロナウイルス感染症などによる予期できない診療体制の変化に対応できるよう、柔軟に運用する。数年後を見据えて小児科外来、小児科病棟運用については、現在可能なこと、必要なことを着実に行っていく。

3 常勤医師の氏名

新井　淳一
細川　卓利
堂野　純孝
中岡　裕子

4 非常勤医師の氏名

斎藤　由実
竹内　愛那
島崎　真弓
藤枝　幹也
玉城　渉
大学病院医師

（文責：小児科部長　新井　淳一）

化学療法・緩和ケア科



化学療法･緩和ケア科部長
安藤　徹

1 活動内容

平成19年１月より、治癒不能がん患者の全人的苦痛の治療のために、緩和ケア外来が外科の一部として開設されたが、平成22年４月からは化学療法・緩和ケア科の新設に伴い独立した診療科として活動している。

専任の担当医は一人ではあるが、緊急時などには外科スタッフの協力を得ながら診療を行っている。

治癒不能のがんに対して、苦痛緩和だけではなく化学療法から緩和ケアへの途切れのない医療の提供を目的としており、患者の希望に応じて標準的な抗がん治療も行っている。

令和３年度の入院・通院を合わせた化学療法・緩和ケア診療の問い合わせは70件（院外67件、院内３件）で、院外からの問い合わせのうち入院の相談が31件であった。実際に外来受診されたのは38名だった。緩和ケア目的で入院された方は、院内紹介と院外紹介を合わせて16名であった。これは例年に比べてかなり少ない。

診療患者数が減少した原因は、新型コロナウイルスまん延に伴って、当院の緩和ケア診療を取り巻く状況が変化したために他ならない。

入院患者に対しては、今までは主としてポピー病棟で治療を行い、緩和ケアに特化した知識と技量を備えた専門性の高いスタッフを集めてホスピス病棟として対応していたが、令和２年12月に発生した新型コロナウイルス院内クラスターを発端とした人的資源の不足に対応するため、同月以降ポピー病棟は閉鎖されている。クラスターが終息したのちもホスピス病棟として再開せず、同病棟を感染者の受け入れ可能な施設に改装して、新型コロナウイルス感染患者の入院診療施設として使用している。このため緩和ケア対象で入院が必要となった患者は新２病棟・新３病棟などの一般病棟での入院で対応しているが、専門性が十分に担保できないところもあり、他院のホスピス病棟への転院を希望する患者もみられる。

2 今後の課題

新型コロナウイルスのまん延により令和２年度から診療体制の大幅な変更を余儀なくされていた。入院での緩和ケア対応が十分にできないため、外来通院で対応する患者にも制限をかけざるを得なくなり、新規患者数は大きく減少していた。しかし、令和４年７月から、南３病棟を緩和ケア病棟に変更し、入院での緩和ケアが十分にできる体制が整えられた。高知県全体では一定のがん患者数があり緩和ケアのニーズは依然として高いと考えられるので、当院でも今後は緩和ケアの新規患者数の増加が見込まれる。だが、かつてポピー病棟で緩和ケアに当たっていた看護師の多くがこの２年弱の間に退職していることもあり、現状では以前と同様の医療サービスを提供するには至らない。職員教育などにより南３病棟でのサービス内容を充実させていくことが次年度の課題となるだろう。

3 常勤医師

安藤　徹（化学療法・緩和ケア科　部長）

（文責：化学療法・緩和ケア科部長　安藤　徹）

外　　科



副院長
上地　一平



医局長／外科部長
尾﨑　信三



血管外科部長
西村　哲也



外科医師
中村　衣世

1 活動内容・目標に対する達成状況

1．大腸がんの手術が増加した。
2．腹腔鏡下胆のう摘出術の手術症例が増加した。
3．痔核の手術症例が増加しない。
4．コロナの影響で伊藤乳腺クリニックからの紹介患者さんが減って、乳がんの手術症例が減少した。
5．コロナ禍で手術を控えた時期もあったが、結果的に手術件数はそれほど減少しなかった（133→130例）。

2 今後の課題

1．痔核手術（特にアルタ療法［硬化療法］）を増加させる。
2．尾﨑外科部長が日本乳癌学会の専門医を取得したので、乳腺疾患症例の増加が期待できる。
3．血管外科では血管エコーなどを増やし、ＥＶＴ症例の増加に寄与する。

3 常勤医師の氏名

尾﨑　信三
上地　一平
西村　哲也
中村　衣世

（文責：副院長　上地　一平）

脳神経外科



脳神経外科部長
栗坂　昌宏

1 活動内容

平成22年５月１日より、栗坂が常勤医として着任し、外来および入院診療を開始して12年が経過した。

外来は当初より、頭痛、めまい、耳鳴症、てんかん、正常圧水頭症、認知症、頭部外傷、三叉神経痛、顔面痙攣、脳腫瘍、未破裂脳動脈瘤、脳卒中後遺症、高血圧症などが多く、小児から高齢者まで幅広く診療している。

入院は脳卒中患者さんを中心に、慢性硬膜下血腫や正常圧水頭症など軽症の患者さんで占められている。平成の終わりとともにmajor surgeryを辞退し、ほとんどの手術患者さんを大学病院に紹介しているせいである。救急外来があり、総合診療科があり、麻酔科医が常勤しながら、救急外来での脳卒中患者がことごとく他院へ転送されている。検査では、ＭＲＩ、３Ｄ－ＭＲＡ、ＭＤ－ＣＴＡのほか海馬の容積を測定するＶＳＲＡＤが主体となっており、いまだＤＳＡは行えていない。

2 今後の課題

救急病院として再スタートを切って８年が経ち、常勤麻酔医も２名着任して、頭部外傷や脳内出血、くも膜下出血などの緊急手術が可能となってはいるが、スタッフの関係で緊急のmajor surgeryはできていない。大学の脳神経外科も９年が経過し、スタッフも増えつつある。症例数も増加し、日々躍進が期待されている。入局者も増えてきつつあり、明るい展望が現実となっている。今年からは、脳腫瘍や脳動脈瘤などのmajor surgeryがほとんど大学送りとなり、全体的にも薬物療法が優先され、手術件数が減少している。

以前は、major surgeryに際して、大学から手伝いに来てもらっていたが、これらの手術を行わなくなり、緊急手術を含め入院患者も少ない。手術適応患者がいても大学病院ほか他院送りとなっており、超急性期脳梗塞でさえ他院送りになっている。手術のみならず入院患者についても減少の一途をたどっている。経営面から推察すると、稼働率を上げるためには手術数を増やすことが必須であることを物語っている。上羽教授が非常勤医師として脳神経外科外来の診療の一端を担ってくださっている関係で、問題のありそうな患者さんは検討の上、直ちに大学で精査し、結論を出して処置していただいている。これからもこのスタイルでの診療が続くことになる。今年は慢性硬膜下血腫や正常圧水頭症に対するＶ－Ｐシャントなどの緊急手術も行っていない。前者は漢方薬が奏功するので手術適応が激減している。来年度も、外科としての発展はとぼしく、神経内科的な要素が増えてきそうである。

3 まとめ

これからも今まで通り、先天奇形から悪性脳腫瘍の集学的治療まで幅広い治療を展開するが、緊急手術を含む脳神経外科手術は大学病院任せとなる。ただコロナ禍にあっても受診患者数があまり変動しなかったのは当科の特徴であろうか？

4 常勤医師

栗坂　昌宏

5 非常勤医師

高知大学脳神経外科　教授
上羽　哲也

（文責：脳神経外科部長　栗坂　昌宏）

整形外科


名誉副院長
北岡　和雄


リハビリ･整形外科部長
山川　晴吾


整形外科部長
山中　陳靖


整形外科医師
五十嵐　陽一

1 活動内容・目標に対する達成状況

常勤医師は令和３年９月より１人増えて４人体制となった。非常勤医師は前年度から継続して、外来診療および手術に貢献していただいている。多少のコロナの影響はあるものの、診療実績および手術件数では大きな変化は見られない。

2 今後の課題

常勤医師数は増加したが、常勤医師高齢化による診療への影響を解消するためには、さらなる常勤医師の確保も必要と考える。また終わりの見えないコロナによる診療や手術への影響を最小限でくい止める新たな策も必要となるだろう。

3 常勤医師の氏名

北岡　和雄
山川　晴吾
山中　陳靖（令和３年９月１日就任）
五十嵐　陽一
（令和３年４月１日～令和４年３月31日）

4 非常勤医師の氏名

高知大学医学部整形外科
池内　昌彦（教授）
武政　龍一
（令和３年４月１日～令和４年３月31日）
喜安　克仁
泉　仁

（文責：リハビリ・整形外科部長　山川　晴吾）

耳鼻咽喉科


耳鼻咽喉科部長
楯　敬蔵

1 活動内容・目標に対する達成状況

1．火曜日午後、水曜日午前は有熱外来を担当中です。ほぼ予約枠いっぱいの患者さんが受診されます。コロナ感染症に関してはまだ先行き不明のため今後も今しばらく有熱外来は継続されると思われます。心境としては複雑ですが、有熱外来を担当していることで、耳鼻咽喉科の診療単価自体は増えています。
2．有熱外来で診察した患者さんを含めた延べ患者数は令和２年には3,778名でした。令和３年には3,365名となり今後もこの数字で推移するものと思われます。コロナ以前の5,500名前後の純粋な耳鼻咽喉科受診患者数に戻るのは困難な状況です。

2 今後の課題

1．新患患者さんが徐々に増えてきている印象はあります。再度受診したいと思っていただけるよう患者さんに納得していただける診療を心掛けたいと考えています。
2．摂食嚥下支援チームが発足しました。口から食べられることは何歳になっても大切なことです。無理がなく、安全に経口摂取ができるようになることを目指し、検査、訓練を行います。

3 常勤医師の氏名

楯　敬蔵

（文責：耳鼻咽喉科部長　楯　敬蔵）

放射線科



放射線科部長
耕﨑　志乃

1 活動内容・目標に対する達成状況

1．全ＣＴ、ＭＲＩ検査に対する読影２次加算の取得達成（常勤放射線科医の読影率100％）。
単純ＣＴ　2,657件、造影ＣＴ　261件、心臓ＣＴ　194件：総ＣＴ　3,112件
単純ＭＲＩ　2,136件、造影ＭＲＩ　111件：総ＭＲＩ　2,247件
総ＣＴ＋ＭＲＩ件数　5,359件（令和２年度5,479件より120件減）
他施設からの紹介件数
ＣＴ　252件（令和２年度より１件増）（紹介率　7.9％　令和２年度より0.2％減）
ＭＲＩ　384件（令和２年度より69件減）（紹介率　15.9％　令和２年度より1.8％減）
ＣＴ＋ＭＲＩ　636件（令和２年度より68件減）（紹介率　11.3％　令和２年度より1.0％減）
単純写真読影依頼　199件（アズマ耳鼻咽喉科からの依頼74件を含む　令和２年度より64件減）

2．令和元年度までは自己研鑽・自己啓発として、年に１回以上全国区での学会発表を行ってきたが、令和２年度以降は新型コロナウイルス感染症の流行の影響で県外への移動は自粛し、学会・講演会・研究会はリモート参加した。令和３年度の発表は控えた。

3．画像カンファレンスは休会となり、若手への教育の機会が極端に減少してしまった。興味深い症例は研修医や若手医師とともに数例を供覧した。

2 今後の課題

1．令和４年度以降も画像診断管理加算認証制度申請し、認定を受ける。

2．リモート開催やハイブリッド開催へと移行した学会や研究会に、自己研鑽のため、専門医維持に必要な単位取得のため、積極的な参加を心掛ける。

3．画像カンファレンスが休会となってしまっても、興味深い症例は適宜医局やＣＴ／ＭＲＩ読影室で研修医や若手医師と供覧し、学習の機会できるだけ増やすよう心掛ける。

3 常勤医師の氏名

耕﨑　志乃

4 非常勤医師の氏名

松本　知博
　高知大学医学部放射線診断科　火曜日午前
新田　紀子
　高知大学医学部放射線診断科　火曜日午後
吉松　梨香
　高知大学医学部放射線診断科　木曜日午後

（文責：放射線科部長　耕﨑　志乃）

皮膚科・形成外科



皮膚科･形成外科医師
野田　理香

1 活動内容・目標に対する達成状況

一般皮膚診療が主体であるが、昨年高知新聞「所感雑感」に治療方針や取り組みが掲載されたことによって、栄養指導や食事に興味を持たれる患者さんが少し増えている。

昨年目標に掲げた説明資料の作成はできていない。

コロナワクチン接種後の帯状疱疹、湿疹、脱毛、それ以外の副作用相談も数件あった。

2 今後の課題

令和３年４月に月曜日の診療時間を減らした際、午前・午後ともに診療できるように診療時間を11時～15時としたが、医療秘書さんの配置がなく診察効率が悪くなった。令和４年４月からは午後診療のみにして、医療秘書さんの配置をお願いし、診察効率が改善できるように変更します。

残留農薬、添加物、遺伝子組み換え食品･･･一般医学では言われていませんが、ネオニコチノイド系農薬、グリホサートなど多くの研究もされており、先生方や県民の皆さまに知っていただけるように活動していきます。

3 非常勤医師の氏名

野田　理香

（文責：非常勤医師　野田　理香）

麻酔科



麻酔科部長
畠中　豊人



麻酔科・ペインクリニック部長
総合診療科科長
細川　滋俊

1 活動内容・目標に対する達成状況

1．手術室における麻酔業務

全身麻酔（吸入麻酔）	193件
全身麻酔（完全静脈麻酔＜ＴＩＶＡ＞）	3件
全身麻酔（吸入）＋硬背伝麻	64件
全身麻酔（＜ＴＩＶＡ＞）＋硬背伝麻	4件
脊髄くも膜下麻酔	6件
その他	4件
総計	274件

2．目標と達成率（令和３年度症例数／各年度症例数　比　％）

平成28年度の麻酔科管理症例数
　344件に対して　79.65％
平成29年度の麻酔科管理症例数
　386件に対して　70.4％
平成30年度の麻酔科管理症例数
　332件に対して　82.53％
令和元年度の麻酔科管理症例数
　280件に対して　97.85％
令和２年度の麻酔科管理症例数
　266件に対して　103.0％

目標は令和２年度の症例数であったが、これは103％と何とか達成できた。

3．痛みの外来（ペインクリニック）（細川滋俊先生担当）

業務実績	R3年度	R2年度	R1年度	H30年度
硬膜外ブロック	118件	110件	114件	92件
トリガーポイント注射	114件	80件	154件	77件
星状神経節ブロック	21件	10件	15件	19件
その他の末梢神経ブロック	36件	53件	19件	14件
延べブロック注射数	289件	253件	302件	202件
延べ患者数	508人	440人	448人	337人

達成率（令和３年度／各年度　比　％）

平成30年度の延べブロック注射数
　202件に対して　143.6％
平成30年度の延べ患者数
　337人に対して　150.74％
令和元年度の延べブロック注射数
　302件に対して　95.69％
令和元年度の延べ患者数
　448人に対して　113.39％
令和２年度の延べブロック注射数
　253件に対して　114.22％
令和２年度の延べ患者数
　440人に対して　115.45％

2 今後の課題

1．平成30年度から下がる一方であった麻酔科管理手術件数は、令和３年度にやっと復活の兆しが見えてきたが、終盤での度重なるコロナ禍のため、上昇幅はわずかに終わった。
2．しかしながら、コロナ禍のある程度の終息が見えれば、令和４年度には飛躍的な躍進も夢ではないと、希望を抱かせるものであった。
3．毎年、この場を借りて訴えていることではあるが、当院麻酔科は年間400～500症例の麻酔をこなす力を有している。しかしながら、今はまだその半分ほどの力しか発揮できておらず、はなはだ残念であると同時に、地域の皆さまに、申し訳ない気持ちでいっぱいである。
4．このような、停滞感を突き崩すためには、外科系の先生方と協力して、よりたくさんの手術をこなしていくしかないと思われる。
5．ペイン外来については、コロナ禍の患者数減少の影響をものともせず、令和３年度は大きく患者数、ブロック数ともに伸ばすことができた。ある程度、地域の患者さまや、他病院や他科の先生方にもペイン外来が認知されてきたことも踏まえ、さらなる発展が望めると考えられる。

3 常勤医師の氏名

畠中　豊人（ハタケナカ　シゲト）
細川　滋俊（ホソカワ　シゲトシ）

4 非常勤医師の氏名

橘　壽人（タチバナ　トシヒト）
井本　明伸（イモト　アキノブ）

（文責：麻酔科部長　畠中　豊人／細川　滋俊）

歯　科



歯科医師
細木　弓子

1 活動内容・目標に対する達成状況

令和２年10月に歯科用パノラマ・ＣＴ撮影装置の導入により、一般外来枠の増加が望めるようになったため、歯科診療の枠組みを変えていく取り組みを令和３年度に行いました。令和３年９月に、２人目のベテラン歯科衛生士、濵田身奈さんを迎えました。一般歯科医院とは異なる部分が多く、戸惑われる部分も多かったかと思いますが、私からすると、一般歯科医院でのスピードの速さを目の当たりにでき、彼女の経験を生かした、患者さんの流れを新しく築くことができ、診療スピードの適正化に大きく貢献してくれたと評価しています。また、10月には、歯科レセプトコンピューターに予約システムを導入し、こころのセンター医事課でも、歯科予約をＰＣでアクセスし、取ることが可能となりました。電話での対応の多い、歯科衛生士の業務負担が軽減されましたので、医事課の方々のご協力に心から感謝いたします。11月には、念願の２台目歯科ユニットを増設できました。また、麻酔科の畠中先生より、ご要望いただいておりました口腔内診査は、歯科衛生士の増員により、お受けすることが可能となりました。全身麻酔下での術中トラブルの回避および、誤嚥性肺炎予防に取り組み、口腔内を清潔に保つ事の必要性をご説明し、かかりつけ歯科のない方には、ご希望があれば口腔内のクリーニングを歯科診療室、または、状況に応じて入院時に訪室し、処置する動きが始まりました。中には、忙しくて、歯科受診を長年されておらず、「入院中に歯科受診できるなら、ありがたい」と言う喜びの声もいただきました。また、入院患者さんの中には、緊張されている方も多く、術前検査の際に口腔内の説明を行った歯科衛生士が病室を訪問すると、「知っちゅう顔に会えてホッとした！」と言う安堵の声もいただき、歯科チーム一同、患者さんの心に少しでも寄り添えることができ、嬉しく思っております。これも全身麻酔におけるチーム医療の構築を推し進めてくださった、畠中先生をはじめ、外科・整形外科の上地先生、北岡先生をはじめ、諸先生方、外来看護師チーム、手術室看護師チーム、新３看護師チームのご協力の賜物とお礼申し上げます。令和３年12月も病棟訪室用ポータブルユニットを一台増やし、歯科衛生士２名が同時に処置できる体制が整いました。

こころのセンターご利用の方では、患者さんの社会復帰を継続させる目的で「あたたかく接してもらえる」と言われて、当科を御利用される方が増え、皆さま、継続してご来院いただいています。生活の中で経験したさまざまなことをお話ししてもらえるような環境をつくり、話題を共有していただけることも、歯科チームの喜びになっています。そして、「なんだか、少し様子がおかしい」と気づいた際には外来看護師と情報共有し、お一人お一人にアンテナを立てて、対応できるように努めています。

2 今後の課題

令和４年２月に発生した２回目のクラスター発生後より、歯科予約が取りにくくなりました。「エアロゾルが発生する歯科処置は歯科診療室もしくは個室」となり、寝たきりで大部屋の方は歯科介入が難しくなりました。歯科診療室での枠組みも同時間帯に同病棟患者のみとなり、外来患者との接触は禁止となっているため、患者診察数を増やせる体制は整いましたが、ユニットの空きが出る結果となり、診察数の向上は据え置きとなっています。次年度には何か対策を立てたいと思っています。

お口は身体の健康の基、口と身体はつながっている、身体と心はつながっていることを意識して患者さんを日々診療していきたいとの思いはますます強くなり、分子栄養学を取り入れるよう努力しています。今後、漢方の処方もできるよう準備しています。勉強したことを患者さんへ、職員の皆さまへ還元できるよう努めます。

3 常勤医師の氏名

細木　弓子

（文責：歯科医師　細木　弓子）

病理診断科



病理診断科部長
山﨑　義一

1 活動内容・目標に対する達成状況

1）令和３年度を含む過去３年間に実施した病理組織検査件数の推移は別表（P105）の通りで、院内検査総件数は一昨年よりの新型コロナウイルス感染症の影響で296件と減少した（対前年　－46件、13.5％減、対一昨年　－110件、27.1％減）。

2）内訳は内科（主として内視鏡）で影響が大きく、178件と２年続けて減少した（対前年　－36件、16.8％減、対一昨年　－101件、36.2％減）。外科は昨年と大差なく、その他の科は数件減に止まった。

3）外科99件のうち64件（64.6％）が乳腺症例（生検、切除生検28件を含む）で、乳腺手術37件のうちオープン・ベッド・システムで受け入れた乳腺手術が21件であった。

4）乳がん手術に際しての術中迅速病理診断は29件であった（昨年43件）。

5）大腸悪性腫瘍症例は14件と増加した（昨年７件）。

6）三愛病院よりの受託検査は８件と大幅に減少した（昨年22件）。

7）年２回のホルマリン作業環境測定では昨年までと同様良好な管理濃度が維持できた。

2 今後の課題

引き続き、病理組織検査を行った患者さんに対してできるだけ早く適切な治療に反映できるよう、迅速で精度の高い診断を提供するように努力していきたい。

3 常勤医師

山﨑　義一

（文責：病理診断科部長　山﨑　義一）

こころのセンター(北館)　こころ診療部

精神科



副院長・
こころのセンター長
吉岡　隆興



副こころのセンター・
精神科部長
徳岡　雅嘉



精神科医師
藤原　維斗彦

1 活動内容・目標に対する達成状況

時代に沿った新しい病院の姿として、細木病院と細木ユニティ病院が再統合し、新病院の精神科専門施設『こころのセンター』として、３年目に突入する。

『こころのセンター』は、統合失調症や気分障害などをはじめ、認知症の方が住み慣れた地域で日常生活を過ごせるよう参加しやすい環境を整え、“こころの時代”とも言える現代社会において、多職種連携による病院チームで、患者さんにとっての身近な存在として、こころのケアの実践に取り組む。

そのような中、地域のかかりつけ病院として、地域に貢献するためにはどうあるべきか、チームや組織力を上げるにはどうすればよいのかが問われる。

それには病院が地域の社会資源であるとの認識に立ち、常に清潔な医療環境の整備や職員の自己の資質と医療における技術や知識の向上に努め、病める人たちへの奉仕者の自覚をもち、地域への貢献を目指す。

また、一昨年から続くコロナウイルスの影響で、私たちの生活は一変した。当院として、引き続き、さまざまな感染防止対策を実行することで、院内での感染拡大を防ぎ、仮に感染が発生したとしても、最小限の被害で抑えることができるように病院全体が一丸となり、感染予防の意識を強く持ち実践する。

2 今後の課題

今後、『こころのセンター』の円滑な運営を目指すため、現在、進めている他の診療科と精神科の診療協力体制の構築や北館中棟の耐震対策事業を中心とした施設整備を直実に一年一年実践し、積み上げていくことが重要であり、大切である。

また、病院としての健全な経営を目指すべく、感染防止対策を実践しながら、外来や入院などの平常化に向けて取り組み、一昨年から続くコロナウイルスとの上手な関わりを手探りの中、模索する状況である。

最後に、掲げた理念『患者さんからも、地域からも、職員からも、この病院でよかったと心から思ってもらえる病院を目指します』に向けて、忠実に取り組み、これからも変わらず地域医療を担っていきたい。

3 常勤医師

吉岡　隆興センター長（精神科）
徳岡　雅嘉副センター長（精神科）
藤原　維斗彦医師（精神科）
河野　ちひろ医師（精神科）

4 非常勤医師

小南　博資医師（精神科）
樫林　哲雄医師（精神科）
河合　亮医師（精神科）

（文責：副院長・こころのセンター長　吉岡　隆興）

内科



名誉副院長・
こころのセンター内科部長
松田　幸彦

1 活動内容・目標に対する達成状況

活動内容は毎年報告していますように、精神科医と協力して患者の病状回復・悪化予防を図るのが内科の業務です。主に何らかの身体疾患を持って入院してくる入院患者に対してその治療を担当しています。

目標達成としては、令和３年「ノー・モア・コロナ」を掲げて入院患者からコロナ感染者発生はなかったことで良かったと考えます。入院患者は、ＣＯＶＩＤ－19検査陰性確認後入院となり、さらに潜伏期リスクを考慮して病棟で１週間の隔離措置をとるなど、コロナ患者が発生しても慌てないようにいろいろ工夫してきた結果だと思います。

2 今後の課題

引き続き、コロナ発生予防対策の継続に加えて、外来のコロナリスク患者の心肺蘇生実施手順習得が不十分であることに気付かされたため再勉強する必要性を実感しました。

患者の救命のみならず、救命対応医療者への感染予防・拡大・命の保全も確保するための最適な方法を考えます。

3 常勤医師の氏名

松田　幸彦

（文責：名誉副院長・こころのセンター内科部長
松田　幸彦）

細木病院研修医

医師臨床研修制度により、診療に従事しようとする医師は、２年以上の臨床研修が必修となっています。この研修期間中の医師を「研修医」といいます。

細木病院は、厚生労働省より基幹型臨床研修病院の指定を受けています。

研修医（２年目）

４名の研修医が２年間の初期臨床研修を
無事修了しました！

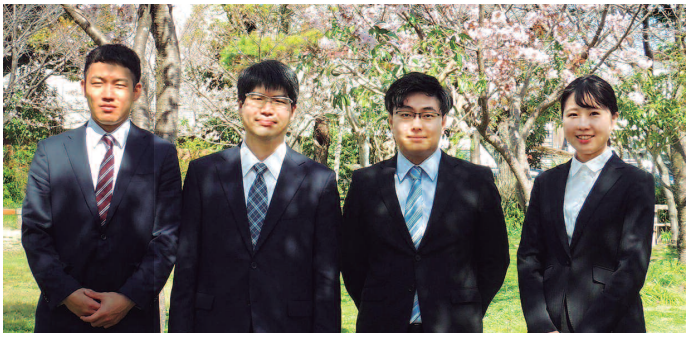
（右の写真）修了式
２年間の初期臨床研修を終えて
左から　伊賀亮平研修医、吉村理愛研修医、
（花束）　窪　渉研修医、飯沼未来研修医



研修医（１年目）

新採用研修医です！

左から、赤尾敦研修医、足達大輔研修医、
髙田玲研修医、中嶋桃子研修医



看護部



看護部長
豊田　邦江



副看護部長
岡﨑　千佐子



副看護部長
川田　留美



教育師長
山村　真智子

1 概要

部署形態：急性期一般病棟（12対１）１、地域包括ケア病棟１、回復期リハビリテーション病棟１、医療療養病棟２、障害者等一般病棟１、新型コロナ陽性者受け入れ病棟／緩和ケア病棟１、精神科急性期治療病棟１、精神科慢性期病棟２、重度認知症ケア患者デイ・ケア１、精神科デイケア１、外来２。

病 床 数：456床

所属長名：豊田　邦江

構成職員：

看護部長	１名
副看護部長	２名
教育師長	１名
合計	４名

2 2021（令和３）年度目標

コロナ禍で変化する医療や看護のニーズに対して柔軟に対応しつつ、看護の質向上に努めることをめざして５つの目標を立てた。目標１．新型コロナ対策を徹底し、看護部全体でクラスター発生防止に努める。目標２．細木病院看護部の組織強化を図る。目標３．細木病院全体の経営の安定・強化に参加する。目標４．疾病構造の変化に対応した診療体制の整備に参加する。目標５．働き方改革の推進と労働安全の確認。

3 目的・目標に対する取り組み

目標１では、有熱外来やリモート面会の対応など、コロナ対策チームと協力してさまざまな取り組みを行った。しかし２月に３つの病棟でクラスターが発生し、多方面に影響を与えた。また緩和ケア病棟は南５病棟として新型コロナ陽性患者の受け入れを行い、感染者数が減少した期間は緩和ケア病棟に戻すなど、感染状況に即した運営を行った。患者・家族の皆さんだけでなく、職員も含めて多くの方に協力をいただき、苦労もおかけしたが、看護部全員で地域のニーズに応えるべく努力した１年であった。

目標２では、令和３年11月より、細木病院とこころのセンター看護部は看護部長１名体制となった。師長業務の統一や委員会の一本化、人事異動の活性化など、管理体制の強化に努めた。特定研修修了者や認知症ケア認定看護師も誕生し、専門的看護の向上にも貢献してくれた。

目標３および目標４では、新３病棟の循環器内科患者の増加を想定し、令和４年２月に小児科入院を新２病棟へ、病後児保育室は北館１階に移動した。新３病棟はハートセンター患者数の増加に伴い重症度・看護必要度の高い患者が増加し、入院基本料１や夜間看護体制加算の取得などで経営的貢献をはたした。外来でも救急車受け入れやドクターカー出動が増加し、重度精神科デイアルテンでも利用者数を増やすなど、各部署が患者増に向け努力した。一方、病棟稼働率はクラスター発生の影響を受けて目標達成はできず、病院全体の今後の課題として取り組みを行っている。高知市、日高村、福寿園などで実施する新型コロナワクチン接種では看護職員が全面協力を行い、社会貢献と同時に収益増にも貢献した。

目標５では、２交代夜勤を希望する職員が増加し、仮眠場所の整備や多様な早出・遅出勤務の選択を可能にするなど、部署ごとの取り組みを支援した。一方、感染拡大の対応として病室内での個別ケアが増え、介護を要する部署では超過勤務が増えるなど、部署間差も生じている。

4 次年度の課題

コロナ禍で変化する医療や看護のニーズに対して柔軟に対応しつつ、専門的看護の提供に努めることをめざし、①新型コロナ対策を徹底し看護部全体でクラスター発生防止に努める、②細木病院看護部の組織強化を図る、③細木病院全体の経営の安定・強化に参加する、④疾病構造の変化に対応した診療体制の整備に参加する、⑤働き方改革の推進と労働安全の確保の５つの目標を挙げ、取り組むこととした。

（文責：看護部長　豊田　邦江）

教　育

1 2021（令和３）年度看護部教育目標

1．専門職業人として、看護・介護の実践能力を自ら高める看護要員を育成する。
　1）看護師が臨床における看護実践能力を高めるために、看護部のクリニカルラダーを活用しレベルアップを図り看護の質を高める。
　2）主体的に学び自己のキャリア開発ができ、看護・介護実践能力を高めることができる。
2．病院機能を理解して地域と連携し、個別性を重視した看護・介護を提供する。
　1）看護倫理に基づいた人間性と社会性を備え、地域に貢献できる看護要員を育成する。
3．安全・安楽な方法を判断できる看護要員を育成する。
　1)看護実践力を高め患者のニーズに対応した看護・介護ができる。
4．医療チームの一員としてよい人間関係を保ち自己の役割を果たし、社会人としての自覚・責任を持ち主体的に行動がとれる看護要員を育成する。
　1）新人看護師がチームの一員として、具体的な役割行動がとれるようにするため、新人看護師自らの努力と看護部全体で成長を支える環境を提供する。
　2）他の職種とコミュニケーションを図り、患者の人権を尊重した看護・介護を実践することができる。
5．看護基礎教育における実習施設の役割を果たすことができる。
　1）実習全般の情報を収集し臨床指導者の役割を果たすことができる。
　2）看護学生・研修生に合わせ実習環境を提供する。

2 活動報告

1．令和３年度は、新型コロナウイルス感染症（以下、コロナ）の感染状況により研修開催も影響を受けた。コロナ禍においても必要不可欠な研修については開催が認められ、感染対策を遵守し前年度同様に看護技術演習（吸引、酸素療法、採決や筋肉注射、静脈・点滴注射、膀胱留置カテーテル法）やシミュレーション演習を行い、実践につながる研修を実施した。トピックス研修は、コロナ感染状況が影響し、計画・実施には至らなかった。
2．看護研究は、コロナの感染状況を考慮して取り組みを見合わせた。
3．中途採用者の支援体制として、経験の確認のためのチェックリストや支援のための計画を週単位で作成したものを活用している。
4．新人看護師については、プリセプター制度は継続しており、各部署がみんなで育てる新人教育を実施している。プリセプター会を開催し、プリセプター教育の場としても活用、新人とともにプリセプターの成長を促した。
5．看護部では、認知症看護認定看護師審査に１名が合格した。

3 業務実績

1．臨地実習４校、延べ249名を受け入れた。しかし、１月以降、コロナ感染症が病棟で発症しクラスターにともない、３校の実習受け入れを中止とした。
2．看護部教育委員会による研修の運営企画:「新人研修５回」「新人看護師・２年目看護師ローテーション研修」「プリセプター会５回」「新人看護師・３年目看護師シミュレーション研修」

4 次年度課題

1．コロナ禍における現任教育の充実
2．中途採用者の支援体制を継続

（文責：教育師長　山村　真智子）

新１病棟

1 概要

病棟形態：
　回復期リハビリテーション
　病棟入院料１
病 床 数：52床
所属長名：渡辺　真智子
構成職員：看護師　　16名
　　介護福祉士　６名
　　ヘルパー　　２名



合計人数　24名

2 2021（令和３）年度　目的・目標

1．専門性を持ち、患者･家族の思いを尊重した看護･介護と提供する。
2．安全で安楽かつ安心できる看護・介護を提供する
3．職員全体が病院経営に参画する。
4．働きやすい職場環境を提供する。

3 目標に対する取り組み

1．コロナクラスター発生により入退院の停止の影響が強く、退院支援も停滞してしまった。退院支援への介入も弱く、ＭＳＷに一任の傾向が強く方向性の見極めにも時間を要している。スムーズな退院支援につなげていくためにも、看護師としてイニシアティブを発揮していく必要がある。
2．新型コロナウイルスの対策マニュアルを遵守していたものの、２月３日に新型コロナウイルス陽性者が発症、ＰＰＥの着脱やN95マスク装着など感染対策の徹底に努めたが、クラスター発生を防ぎきれなかった。病棟内のゾーニングや必要備品の確保、人員調整や看護体制の変更など多岐にわたる対応を迫られ難渋した面もあったが、関係各部署の協力もあって２月27日には感染対策解除となった。今後も引き続き感染対策マニュアルの遵守と遮断スキルを身に付け、感染拡大を防止していく必要がある。インシデント件数は転倒転落・内服薬・チューブ・ドレーン抜去の順で多かったが、転倒転落は前年度より16件も少なくなり、対策の効果が現れはじめている。一方でアクシデントは４件だった。患者さんの症状や状態を適切にアセスメントし、主治医や医療技術部と連携を図り検査を勧めるなど早期に対応していく必要がある。
3．施設基準は達成できていたが、コロナクラスター発生後、在宅復帰率や実績指数が未達となってしまった。この経験を踏まえ関係部署と連携を密にし、目標値達成できるよう努力していきたい。
4．有給休暇所は公平に取得できている。ライフイベントや自己研鑽目的で退職に至る看護師もいたが、病気などで急な休みにも対応できる柔軟さと、人間関係、働きやすい職場環境の土壌は持ち合わせていると自負している。一方で接遇では時々苦情が聞かれているため、注意喚起をしていく必要がある。

4 次年度の課題

1．コロナウイルス対策の継続
2．稼働率ＵＰ

新１病棟　2021（令和３）年度　分散教育・事例検討計画

月	分散教育内容	分散教育担当者	出席率	事例検討担当者	出席率
４月	アンガーマネジメント	北村看護師	54%	宮崎看護師	54%
５月	水災害シミュレーション	清家看護師	43%		
６月	ＣＶＡについて	田能介護福祉士	50%	清家看護師	50%
７月	シリンジポンプの取り扱いについて	森臨床工学士	52%	宮本看護師	52%
８月					
９月	エンゼルケア（退院までの流れ）	山脇看護師	48%	斧看護師	48%
10月	看護・介護場面における倫理的問題について	桃田主任・千葉主任	85%	久村介護福祉士	85%
11月	急変時シミュレーション	斧看護師	70%	山脇看護師	70%
12月	麻薬の取り扱いについて	小松薬剤部副部長	72%	高橋看護師	72%
１月	吐物処理について	松村看護師	28%	田能介護福祉士	28%
２月					
３月	2021年度振り返りと反省	全員	48%	片岡看護師	48%

（文責：新１病棟師長　渡辺　真智子）

新２病棟

1 概要

病棟形態：地域包括ケア病棟
病 床 数：60床
所 属 長：大原敬子
構成職員：看護師　23名
　　准看護師　２名
　　ヘルパー　10名
　　合計人数　35名

2 2021（令和３）年度目的・目標

1）専門性を高め、患者・家族の意思を尊重した退院支援を実践する。
2）安全・安楽な看護・介護を提供できる。
3）全スタッフが病院経営に参画する。
4）ＷＬＢに沿った働きやすい職場環境の風土を構築していく。

3 目標に対する取り組み



1）について

コロナ禍ということでリモート研修が中心となったが、あまり積極的な研修参加を勧めることはできなかった。コロナに関する日々、更新される情報や対応に追われ、個々のキャリアアップや自己研鑽という雰囲気にはなっていなかったと考える。その中でも令和３年度入退院支援事業「多職種協働研修全５回」やファーストレベル研修を受けることができた。多職種や患者、家族と連携しながら退院支援を進めるためにはコミュニケーションが重要であるが、面談による情報共有の機会が少なく十分な支援体制を取れたか不安が残る一年だった。新年度も引き続きコロナ対策と並行して退院支援をしていくことになるが、リモート面談や看護サマリーの内容を充実させるなどして「その人らしく生活できる」よう支援体制を整えていきたい。

2）について

薬剤W・Gから適切な与薬業務の対策として与薬カート導入することとになり、新２病棟から試験導入することになった。12月から使用開始に向けてマニュアル整備を行い、必要な備品を準備し、予定通りに開始できた。大きなインシデントやトラブルはなく順調に運用できているが、自己管理のインシデントは見られている。本人管理の適用の有無や手段については薬剤部も協力してくれており新年度はさらに協働していきたい。

3）について

病院の方針に沿って病床管理を行っていった。施設要件は維持できていたがクラスターに伴い期限延長せざるを得ない状況も発生し、病院経営に大きな影響を与えることになった。次年度は感染対策をしながら病床稼働率を少しでもＵＰさせるような態勢を整えていきたい。

4）について

年次休暇の取得は全員が５日間取得できている。患者・家族から職員の声の大きさや接遇に注意を受けた時は個別に注意している。分散教育で接遇研修を予定していたがクラスターのため、開催できなかったため、次年度に変更とする。

4 次年度の課題

1）感染対策の徹底
2）安全な内服管理に向けたマニュアルの見直し
3）接遇研修

新２病棟　2021（令和３）年度　　分散教育・事例検討計画

月	分散教育内容	分散教育担当者	出席率	事例検討担当者	出席率
４月	夜勤を想定したＣＰＲ	西山看護師	38%	武田侑希子	55%
５月	脊髄クモ膜下麻酔・手術を受ける患者の看護	手術室高野看護師	48%	上野穂乃華	44%
６月	2020年度　看護必要度改定	大原師長	44%	間城聡美	44%
７月	多職種で退院支援に取り組むことへの評価について	井上社会福祉士	48%	小泉由紀子	48%
８月	災害が発生した時の看護師の行動	北岡准看護師	47%	町田みき	40%
９月	終末期・臨終時の対応	中原主任	44%	佐々木駿	44%
10月	感染防止対策（インフル・ノロ・コロナ）	院内感染対策室 土居管理者	68%	大原基成	50%
11月	循環器疾患について	間城看護師 小谷看護師	73%	北岡千裕	72%
12月	せん妄について	認知症対策室 中山師長	82%	山本武尊	82%
１月	小児科看護	新３長山看護師	86%	小松桃子	86%
２月					
３月					

（文責：新２病棟師長　大原　敬子）

新３病棟

1 概要

病棟形態：急性期一般病棟
病 床 数：60床
所属長名：伊賀原　由香
構成職員：

看護師	28名
准看護師	5名
ヘルパー	4名
医療クラーク	1名
合計人数	38名



2 2021（令和３）年度目標および取り組み

1．スタッフ全員が、非常時・災害時を見据えて対応できる知識・技術を身につけることができる
2．他職種と連携をしながら、質の高い看護を提供することができる
3．スタッフ全員が当該病棟の要件を周知し、病院経営に参加することができる
4．働きやすい環境を整える

3 目標に対する取り組み

コロナ禍での災害や非常時を見据えて分散教育などで訓練を行ったが、実際には、感染防止対策の徹底や感染に対しての意識がスタッフ全員に徹底できていなかった現状があった。結果、入院患者の受け入れができなくなり、病院運営に影響したと考える。

病棟目標の稼働率は達成できなかったが、重症度・医療･看護必要度は目標達成できた。その要因として、循環器患者さんの増加など相まって、医療処置が多く、必要度が高くなったためであると考える。そして、入院基本料を10：１から７：１へと変更することができた。これらを維持していくために、記録委員を中心に取りこぼしのないようにカルテの必要度をチェックし、日々の業務を行うことができたと思う。

また、循環器の治療の中に、さまざまな特殊器械を目にすることで、スタッフは困惑、不安を抱えながらも先生方、臨床工学士の協力・指導のもと学習を行い、知識・技術を習得し、業務を行うことができ、緊張した１年でもあった。

以前に比べて、他職種との連携が少しずつ取ることができ、入院時から退院に向けて早期介入の意識が高まってきたと思われた。

今年度の有休取得率は約94％であった。可能な限り、スタッフ全員が有給休暇を取得できるよう勤務作成に努めた。しかし、家庭の事情により退職者５名と昨年より多かった。

4 次年度の課題

次年度は診療報酬改定に伴って要件の変更が予測されるために、副師長や主任を主としながら、加算が取れるようにスタッフ全員に周知し、病院経営に参加することを意識化していきたい。

６月からは、ハートセンターの第２カテ室が稼働となる。周術期患者および循環器患者にいつでも対応できるように、スタッフ全員がもう一度、知識、技術の習得のもと、看護展開を行っていくことが重要であると考える。また、７：１の看護体制の中でも、常に、患者の訴えを傾聴し、寄り添うことができる看護師を目指して、みんなが『ハッピー』と思える看護を提供していきたい。

新３病棟　2021（令和３）年度　　分散教育・事例検討計画

月	分散教育内容	分散教育担当者	出席率	事例検討担当者	出席率
４月	認知症看護	認知症対策室　中山師長	73％	松井看護師	73％
５月	重症度・医療看護必要度について	伊賀原師長	41％	長山看護師	41％
６月	救急看護	吉村主任・小野看護師	75％	工藤看護師	75％
７月	フィジカルアセスメント	松井看護師・廣田看護師	80％	森野看護師	80％
８月	重症度・医療看護必要度について	坂本副師長・山本看護師	68％	山中(恵)看護師	68％
９月	災害対応・ＰＰＥ着脱方法	森野看護師・廣田看護師・山﨑看護師	65％	岩原看護師	65％
10月	周術期看護	高野看護師	74％	小橋看護師	74％
11月	ＣＨＤＦ・透析について	金本臨床工学士	89％	中川看護師	89％
12月	感染	長山看護師	61％	廣田看護師	61％
１月	医療安全	濱﨑看護師	64％	西川看護師	64％
２月					
３月					

（文責：新３病棟師長　伊賀原　由香）

南１病棟

1 概要

病棟形態：医療療養病棟１
病 床 数：52床
所属長名：高塚　深雪
構成職員：看護師　13名
　　准看護師　３名
　　介護福祉士　９名
　　合計人数　25名



2 2021（令和３）年度　目的・目標

1．コロナ禍において安全で信頼できる看護を提供する。
2．看護･介護の専門性を高め、患者･家族に寄り添った看護サービスを提供する。
3．スタッフ全員が経営に参画する。
4．働きたい職場・やりがいが持てる職場の環境を整える。

3 目標に対する取り組み

1．新型コロナ感染対策において、入院２日目に患者の陽性が確認され、クラスター防止のためスタッフが一丸となって対応し、病棟内での感染拡大を防止できた。入院患者のワクチン接種も家族と連絡を取り、スムーズに実施することができた。また、面会制限の中、家族との洗濯物や日用品のやりとりで患者の様子を伝えたり、リモート面会も実施し、家族に喜ばれることもあった。
2．内服のインシデントでは分析を行い、病棟全体で共有し今後の防止に努めるようにした。また、看護チームにおける看護師・准看護師および看護補助者の業務のあり方に関するガイドラインを参考に業務改善を行い、より専門性をもって看護サービスを提供するよう努めた。
3．医療区分の取り方や対象患者80％以上を維持するよう主任、スタッフに指導した。70％台が続く時があり、ＭＳＷと連携し退院調整を行った。
4．２年目看護師、４年目看護師のレビューも終えることができ、キャリア開発につなげることができた。また、昇格試験を受けた看護師も合格することができた。職員同士の協力があり、年間有給休暇は５日以上取得することができた。

4 次年度の課題

医療療養病棟１の特性をスタッフ全員が理解し、他部門と協力して退院支援を含めたベッドコントロールを円滑に行い、病院経営に貢献する。

南１病棟　2021（令和３）年度　　分散教育・事例検討計画

月	分散教育内容	分散教育担当者	出席率	事例検討担当者	出席率
４月	看護計画評価について	中平主任	50％	安井准看護師	50％
５月	接遇	武田准看護師	38％	倉田看護師	38％
６月	高齢者看護（資料配布）	川村看護師			
７月	スキンテア	安岡看護師	50％	手島介護福祉士	50％
８月	救急シミュレーション	小松看護師	48％	大野看護師	48％
９月	倫理	高塚師長	38％	川村看護師	38％
10月	感染性胃腸炎	門脇看護師	44％	小松看護師	44％
11月	ポジショニング	岡添介護福祉士 堀内介護福祉士	68％	筒井看護師	68％
12月	休会			門脇看護師	60％
１月	休会				
２月	休会				
３月	年度まとめ	高塚師長	36％		

（文責：南１病棟師長　高塚　深雪）

南２病棟

1 概要

病棟形態：医療療養病棟Ⅰ
病 床 数：49床
所属長名：堀田　美幸
構成職員：

看護師	17名
准看護師	2名
介護福祉士	7名
ヘルパー	1名
合計人数	27名



2 2021（令和３）年度　目的・目標

1．コロナ禍でも安全で安楽かつ、安心できる看護・介護提供する。
2．細木病院と心のセンターで連携を強化し知識・技術を高めていく。
3．全職員が、病院経営に参画する意識を持つ。
4．働きやすい職場環境をつくる。

3 目標に対する取り組み

1．新型コロナウイルスにより面会制限があり、患者家族との関わりが少なくなってきたが、節目ごとには電話連絡や洗濯物を持ってきていただいた時には、日ごろの様子などをお伝えするようにしていた。また、チーム内でのカンファレンスや看護計画の見直しを行い、個別性を尊重した看護・介護を提供するようにしてきた。
2．細木病院とこころのセンターで連携し、研修など一緒に行うことにより、同じように知識・技術を高めていくことができた。また、精神状態が悪くなった患者などは主治医より対診依頼を入力してもらい、精神科と連携して北館へ転棟することができた。
3．医療療養病棟Ⅰの対象患者80％以上の維持と、病床稼働率93％を目標に、職員に医療療養病棟の特性や稼働率の目標値維持の必要性を指導した。医療区分やコスト漏れがないよう見直しを行ってきた。医療区分80％以上は達成できたが、病床稼働率はやや低迷している月もあり、年間累計も82％であった。
4．個々のワークライフバランスを取り入れできる限り希望に沿えるよう、お互いに協力し助け合う関係ができていると思われる。今後も働きやすい職場環境をつくり離職防止に努めていきたい。

4 次年度の課題

1．医療療養病棟Ⅰの特性をスタッフ全員が理解し経営に参画する。
2．職員同士の言動に注意しながら、新人や中途採用者の離職防止に努めていく。
3．新型コロナウイルスに関しての最新情報を随時得ること。

南２病棟　2021（令和３）年度　　分散教育・事例検討計画

月	分散教育内容	分散教育担当者	出席率	事例検討担当者	出席率
４月	接遇	北村介護福祉士、山﨑介護福祉士	81％	山下看護師	81％
５月	口腔ケア（資料配布）	式地介護福祉士		北岡看護師（チーム検討）	
６月	災害シミュレーション（資料配布）	堀田師長、山下看護師 小笠原看護師		筒井（美）看護師（チーム検討）	
７月	医療安全	清岡看護師	48％	北川准看護師	48％
８月	実習指導	山﨑主任	50％	筒井（友）看護師	50％
９月	急変時の対応	上甲看護師、筒井（友）看護師、濱田介護福祉士	59％	中山看護師	59％
10月	感染対策と個人防護具の着脱方法について	西森主任	70％	上甲看護師	70％
11月	オムツ交換、手順に沿って	細木介護福祉士、川崎介護福祉士	81％	坂上准看護師	81％
12月	認知症ケア	中山看護師	77％	清岡看護師	77％
１月	糖尿病（資料配布）	西森主任		荒木看護師（チーム検討）	
２月	身体抑制（資料配布）	筒井（美）看護師		片岡看護師（チーム検討）	
３月	まとめ	全員	73％	小笠原看護師	73％

（文責：南２病棟師長　堀田　美幸）

南３病棟

1 概要

病棟形態：
　障害者施設等一般病棟
病 床 数：30床
所属長名：弘田　美貴
構成職員：看護師　　18名
　　准看護師　３名
　　ヘルパー　５名
　　合計人数　26名



2 2021（令和３）年度　目的・目標

1．コロナ禍において当院の役割を理解した行動がとれる
2．患者・家族に安心・安全な看護を提供する
3．職員全体が病院経営に参加する
4．働きやすくやりがいを持てる職場環境をつくる

3 目標に対する取り組み

1．コロナ感染状況に関心を持つように情報をファイルし全員が毎日確認するようにした。一人ひとりが日頃の感染予防対策を遵守し自部署でのクラスター発生予防に努めた。またコロナワクチンの準備や接種担当、介助担当として協力することができた。患者さんへのワクチン接種もご家族と連絡をとり希望の方には確実に接種を行った。
2．安全な看護の提供のために、感染対策では、アルコールの使用目標９回を上回ることができ、リンクナースによる防護服の着脱の手順の演習を実施し感染予防に努めた。医療安全面では、インシデントが38件で（昨年比69.1％）目標の３割減を達成することができた。しかし確認不足のインシデントが多く、指差し呼称の徹底が課題である。アクシデントが１件（転倒による骨折）あった。またコロナ禍で研修が少なくなる中、看護職全員がオンラインでの研修を経験するなどして新たな方法で研鑽を積めるように推進した。面会制限中の患者家族支援ではリモート面会を推進し43件の面会に関わった。対面可能時期の面会は135件であった。
3．病床稼働率は80％台、患者の受け入れには応えたがコロナの影響もあり目標を達成できなかった。次年度は病床管理室とより連携を深めたい。施設基準対象患者割合は遵守できた。また消耗品、衛生材料を定数化して一覧としたが、週末を見込んだ予測が難しく過剰在庫や不足があり今後の課題である。
4．自己都合退職が１名あった。入職した新人２名はプリセプターを中心に全スタッフで育成に関わり順調に成長できた。年次有給休暇の取得は職員同士の協力で取得６日以上を達成できた。ハード面では、念願のストレッチャーを購入することができスタッフの労力の軽減と余裕のある患者搬送ができるようになった。

4 次年度の課題

1．コロナ禍において安全で安楽な看護を提供できる
2．看護の専門性を高め患者家族の想いを尊重した看護を提供する
3．スタッフ全員が病院経営に参加する
4．働きやすくやりがいを持てる職場環境をつくる

南３病棟　2021（令和３）年度　　分散教育・事例検討計画

月	分散教育内容	分散教育担当者	出席率	事例検討担当者	出席率
４月	エンゼルケア	橋田看護師	62％	池上看護師	62％
５月	倫理	三橋主任	58％	山岡看護師	58％
６月	救急シミュレーション	橋本看護師	79％	高松看護師	79％
７月	認知症看護	一圓看護師	45％	一圓看護師	45％
８月	５Ｓについて	弘田師長	45％	山岡看護師	45％
９月	医療安全	藤本主任	52％	尾崎看護師	52％
10月	記録	山岡看護師	68％	沖看護師	68％
11月	手指衛生・５つのタイミング	尾崎看護師	73％	松岡看護師	73％
12月	ポジショニング	松岡看護師、山岡看護師、細川介護福祉士	90％	酒井准看護師	90％
１月	地域連携	稲田ＭＳＷ	45％	橋本看護師	45％
２月	スキントラブル	沖看護師	43％	淡中看護師	43％
３月	接遇	酒井准看護師、高松准看護師	55％	坂上看護師	55％

（文責：南３病棟師長　弘田　美貴）

南５病棟

1 概要

病棟形態：新型コロナ陽性者受け入れ病棟／緩和ケア病棟
病 床 数：８床
所属長名：片岡　健
構成職員：看護師　　12名
　　准看護師　０名
　　ヘルパー　０名
　　合計人数　12名



2 2021（令和３）年度　目的・目標

１．コロナ禍で担うべき社会的役割を発揮する
①「コロナ患者受入協力医療機関」として可能な範囲で入院受け入れを行う
②新型コロナウイルス陽性患者の社会復帰に向け必要な看護介入を行う
③常に人員および環境面の体制を整え、役割を果たせるようにする

２．スタッフの身体的・精神的健康を維持できるよう体制を整える
①出勤時の健康状態チェックの継続
②有給休暇取得を推進し、連続した勤務を少なくする
③体調不良やストレスなどを気軽に相談できる職場風土をつくる

３．クラスター発生を防止する
①感染対策を徹底し感染防止に努める
②最新の感染対策や治療方法などの情報収集と周知に努める
③定期的に病棟対応マニュアル（手順）を見直し、最新の手順に沿って業務を行う

3 目標に対する取り組み

１．行政からの入院要請に対し、最大限の入院受け入れを実施した。また、入院や疾患に伴うＡＤＬ低下などが見られた場合は、院内の一般病棟で在宅・社会復帰に必要なリハビリテーション目的の療養をしていただいた。
２．出勤時の体調確認を継続実施。勤務は連続勤務を減らし連続した休暇取得に努め、ストレス緩和につなげた。
３．感染防止対策を徹底し、職員の感染者発生はなかった。院内クラスター発生時には最大限の協力を行った。

4 次年度の課題

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、新型コロナウイルス感染者受け入れ病棟に転用中。
新型コロナウイルス感染症が終息し、再び緩和ケア病棟として運用再開となるまで、感染防止対策を励行し、スタッフ個々に緩和ケアに関する知識向上のために自己研鑽に努める。

（文責：南５病棟師長　片岡　健）

外　　来

1 概要

所属長名：曽我　貴美子
構成職員：看護師　　27名
　　准看護師　６名
　　診療助手　７名
　　保母　　２名
　　合計人数　42名



2 2021（令和３）年度　目的・目標

1．コロナ禍でも安心・安全な看護を提供できる
2．細木病院とこころのセンター間で情報交換を行い協力できる
3．細木病院の収益アップに貢献できる
4．専門性を高めた対応を行い各専門チーム活動を強化する
5．職員が働きやすいと感じる職場風土をつくる

3 目標に対する取り組み

1．標準予防策の徹底。コロナワクチンへの協力。決定事項を周知・徹底し安全に業務を行う。患者・家族が安心して受診できるように感染対策を徹底する。環境整備（開窓、アルコールにてすり、椅子、ドアノブの清拭）2時間ごとに実施。発熱・呼吸器症状のある患者さんは、有熱者外来にて診察を行う体制を整え、平日９：00～11：00、14：00～16：00の枠の中で内科だけでなく耳鼻科・外科の医師の協力のもと診察を行った。令和３年度は成人：2,746名、小児：7,493名の診察を行い各100名以上のＣＯＶＩＤ－19患者さんの対応を行った。
2．必要時、こころのセンターと情報交換を行いスムーズな受診とリスク回避を心掛けた。
3．緊急入院・救急患者、ドクターカー対応をスムーズに行い患者増に貢献できた。ほそぎハートセンターの患者増に向けて心カテ室、心リハ室体制を整えた（専任看護師の増員と調整）。
4．ハートチーム（勉強会の開催、カテ室の見学、緊急カテ時の体制と指導）
感染チーム（個人のアルコール使用量の増量のための対策、ＰＰＥ着脱手順のチェック・指導）
災害チーム（災害ボートの見直し、災害時の初期対応や消火栓・消火器の使用方法の確認）
環境チーム（環境整備と毎週月曜日、ミーティングでの伝達、徹底事項の確認）
ＥＲチーム（緊急カテの準備、ＥＲ対応についての学習）
記録チーム（外来記録の質の向上に向けてフォーカスや継続看護の指導）
5．所属場所を超えてお互いが協力できた。有休消化は平均6.8日／年取得できた。

4 次年度の課題

1．第２カテ室を稼働し、患者増に向けて協力していく。また、循環器内科関連の質を高める対応に取り組む
2．アウトブレイクを起こさないよう引き続き感染対策の徹底
3．経営方針や職場環境の変化に対して対応できるよう協力し合い高め合うことができる

外来　2021（令和３）年度　　分散教育・事例検討計画

月	分散教育内容	分散教育担当者	出席率
４月	救急場面の倫理（事例を考える）	曽我師長	43%
５月	医療ガスについて（外来の酸素の取り扱いや注意事項）	中平看護師	43%
６月	脳外科外来で行う検査について	福田看護師	48%
７月	吐物処理とN95マスク装着	織田看護師	43%
８月	フォーカスチャーティングと外来記録	大原師長・澤谷看護師	43%
９月	医療安全（Wチェックについて）	石黒看護師	40%
10月	災害時の役割	岩本看護師	37%
11月	ＢＬＳ	伊藤看護師	43%
12月	虚血性心疾患、ＣＡＧ、心臓リハビリテーション	上島・大梶看護師	40%
１月	剥離剤の種類とテープの剥離方法について	山下看護師	21%
２月	コロナ禍での接遇	接遇チーム（清家診療助手）	31%
３月	まとめ	全員	68%

（文責：外来師長　曽我　貴美子）

手術室・中央材料滅菌室

1 概要

所属長名：岡﨑　千佐子（兼任）
構成職員　看護師　　６名
　　准看護師　３名
　　ヘルパー　１名
　　合計人数　10名



2 2021（令和３）年度　目的・目標

1．コロナ禍での自部署の役割を理解し対応できる。
１）手術室でのコロナ対策を実践、

継続して行う。
2）コロナワクチン接種やリモート面会など体制整備や現場への積極的な協力を行う。
2．看護部としての連携を強化し、看護の質向上を行う。
1）分散教育を活用し、お互いの業務理解を行う。
2）広い視野で情報を共有し、組織力の強化を図る。
3．組織人として病院経営に参画する。
1）手術件数増加に向けて日ごろから医師と良好な関係を継続する。
2）コスト意識を持ち、手術器械や手術材料、中材器械などムリ、ムダ、ムラのない管理を行う。
4．働きやすい職場環境を整える。
1）お互いが声を掛け合い、チーム力の向上に努める。
2）部署を超えた協力体制を継続する。

3 目標に対する取り組み

1．手術室におけるコロナ対策として感染リンクナースを中心に医師も含めての感染防止対策の継続、周知徹底を実践した。またコロナワクチン接種、南５病棟開設、新２階病棟コロナ発生時の環境整備など可能な範囲で現場への応援要請に加わり対応した。
2．手術室関係部署として歯科衛生士、入院サポートセンター副センター長に手術患者に関わる取り組み、支援加算についての講義を依頼し知識向上と共に意見交換の場を設けることができた。術式に対するマニュアルの見直しや作成、ｗｅｂ研修を利用した専門性のスキルアップにも取り組んだ。
3．手術件数の変動は大きかったが医師との連携を取りながら対応した。手術件数は前年度に比し増加傾向であったが２月、新型コロナウイルスまん延に伴う手術制限により１カ月の手術件数が一桁台まで落ち込んだ。またコスト削減のため安価な物品への見直し、保管場所の縮小など経済効果につながる活動を行った。
4．マニュアル、チェックリストを作成し、業務内容の偏りの減少に努めた。また部署を超えて他部署への助勤、協力体制も継続して行っている。

4 次年度の課題

1．手術看護業務基準（日本手術看護学会監修）を基に周術期マニュアルの充実を図る。
2．ムリ・ムダ・ムラを最小限にするための業務改善を行い、経済効果を考えた活動ができる。

手術室・中央材料滅菌室　2021（令和３）年度　分散教育・事例検討計画

月	分散教育内容	分散教育担当者	出席率
４月	医療安全と看護記録	門田師長	100％
５月	医科歯科連携の取り組み	内平歯科衛生士	89％
６月	手術に関わる入院時支援加算	柏井ほそぎ入退院サポートセンター副センター長	100％
７月	手術室における主な医療関連感染	宮川主任	89％
８月	個人防護具	宮川主任	80％
９月	看護倫理	高野看護師	80％
10月	地震発生直後の対応	藤岡准看護師	80％
11月			
12月			
１月	看護記録	岡崎看護副部長	89％
２月	看護記録と法的責任	高野看護師	100％
３月	ＢＬＳ	三田看護師 早川准看護師	100％

（文責：手術室副師長　宮川　美和）

北３病棟（こころのセンター）

1 概要

病棟形態：
精神科急性期治療病棟
病 床 数：40床
所属長名：藤原　奈津子
構成職員：

看護師	19名
准看護師	２名
看護補助者	７名
合計人数	28名



2 2021（令和３）年度　目標

1．患者の人権を尊重した専門的看護ケアを提供する。
2．精神科救急がスムーズ、かつ安全に行えるよう、精神科急性期病棟としての機能を充実させる。
3．患者にとって安心・安全・安楽な環境を整える。

4．院内外の研修・分散教育に参加し、自己研鑽に努める。

3 目標に対する取り組み

1．患者の尊厳を守り、職員の倫理的感性を高めるよう教育・指導を行い、専門的知識を用いて看護を提供することができた。患者・家族に対して説明や情報共有を行いながらニーズを把握し、継続して看護ケアが提供できた。
2．他病院・医師、外来、他職種との連携を図り、常に患者の受け入れができるよう入退院調整を行い、新規入院患者の受け入れも積極的に行った。また急性期治療病棟として診療報酬加算の取得に協力し輪番や夜間、休日の入院の受け入れもできた。
3．安心して療養できるように病棟の美化委員と協力し、療養環境の整備を行った。転倒・転落などインシデント事象をスタッフで共有し、改善策立案、実施し再発防止に努めた。
4．コロナ禍で院外の研修会はズーム研修で参加したり、分散教育は担当者を決めて行ったが、行動制限が上がると集まって開催すると密になるため、資料配布などで自己研鑽できるようにして取り組んだ。

4 次年度の課題

1．コロナのクラスターを発生させないようにスタッフ全員が感染予防対策を実施できるようにする。
2．看護・介護の専門性高め、質の高い患者サービスを提供する。
3．他職種と連携を図り、退院調整と新規入院患者の獲得を図る。

北 3 病棟　2021（令和 3 ）年度　　分散教育・事例検討計画

月	分散教育内容	分散教育担当者	出席率	事例検討担当者	出席率
4 月	精神科における行動制限について	那須看護師・渡辺看護師	74%	渡辺看護師	74%
5 月	身体拘束の正しいやり方	前田看護師・北村准看護師	14%		
6 月					
7 月	発達障害について（資料配布）	横畠看護師・中村看護師 西川看護師			
8 月	発達障害の種類によっての看護（資料配布）	林看護師・國光准看護師 川村看護師		前田看護師	37%
9 月	精神科薬の効果と副作用	橋田主任	33%	岡本看護師	33%
10月	急変時の対応について（資料配布）	大西看護師・眞田介護福祉士			
11月					
12月	感染対策について	大數看護師・山下介護福祉士	77%	西川看護師	77%
1 月					
2 月					
3 月	認知症患者との関わり方	山本看護師	62%		

（文責：北 3 病棟師長　藤原　奈津子）

北 4 病棟（こころのセンター）

1 概要

病棟形態：精神科慢性期病棟
　　（高齢者対応）
病 床 数：53床
所属長名：戸田　陽子
構成職員：看護師　　17名
　　准看護師　　3 名
　　介護福祉士　4 名
　　ヘルパー　　5 名
　　合計人数　　29名



2 2021（令和 3 ）年度　目的・目標

1．専門知識を深め、安全、信頼していただける看護・介護を提供できる
2．スタッフ全員が経営に参画する
3．働きがいがもてる職場環境を整える

3 目標に対する取り組み

1．患者の立場に立てるケアができることを心掛け実践できるように取り組みを行った。新型コロナウイルス対策として面会制限が取られたことで、家族が直接病棟へ来棟ができず関わりを深く持つことができなかったため、積極的にコミュニケー

ションを図ることができなかったが、カンファレンスの定着を図り、信頼される看護実践を行うことに取り組んだ。患者家族が来院された際には日頃の状態や近況報告を行い、こちらから積極的にコミュニケーションを図り、患者、家族の不安の軽減に努めた。

2．病棟稼働率90％目標に医師や他部署との連携を図り、積極的に患者の受け入れを行いながらベッドコントロールを行ったが新型コロナウイルスの影響は大きく、稼働率の低下が見られた。その中で入院患者の退院に向けた取り組みは多職種と協働し行えたが、退院と入院、転入患者とのバランスが難しく稼働率の落ちこみが見られた。入退院調整ミーテイングにて稼働率が低下せず維持できるように取り組みをしていきたい。

3．職員の病欠時の助け合いや急な勤務交代などの場面があったが、協力し勤務を継続することができた。有給休暇の取得は全職員が5日以上を取得することができた。新人2名はプリセプターを中心に全スタッフで育成に関わり、順調に成長でき夜勤も行えている。患者ケアに関する物品不足もあったが、必要物品の選択をスタッフと共に行い購入し患者、スタッフ共に負担の少ないケアの実践ができるように工夫はできている。

4 次年度の課題

1．尊厳を守り、患者・家族の立場にたち信頼していただける看護・介護を提供する
2．患者さまにも職員にも思いやりと気配りが持て、働きやすい職場環境を整える
3．スタッフ全員が経営に参画する
4．感染予防の意識を持ち業務が遂行できる

北4病棟　2021（令和3）年度　　分散教育・事例検討計画

月	分散教育内容	分散教育担当者	出席率	事例検討担当者	出席率
4月	新型コロナウイルスの初期対応について	中嶋看護師　岡本看護師	70%	白石看護師	70%
5月	オムツの当て方の実際	中村ヘルパー　井澤ヘルパー	72%	中嶋看護師	72%
6月	看護倫理と高齢者虐待	山岡主任　戸田師長	73%	曽谷看護師	73%
7月	ＭＥＳ「外観・意識・思考」について	北川准看護師　有澤看護師	65%	谷内看護師	65%
8月	急変時の対応	岡林看護師　上田看護師	50%	白石看護師 中嶋看護師	50%
9月	高齢者虐待防止法	足達看護師　谷内看護師	68%	蒲原看護師	68%
10月	認知、知覚について	中田看護師	67%	足達看護師	67%
11月	吐物処理の実際	谷村准看護師　永野看護師	63%		
12月	精神科（高齢者）でよく見られる症状と看護	岡村准看護師	48%	島本看護師	48%
1月	ＥＫＧについて	蒲原看護師　濱中看護師	78%	中田看護師	78%
2月	ＭＳＥ「感情・意欲」について	島本看護師	74%	本村看護師	74%
3月	トランスファーについて	神戸ヘルパー　大崎ヘルパー	71%		

（文責：北4病棟師長　戸田　陽子）

北5病棟（こころのセンター）

1 概要

病棟形態：精神科慢性期病棟
病 床 数：48床
所属長名：窪内淳子
構成職員：看護師　　17名
　　准看護師　3名
　　合計人数　20名



2 2021（令和3）年度　目的・目標

1．コロナ禍における感染予防対策を行い、クラスターを発生させない。
2．患者の人権や倫理的配慮を行い安全で安心、信頼できるケアを提供する。
3．常にコスト意識を持ちコスト漏れがないよう記録の点検を行い、収益につなげる。

3 目標に対する取り組み

1．感染予防策を徹底し感染症発生、クラスターを起こさないように努めた。
2．接遇面の見直しなど行い、患者の人権などに配慮したケア提供に努めた。

3．全員で点検を行いコスト漏れに注意し収益アップにつなげた。

4 次年度の課題

1．専門知識を深め、安全、信頼していただける看護・介護を提供できる。
①患者の人権を尊重した質の高い看護・介護を提供する。
②病棟の特殊性を理解し、インシデント・アクシデントが予防でき、事故発生時の早期対応と原因分析・再発防止策を立案し周知徹底する。
③長期入院患者に対して他職種で連携を図り在宅や施設への退院支援を行う。
2．経営基盤の安定・強化に積極的に参加する。
①他部署との連携を図り効率的に病床管理ができ、病棟稼働率85.2%以上を維持できる。
②診療報酬加算の学習会を行い加算習得への協力ができる。
③地域移行推進チームで計画的に長期入院患者の退院支援を行う。
3．職員が働きやすく、働き甲斐のある職場づくりを目指す。
①職場環境を見直し、何でも言い合える職場風土を作る。
②個々の状況に配慮した勤務シフトを作成し、公平な対応を行う。
③研修会（ｗｅｂ　リモート）に参加でき自己研鑽できるような勤務調整を行う。

北5病棟　2021（令和3）年度　　分散教育・事例検討計画

月	分散教育内容	分散教育担当者	出席率	事例検討担当者	出席率
4月	接遇について	中尾介護福祉士 尾崎介護福祉士	78%	酒井看護師	78%
5月	感染症の基礎知識、標準予防策と吐物処理の演習	岡本看護師 山下准看護師	74%	保木看護師	74%
6月	急変時の対応	友村看護師 保木看護師	52%	西村看護師	52%
7月	向精神薬の分類と適応	笠原看護師 小野看護師	74%	笠原看護師	74%
8月	退院支援	酒井看護師 松岡看護師	67%	楠瀬看護師	67%
9月	不穏（行動の異常）について、要因や対応について説明	川村看護師 橋本看護師	67%	松岡看護師	67%
10月	排泄ケア	岡部介護福祉士 小笠原ヘルパー	67%		%
11月	ポジショニング	友村看護師 津野ヘルパー	70%	友村看護師 岡本看護師	70% 70%
12月	行動制限（身体拘束）	西村看護師	81%	小野看護師	81%
1月					
2月					
3月					

（文責：北5病棟師長　窪内　淳子）

精神科外来

1 概要

所属長名：川田　留美
構成職員：看護師　　4名
　　准看護師　2名
　　合計人数　6名



2 2021（令和3）年度　目的・目標

1．コロナ禍における看護の役割を理解し、安心、安全、安楽な看護を提供する
2．看護部の連携を強化して、質の高い看護が提供できる
3．病院経営に参画し常に経営的視点を持つ
4．働きやすい職場環境を整える

3 目標に対する取り組み

1．に対して

感染対策マニュアルを遵守し共有フォルダ内のコロナ対応職員通知の内容を把握して、病院の感染対策方針を常時注意し、職員に感染対策や行動制限について周知徹底をしている。常に感染予防に努め外来の環境整備や換気に気を付け、玄関検温の整備や物品などの管理および早出業務による毎朝の玄関検温を行い安心安全な外来環境を提供できている。外来では、入院前のＰＣＲ・抗原検査により入院時のコロナ陰性者の判定をして入院先病棟への感染予防対策を行っている。与薬時は指さし呼称の徹底など投薬時マニュアルの周知徹底と確実な実施を行っている。

2．に対して

倫理的感性を常にもち、患者の尊厳を守り質の高い看護を提供するために常に接遇に気を付けて対応をし、接遇改善に向けた北館ケア改善ワーキンググループの活動も継続して行っている。看護部は常に連携を取り協働し看護の専門性を発揮できている。また診療部や医療技術部など多職種と協働し、医療安全や感染対策などの具体的な対策と外来患者の受診率向上に向けて対応を行っている。

3．に対して

感染対策と医療安全など十分に配慮した看護を提供し、安心して受診ができる外来受診率の向上に努めている。また入退院調整ミーティングを行い、急性期病棟と慢性期病棟の役割を考慮した入院について医師および多職種と協働し、入院時の病棟調整をして、急性期病棟稼働率の向上とその維持に努め目的は達成している。長期入院の保護室使用者については、移行支援についての調整ミーティングに多職種を交え長期的に対策を講じている。

4．に対して

外来職員間のコミュニケーションを良好に保つように心掛け、働きやすく思いやりあえる職場風土を育てている。働きやすい勤務シフトの作成と勤務希望への公平な対応に注意している。そして外来職員の健康維持への支援と常に体調管理に注意している。

4 次年度の課題

1．コロナ禍における看護師の役割を十分に理解してマニュアルの遵守と実践ができる。

2．常に経営的視点を持ち、外来職員一同が経営に参画する意識を持つ。

（文責：こころのセンター精神科外来師長
川田　留美）

精神科デイケア、ショートケア「フレンズ」

1 概要

形　　態：精神科デイケア（大規模）
所属長名：永野　吉昭
構成職員：

看護師	4名
作業療法士	2名
公認心理師	1名
認定心理師	1名
精神保健福祉士	1名
音楽療法士	1名
合計人数	10名



2 2021（令和３）年度　目的・目標

1．電子カルテで、第３者に指示内容や経過がわかる記録にする。

2．デイケア利用者の安全を守り、安心・安楽な環境を整える。

3．プログラムを充実させ、メンバーが目的にあったプログラムをし、スタッフ間でもプログラムを共有する。

4．就労支援関係機関と連携し、就労導入から就労が継続できるよう支援と改善すべき内容を検討する。

5．費用対効果を考慮し、デイケアを運営する。

6．研修および分散教育などに積極的に参加し、自己研鑽に努める。

3 目標に対する取り組み

コロナウイルス感染拡大によりデイケアから遠のいていたメンバーに声を掛け、徐々に利用人数は増加しており、北館クラスタ発生による一時閉鎖前の利用数に近づいている。メンバー、スタッフともに、三密を回避し、日常の手洗い消毒など、感染予防の行動ができるよう声を掛け合っている。

プログラムは、現状では料理、歌唱、車での集団移

動は中止しているが、新たに木工、陶芸、革細工、楽器演奏など開始した。また絵画、書道、体操などの外部講師によるプログラムを中止していたが、通信添削やＺＯＯＭ指導を経て、直接指導を再開している。利用希望者の多い認知行動療法のプログラムを、週１回から２回に増やし、２グループに分散した。現在の感染状況にあっても、メンバーが、それぞれの課題にあったプログラムを選択できるよう工夫している。

就職から職場定着まで一貫した支援を行う「精神科医療機関とハローワークの連携モデル事業」は全国的に終了となったが、ハローワーク高知とは引き続き協力関係を維持している。

就労復職を目的としたグループは発足より２年目となり、Ｂ型事業所またパートや障害者雇用、一般就労、復職など成果を出している。グループメンバーの就労に対する目的意識も高い。

引きこもりの支援では県主催の研修に参加し、当デイケアの取り組みと独自性を行政にアピールできた。

4 次年度の課題

引き続き感染防止に努めつつも、引きこもり支援、就労復職支援、復学支援、デイケアを通じた社会参加など、支援の可能性を広げて取り組んでいく。

アフターコロナに向け、現在のサービスの水準を落とさず、さらに発展できるよう、スタッフそれぞれの職種において研鑽し、またデイケア内外の多職種間で協力して計画、工夫する。

精神科デイケア、ショートケア「フレンズ」 2021（令和３）年度　　分散教育・事例検討計画

月	分散教育内容	分散教育担当者	出席率	事例検討担当者	出席率
４月	音楽療法	北村作業療法士	67%		
５月	コグトレ	岡林作業療法士	78%		
６月	マインドフルネス	大原心理士	89%		
７月	感染対策シミュレーション	黒岩心理士 甲斐精神保健福祉士	89%		
８月	就労・リワーク１	甲斐精神保健福祉士	78%		
９月	就労・リワーク２	甲斐精神保健福祉士	89%		
10月			%		
11月	発達障害の支援	大原心理士	78%		
12月	嘔吐物処理の仕方　シミュレーション	黒岩心理士 甲斐精神保健福祉士	67%		
１月	栄養指導	西尾栄養管理士	70%		
２月	ＣＰＲシミュレーション	永野看護師 岡崎看護師 前田看護師	70%		
３月	ＣＶＰＰＰ　プレイクアウェイ	永野看護師	80%		

（文責：精神科デイケア、ショートケア「フレンズ」師長　永野　吉昭）

重度認知症患者デイ・ケア　デイ・アルテン

1 概要

所属長名：中山　充代

構成職員：

看護師	４名
准看護師	１名
作業療法士	３名
精神保健福祉士	１名
介護福祉士	２名
看護助手	１名
合計人数	12名



2 2021（令和３）年度　目標

１）重度認知症の利用者とその家族を含めた在宅生活を支援する

２）安全で安楽、安心して通所ができる

３）利用者数の向上と維持を保ち組織的反映に努める

４）利用者の在宅生活の支援のために、院内外との連携を密に取り情報共有を図る

５）デイ・ケア職員は専門職としての自覚を持ち常に自己研鑽に努める

3 目標に対する取り組み

１）に対して

令和３年度はコロナ禍であったが、デイ・ケアの長所を活かし、送迎時に短時間ではあるが、家族の

話を聞き、アドバイスを行うようにしている。また、専門職種がそれぞれの強みを活かしていけるように業務調整を行っている。毎日利用してもらうことで、軽微な変化にも気づき、少しでも在宅生活を長く維持できるように、医師やスタッフ間でカンファレンスを行い、情報共有を行っている。

2）に対して

転倒につながらないように利用者の状態に合わせて、遠位・近位の見守りを行っている。物品の取り扱いにも留意し、特に動線上には物が出ていないように環境を整えている。感染対策には十分に配慮し、前後左右にアクリル板を設置し、飛沫感染予防に取り組んでいる。また、異食として認識できない利用者も多く、手の届く範囲に口内に入るサイズの物品は置かないようにしている。作業療法時には、異食につながるような対象利用者には、ＯＴＲが個人の認知機能を考慮し、認作業提供を行っている。

3）に対して

感染対策を行いながら迎え前に、家族へ電話連絡を入れて体調確認を行っている。状態により早めの病院受診を勧めるようにしている。利用者数は、ショートステイなどの利用で、変動は見られるが、１日18人以上の利用人数を維持できている。

4）に対して

上半期は対面での面談などを控え、主に電話での相談や支援となった。しかし、デイ・ケアの長所を活かし、送迎時に家族の話を聞き、相談に乗れるようにしていた。

5）に対して

コロナ禍であり、対面での研修会などへの参加はできていない。しかし、オンライン研修などには参加して、自己の職種に必要な知識や技術の習得に心掛けた１年となった。

4 次年度の課題

1．毎日の平均利用者数18人以上を目指す

2．感染予防対策を徹底し安全、安心、信頼できるデイ・ケアを目指す

■ デイ・アルテン　平均利用者数　　令和２年度（令和２年４月～令和３年３月）

利用月	令和２年４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	令和３年１月	２月	３月
平均人数	12.5人	14人	13.7人	13.4人	14.4人	17.1人	15.9人	14.7人	13.5人	12.1人	12人	12.5人

■ デイ・アルテン　平均利用者数　　令和３年度（令和３年４月～令和４年３月）

利用月	令和３年４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	令和４年１月	２月	３月
平均人数	14.6人	14.5人	14.6人	17人	17.6人	17.8人	17.4人	17.5人	19.7人	20.2人	19人	20.1人

（文責：重度認知症デイ・ケア　デイ・アルテン看護師長　中山　充代）

薬剤部



1 概要

所属長名：
薬剤部長　田中　照夫
副部長（部長代行）
小松　めぐみ
構成職員：薬剤師　13名
事務員　2名
合計人数　15名

2 活動内容・目標に対する達成状況

1．コロナ終息を見据えた単価アップ

（1）後発医薬品の使用を促進し、使用体制加算1（後発医薬品使用割合85％以上）の算定を継続した。

（2）薬剤管理指導件数は、新型コロナの影響で、病棟での薬剤師の活動の制限もあり、2,377件（内、算定件数は1,410件）となり、年間目標の達成率は約90％であった。

2．業務の「ムダ」を排除し、質の向上に取り組む

（1）業務の「ムダ」をなくす取り組みとして、平成24年に開始した院外処方疑義照会の簡素化の取り組みを入院処方疑義照会にも拡大し、医師の負担軽減を図った。また、薬品請求伝票の様式を変更し、看護師および薬剤師の業務を簡素化した。

（2）質の向上への取り組みとして、患者に対する吸入指導および自己注射指導チェックシートのテンプレート化、抗菌薬腎機能チェック表の作成などを行い、質の標準化を図った。

（3）医師へ約800件／年の処方提案を行い、腎機能に応じた用法・用量などの適正化、用法整理や合剤への変更などによるポリファーマシー対策に取り組んだ。

3．職員の満足度と専門性の向上に取り組む

（1）高知市6病院薬剤師業務説明会に参加し、当院の特徴を広報することで新卒薬剤師の確保につなげることができた。

（2）薬剤管理指導の標準化と質向上を目的とし、在宅復帰とポリファーマシー対策の視点を盛り込んだ入院時初回面談シートを作成し運用を開始した。病院と保険薬局の薬剤師が情報を共有するための薬薬連携シート（高知県薬剤師会作成）の使用にも取り組んだ。

4．医療安全、感染対策に引き続き取り組む

（1）医療安全薬剤WG（薬剤師、看護師で構成）の活動として、11月に新館2階への与薬カートを導入することができた。そして、翌年4月の全館導入につなげることができた。

（2）ポリファーマシー対策を推進するため、院内勉強会を開催し、医師、看護師、薬剤師などへの啓発活動を行った。

（3）抗菌薬適正使用を推進するため、薬剤師が主導してＡＳＴ研修会を開催するとともに周術期の予防的抗菌薬の評価指標を設定し、モニタリングを開始した。

（4）医療安全のリスク対応への取り組みとして、血管外漏出に注意すべき薬剤一覧を作成し、医師・看護師への注意喚起を行った。

（5）新型コロナ感染症への対応として、ディープフリーザーでのワクチンの適正管理およびワクチンの希釈調製（約1,500本）を行った。また、新型コロナ治療薬の適正管理と調剤を行い、薬剤師職能を発揮した。

3 今後の課題

1．4月に3名（経験者1名、新人1名、パート経験者1名）の入職者があり、長年の人員不足がやや改善された。来年度は、互いの個性を尊重し「コミュニケーション」と「チームワーク」で働きやすく働きがいのある職場づくりを目指したい。

2．今年度は職員からの意見をもとに多くの業務改善に取り組んだ。来年度もタスクシェア・タスクシフトも含めて職員や他職種からの提案と要望を積極的に導入し活動していきたい。

（文責：薬剤部副部長　小松　めぐみ）

医療技術部



医療技術部長
田中　照夫

1 概要

医療技術部長：田中　照夫

医療技術部は、「放射線室」「臨床検査室」「栄養管理室」「リハビリテーション課」「精神科作業療法室」「臨床心理室」「臨床工学室」「歯科衛生室」の８部署から構成される。

2 活動内容・目標に対する達成状況

病院の年度目標に従って、各部署で具体的な定量的目標と定型的目標を策定し、目標達成に向けて活動した。また、５月には院長にも参加していただき、各部署の目標と取り組みの発表会を開催し、部署目標の共有と所属長のプレゼン力強化の機会とした。

１．患者の確保および単価アップの取り組み

臨床検査室ではハートセンターの増患に対応するため、予約枠の拡大と人材育成を行い、生理検査件数（心臓超音波検査、心電図、負荷心電図など）が増加した。栄養管理室では外来食事指導件数が増加し、臨床心理室では心理面接件数が増加した。リハビリテーション課ではコロナ禍で病床稼働率が低下しているなか、収益確保の維持に取り組み、病院経営に貢献した。

２．ＨＵ再統合効果の発揮

栄養管理室では「ＨＵ融合の会」を立ち上げ、１つの栄養管理室として運営するための課題を協議するとともに融合に向けて人材交流などを行った。臨床心理室ではＨＵ再統合の深化を図るため、小児科と精神科の連携を強化する取り組みを主導して行い、小児科の患者を精神科外来につなげることができるようになった。

３．医療の質向上と職員満足度の向上

放射線室ではＣＴ検査装置の更新を行い、画質の向上、被ばく線量の低減が可能となり、診断する上で有用な画像を提供できるようになった。リハビリテーション課では安心・安全な理学・作業・言語療法の提供を目的に、職場教育の充実を行い、個々のスキルアップに取り組んだ。精神科作業療法室では訓練室内の環境整備や物品の整理整頓に努め、プログラムの準備や片付けなどの時間短縮を行い、ミーティングの充実と技術の向上を図ることができた。

臨床工学室では臨床工学技士の専門性を活かし心臓カテーテル室での術前および術後の医療材料の準備や出納管理を行った。また、高度で質の高い医療機器の操作を行うとともに、夜間・休日のオンコール体制を構築し、緊急症例に迅速に対応した。歯科衛生室では歯科用ユニット（診察台）を１台増設し、予約枠の拡大と円滑な診療を行うことができた。また、歯科衛生士を１名増員し、医科歯科連携（全身麻酔下で手術を行う患者を対象に手術前の口腔内評価を実施）を始めることができた。

職員満足度の向上については、毎年、医療技術部で独自に職員満足度調査（25項目）を実施しており、昨年度および他部署の満足度と比較することで取り組みの評価を行うとともに今後の課題抽出と職場環境改善に取り組んだ。

４．感染対策の取り組み

新型コロナウイルス感染症の院内感染防止のため、各部署において業務の見直しと感染対策の強化に取り組んだ。また、個人防護具の適切な着脱方法などの研修を受け、コロナ陽性患者に対して必要な検査の実施やリハビリを提供した。

3 今後の課題

１．患者満足度の向上を目指して、各職種の専門性を活かしたチェンジ、チャレンジに取り組む。
２．職員の意見や提案を前向きに捉え、みんなで働きやすく働き甲斐のある職場づくりを目指す。
３．経営基盤の安定と強化に取り組む。
４．感染対策の対応力を強化する。

（文責：医療技術部長　田中　照夫）

放射線室

1 概要

所属長名：小松　剛
構成職員：診療放射線技師　8名
　　合計人数　　8名

2 活動内容・目標に対する達成状況

1．感染対策の実施

昨年に続き、感染防護衣の着用や清拭作業の徹底により、職員から感染者および濃厚接触者を出すことなく業務を行うことができた。

南５病棟では専用のポータブル撮影装置を配置することで、感染拡大につながらないようにし、その他の対策としてはＣＴ室にオゾン搭載空気清浄機を設置、またＣＴ・ＭＲＩ室入口にはスリッパ殺菌ディスペンサーを設置し、患者用スリッパを除菌し使用することで感染抑止に貢献できた。

2．機器の更新

ＣＴの更新（令和４年１月）により、画質の向上、被ばく線量の低減が可能となり、診断する上で有用な画像を提供できるようになった。

ＭＲＩでは画像診断管理認証施設認定を取得し、来年度の装置更新に向け検討を開始している。

3．被ばく低減に取り組む

今年度より電離放射線障害防止規則の改正が施行され、水晶体に受ける等価線量限度が引き下げられたことを受け、被ばく防護用ゴーグル、ネックガードを追加で購入し、医師、看護師など関係部署に対し、放射線被ばくに対する防護の認識を周知した。



3 今後の課題

今年度はＣＴの更新を行うため、各メーカーに装置のプレゼンを依頼し、関係部署と当院の診療に最適な装置を熟慮し選定した。予定通り更新を終え、令和４年１月より稼働を開始している。

来年度にはＭＲＩの更新を行うため、関係部署と共に装置の選定を行っている。また導入には20日程度の工期を要するため、診療にできるだけ影響しない日程の調整や装置が稼働するまでの間、他施設へ検査を依頼するなど、まだまだ課題は山積しているが５月中旬の稼働を目指し取り組みを行っていく。

（文責：放射線室室長　小松　剛）

臨床検査室

1 概要

所属長名：亀井　佳代
構成職員：臨床検査技師　18名
　　合計人数　　18名



2 活動内容・目標に対する達成状況

1．ハートセンターの増患対応

心臓超音波検査件数の増加に対応するため、担当技師２名の育成を行った。検査予約枠は月・水・金は６名、火･木は10名とし、火･木は技師２名で対応した。その結果、検査件数の増加と待ち時間の短縮に大きく貢献できた。

循環器関連の検査件数（心電図・負荷心電図・ホルター心電図など）が増加し、心電図検査は２名で対応した。

2．新規導入検査

令和３年12月より、ＮＴ－proＢＮＰ（ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド前駆体Ｎ末端フラグメト）を院内検査として実施し、携帯心電図の運用も開始した。携帯型心電計は、患者さんが症状を感じたとき、簡単にその時の心電図波形を記録でき、心臓疾患の発見につながることが期待できる。

3．検査精度の向上

外部精度管理として、日本臨床検査技師会と日本

医師会と高知県精度管理調査およびメーカーの精度管理調査に参加した。日本医師会精度管理調査の参加項目修正点は99.3点、その他の精度管理についても良好な結果であった。

4．ＦＭＳ事業

毎月の変動費（検体検査件数×単価＋容器代）を確認し、予定通りの経営効果が得られた。

3 今後の課題

1．新型コロナ感染症の影響で、検体検査件数は前年度比で約103%、生理検査件数は前年度比で約109%であった。また、有熱外来の検査件数は前年の2.5倍6,520件と大きく増加した。
今後も循環器疾患患者の増加が予想され、新たな関連検査も診療部より要望されている。患者満足度の向上を目指した診療体制の整備・強化に必要な人材育成に取り組んでいきたい。

2．令和４年２月に前室長の定年による室長交代と主任昇進があった。チェンジ・チャレンジをしながら職員の働きやすく働き甲斐のある職場づくりに努め、患者・職員・病院全体の『ハッピー度』を高めていく所存である。

（文責：臨床検査室長　亀井　佳代）

栄養管理室

1 概要

所属長名：
細木病院
橋本　由佳
こころのセンター
前田　光代

構成職員：

管理栄養士	11名
栄養士	6名
調理師	9名
調理員	14名
事務員	1名
合計人数	41名



2 活動内容・目標に対する達成状況

［令和３年度目標］

1．収益アップに貢献
2．ＨＵ再統合効果の発揮
3．働きやすく、働き甲斐のある職場づくり
4．非常時の対応力強化

［達成度］

1．外来栄養食事指導は来院患者数の回復に伴い増加した。特に初回栄養指導については医師からも積極的介入依頼があったことから直近４年間の平均値を上回る成果となった。入院栄養食事指導や特別治療食加算については入院患者数の減少が大きく響き、目標達成に至らなかった。

2．再統合効果発揮のために「融合の会」を立ち上げ、業務管理の統一に向けて話し合いを行った。３つの厨房での人材交流（見学やクックサーブの応援）を実施したことで、１つの病院として運営するための課題（リーダー不在、人材育成不十分、有給休暇消化困難など）が判明し、早期解決の必要性が共有できた。また、ＮＳＴ運営については記録などの見直しにより時間短縮が実現できた。

3．男性職員の育休取得が実現し、全職員にとって働きやすい職場づくりを推進することができた。職員満足度調査で浮き彫りとなった「日常的な残業や帰りづらい雰囲気」については、終業チャイムを鳴らすなど個々が時間管理しやすい環境づくりを行い、業務時間内に効率的に働く意識が職場内に浸透した。

4．新館・南館で不十分であった災害用備蓄食材を３日間９食分確保した。コロナクラスター対応は全厨房職員が経験することとなり大変な時期もあったが、栄養・食事に対しては栄養部門が責任をもって取り組むことの重要性が再認識できた。

3 今後の課題

1．栄養部門の融合（細木・こころ）は厨房運営の一体化など解決すべき課題が多い。令和４年度は５年後、10年後を見据えた栄養管理室の在り方を考える必要がある。職員に対しては丁寧な説明を行いながら、すべての職員が力を合わせて新しい栄養管理室を作り上げていきたい。

2．ハートセンターやがん緩和治療における栄養食事指導の需要に応えるため、管理栄養士が適切な栄養管理を行える職場環境を整えていきたい。

（文責：栄養管理室長　橋本　由佳）

リハビリテーション課



1 概要

所属長名：藤本　弘昭
構成職員：理学療法士　50名
　　作業療法士　27名
　　言語聴覚士　17名
　　リハ助手　6名
　　合計人数　100名

2 活動内容・目標に対する達成状況

コロナ禍で病棟稼働率も新館入院患者処方率も低下している中、リハビリテーション部門の収益は減収することなく維持することを部署の基本方針とし、患者満足度も職員満足度も高く保ち続ける企画および管理運営をしていくことを管理目標として掲げた。

1．定量的目標（入院、外来部門）：350単位／一人当たり／月（概算70万円／一人当たり／月）
年度当初に掲げていた数値目標は年間約5億6千5百万円としていたが、結果は5億1千5百万円で、目標の91パーセントの達成率だった。

2．多様性のある勤務形態の中、最大効率を図る勤務調整
病棟や入退院をまたぐ勤務シフトが新型コロナ感染拡大により中断を余儀なくされ、効率性よりも感染拡大防止に目を向けざるを得なかった。配置病棟による業務量格差が生まれる結果となった。一方、休暇に関しては勤務調整に伴い有給休暇を例年以上に取得させることができた。

3．専門職の特色を活かし、効率よく在宅復帰につなげる橋渡しの役割
在宅部門で立ち上げた連携プロジェクトに、リハ課在宅担当者も参加し入院から在宅サービスへの流れができあがると考えていたが、新型コロナ感染拡大にともない連携プロジェクトも中断せざるを得なかった。

4．専門知識の掘り下げと新たな分野へのチャレンジ
令和3年度は糖尿病療養指導士1名の合格者を認めた。同じく糖尿病療養指導士に1名、認定理学療法士（運動器、循環器、呼吸器）に5名チャレンジしている。

5．職員メンタルヘルスケアと健全な職場運営
病棟クラスターで生じたストレスは計り知れない。今後も引き続き課題となった。

3 今後の課題

1．病棟クラスターを経験したことは職員にとって大きなストレスとなった反面、その経験自体が知識や対応能力として残っていくと感じている。

2．病院内、外において、リハ職を介したクラスターが発生することは絶対防がなければならない。個人防護具の適正な着脱方法と感染経路別対策、環境調整の徹底や手指消毒のタイミングなど、感染対策は他の職種以上に徹底する方針である。

3．こころとからだは密接な関係があり、どちらが欠けても安定しない。当部署の職員は健全であり続けてほしい。そのためのサポートを所属長としても取り組む所存である。

（文責：リハビリテーション課長　藤本　弘昭）

□ リハビリテーション課　理学療法室

1 概要

所属長名：藤本　弘昭
管 理 者：理学療法室係長
　　井上　富子
構成職員：理学療法士　50名
　　合計人数　50名

2 活動内容・目標に対する達成状況

1．令和3年度の主な目標として、①病院経営に貢献する（350単位／月、1人当たり70万円／月を確保）②自己研鑽を推奨し、個々の知識・技術の幅を広げることで理学療法室の質の向上を図る。③安心・安全な理学療法の提供を目的に、リスク管理に対しての知識・技術を高める。④災害対応を心掛け、非常時の対応力を高める。⑤働きやす



く、働き甲斐のある職場づくりを行う。

2．目標達成状況

①病院経営に貢献する

令和３年４月～令和４年１月の実績は、平均765,817円で目標達成。２月・３月に関してはコロナ禍の影響により達成できなかった。

②理学療法室の質の向上を図る

今年度はＷｅｂ環境を利用して研修会に参加する職員が多かった。ＰＴ室の勉強会については、参加が難しかった職員もＷｅｂ配信を導入したことで、リモート参加が可能となった。

③安心・安全な理学療法の提供

コロナ禍で、病室でのリハ介入に関しては、ＰＰＥの着脱の練習をユニットごとに実施した。

病室で患者さんが自主訓練を行えるように、個々の状態に合わせたパンフレットや訓練道具を作成した。

④災害対応

コロナ禍でのリハビリ介入については、フルＰＰＥでのリハ対応が必要であった。訓練時間の制限もあり、患者さんからも「入院しているのになぜ訓練ができないのか」などの不満も聞かれ、ストレスの多い時期であった。

⑤働きやすい・働き甲斐のある職場づくり

有休は、平均して10日前後の休みを取ることができた。残務については、個人差が大きい状態で、今後の取り組み課題となる。

3 今後の課題

1．新型コロナウイルスの影響により、病棟稼働率の低下や理学療法処方の低下が予測される。

現在、感染対策として病棟間でのフォロー体制を禁止しているが、人員不足の部署もあり、効率的に動けていない。フォロー体制を検討していく必要がある。

2．今後予測される地震などの大規模災害を考えると、コロナ禍と比べても、より場所や物品・人員不足が予測される。災害に対する知識などを習得するため、研修会への参加を促し、職員全員が対応できるように準備が必要と考えている。

3．心臓リハビリテーション室の拡張工事が予定されており、専従職員数の検討が必要である。また、循環器患者の増加が予測されることから、リスク管理も含めた知識の向上に努めたい。

4．働きやすい・働き甲斐のある職場づくり

残務については、担当する病棟によって動き方が異なり、終了時間に遅速の差があるのが課題である。残務をしている職員に声を掛けるなど、皆で助け合える風土づくりが大切と考えている。

5．今回、コロナ禍で働くにあたり、看護師などの病棟職員との情報共有を行い、連携することの大切さを再認識した。普段から相談し協力し合える関係性を築いていることが、非常時には大切だということを体感した１年であった。

（文責：リハビリテーション課　理学療法室係長
井上　富子）

□ リハビリテーション課　作業療法室

1 概要

所属長名：リハビリテーション課長
藤本　弘昭
管理者名：リハビリテーション課長補佐
田村　智恵子
構成職員：作業療法士　27名
合計人数　27名

2 活動内容・目標に対する達成状況

1．対象者に適した作業療法を提供する

集団の場を活用した調理活動や正月行事など、新たな活動を実施し、患者満足度につなげるとともに「ＯＴとは何か」を考える機会を持つことができた。ユニット別ＯＴの役割・働き方の見直しも行い、システム変更を模索していたが、コロナク

ラスター発生時に頓挫してしまった。クラスター発生時に病棟業務手伝いに従事した経験を活かし、病棟やリハスタッフ間との新たな関係性を構築しＯＴ活動につなげていけるよう取り組みを再開している。

2．職場教育の充実と個々のスキルアップ
毎月実施している部署内勉強会で興味を深めてもらい、外部研修会参加へつなげる活動を教育委員中心に展開した。勉強会では講義形式の受け身的な内容から体験やディスカッションを交えた参加型のものへ変更し興味を深める工夫を行った。ＳＮＳを活用した研修会案内の効果や、ＷＥＢ研修で自宅から参加しやすくなった環境変化も影響して、外部研修会への参加率も増えた。また、リハ課独自に作成している教育ラダーの個人の状況を確認しながら研修会参加の促しや学生指導、課内での役割などを与えたことで６名の職員がラダーランクを上げることができた。

3．必要な物品・備品・環境面の整理を行う
必要数のバイタル測定物品を揃え、適切に管理できるよう新しい管理システムを構築し、運用することができている。

4．互いに気持ちの良い人間関係の構築と相談しやすい雰囲気をつくることを意識し、声掛け感謝し合いながら目標達成を目指す
下期からＯＴミーティングを報告の場から検討・ディスカッション・プレゼンできる場に変え、職員が発言しやすい環境づくりに努め、少しずつ意見が出るようになってきた。



3 今後の課題

1．軌道に乗り始めていた取り組みもコロナクラスターが発生したことにより振り出しに戻ってしまった活動が多くあった。また、クラスター発生時に自分たちの感染対策に対する知識・経験が不十分なため訓練提供ができず、患者さんにとって不利益となる状況をもたらした。これからもさまざまな変化が予測されるなか「持続可能な体制づくり」が今後の課題となる。

2．令和４年度は産休・育休者が最大７名となり実働人数が減少する。また令和３年度途中に室の管理者である係長が不在となった状態が続いている。管理面で職員が不安に思うことがないように、今後の室管理体制を整えるとともに次世代の育成に力を入れていきたい。

（文責：リハビリテーション課長補佐　田村　智恵子）

□ リハビリテーション課　言語療法室

1 概要

所属長名：
リハビリテーション課長
藤本　弘昭
管理者名：
係長　楠瀬　さやか
構成職員：
言語聴覚士（ST）17名
合計人数　17名



2 活動内容・目標に対する達成状況

令和３年度は３名の新入職員を迎え、18名（実働16名）体制でスタートした。９月に１名退職したが１名育休から復帰した。11月には中堅職員１名が産休入りした。３月末には１名退職となった。

令和３年度は『STの専門性の発揮』をコンセプトに以下の目標を立てて取り組んだ。令和２年度から引き続き、新型コロナウイルス感染症の対応に右往左往した１年であった。

1．言語聴覚療法の充実

３名の新人に対してそれぞれのバイザーが指導するとともに、他STも協力して新人教育に取り組むことができた。個々の自己研鑽として、ST全体で年間126件の院外研修に参加した。一人あたり年間12件を目標としていたが平均７件であり、０～33件と個人差が大きい状況が続いている。

令和３年度からST養成校からの実習受け入れを再開した。１週間の見学実習と４週間の評価実習にて１名ずつ受け入れ、学生指導を経験することで担

当したSTの成長につながった。

2．集団コミュニケーション療法の継続・拡大

回復期リハ病棟にて４月は継続できたが、５月以降は感染対策にて中止となり、そのまま再開できなかった。南館病棟と小児外来での提供開始を目標としたが、感染症流行により開始することが叶わなかった。対象者の抽出、頻度や場所・プログラム等実施プランの具体的検討を行い、状況に合わせて開始できるように準備をしている。

3．摂食・嚥下リハビリテーションの質の向上

他職種とのコミュニケーション強化に向けて、情報発信・共有に努めた。患者の簡易評価結果を主治医に報告し、精密検査が必要な場合は積極的に提案した。必要な時期に必要な評価ができるようにコーディネートし、方向性検討と決定、食事の介助方法の共有を行うことで患者サービスの向上につなげた。耳鼻咽喉科医師とも密に連携し、訓練方法や手技について相談した。嚥下回診は２月に病棟クラスターが発生してから全病棟で中止となった。

4．在宅部門の拡大

デイケアゆうゆうと訪問リハビリテーションのST対象者増加に向けて取り組んでいたが、２月以降は入院・外来部門との兼務が困難となり、介入を中止せざるをえなかった。

3 今後の課題

1．STの業務内容は、摂食･嚥下訓練や構音訓練など患者がマスクを外している場面で対応することが多く、withコロナ時代において感染対策が必須である。PPE（個人防護具）の適切な使用と着脱方法の徹底を今後も遵守していく必要がある。

2．感染対策が必須となった現状において、いかに実績（患者介入件数など）を回復させていくか、業務改善･効率化についてSTみんなで考え取り組んでいく必要がある。

（文責：リハビリテーション課言語療法室係長
楠瀬　さやか）

精神科作業療法室

1 概要

所属長名：吉村　康世
構成職員：作業療法士　６名
　　合計人数　　６名

2 活動内容・目標に対する達成状況

1．感染対策の強化

前年度の課題であった、各スタッフの身体管理は、チェックリストを使用して視覚化し、徹底することができた。プログラムで使用する物品の管理においても、チェックリストを作成し、使用前後の物品消毒、訓練室内の消毒も徹底した。

2．単価アップに取り組む

患者のＯＴ集団活動参加率（以下、ＯＴ参加率）の周知徹底を行い、ＯＴ職員間での意見交換を通して患者の状態把握に努め、対応方法の統一、アプローチの改善を行い、ＯＴ参加率を維持することができた。前年度に引き続き、感染対策のため、個別活動中心の対応となっており、患者一人ひとりのニーズに合わせてアプローチした。

3．業務のムダを排除する

訓練室内の環境整備、物品の整理整頓を行い、プログラムの準備や片付けなどの業務で時間短縮ができた。時間短縮することで、スタッフミーティングの時間を増やすことができ、情報共有の機会をつくることができた。

4．スタッフの専門性向上を目指す

定期的に勉強会を開催し、スタッフ間で技術向上を目指す取り組みを行うことができた。また、



日々の振り返りも定期的に行い、的確なフィードバックができた。

3 今後の課題

今年度は、入院生活での支援に取り組むことができたが、退院に向けた支援としては、多職種への働きかけが不十分となった。今後は、カンファレンスへ積極的に参加し、情報収集を密に行い、外来ＯＴ導入を勧めるなど、退院支援の強化を図る必要がある。また、スタッフの技術を向上させることに関しては、外部の勉強会への参加率が少ない状況であった。今後は、オンライン研修の参加を積極的に促し、知識を深めていきたい。

（文責：精神科作業療法室主任　吉村　康世）

臨床心理室

1 概要

所属長名：池田　貴美
構成職員：公認心理師　5名
　　合計人数　5名

2 活動内容・目標に対する達成状況

1．コロナ対応を継続しつつ収益性を高める意識を持ち業務に取り組む
心理検査の年間件数は626件で前年比では46件減少した。2度目の院内感染による外来診療の縮小に伴う検査中止の影響が大きい。心理面接の年間件数は2,921件で前年比では395件増加した。感染対策下での電話対応の増加や小児科などからの紹介ケースの増加が大きく影響している。感染対策で休止していた集団療法(精神科ショートケア330点にて算定）も再開し年間72回（1回約10名）実施できた。また入院に強い抵抗を示す患者に、その必要性などを丁寧に説明し入院治療を導入できた。入院治療においては心理面接により症状改善や生活の立て直しを3カ月以内に図り、急性期加算の収益にも貢献できた。

2．若年層から中年期にある患者の支援を充実させることで高齢化社会を支える担い手を育成し社会構造の変革に寄与する
若年層から中年期にある患者への介入により復学・復職支援に努めた。また、精神科デイケアで復学・復職支援ができるよう、連携を取りつつ助言・指導を行った。社会復帰を目標とする多くの患者に対応できる治療環境が整いつつある。

3．ＨＵ再統合の深化を図るため、小児科と精神科の連携を強化する
8月に精神科・小児科（こころの外来）合同院内勉強会を臨床心理室主催で開き、両科医師の顔合わせができた。その後は精神科医師を心理士が全面的に補助することで、これまで他院に紹介してきた小児科のケースを精神科外来診療へとつなぐことができるようになった。

4．職員の満足度と専門性の向上に取り組む



当院には多くの適応障害の方が来院される。適応障害に対しては心理社会的治療が必須であり、精神科医師から多くの依頼を受け、心理検査・心理面接・集団療法を実施しており、やりがいを感じられる職場である。地域貢献として、まっことネット細木や学校での研修会講師依頼を引き受け、啓発活動に積極的に参加できたことも専門性を高める機会となっている。

5．医療安全、感染対策に取り組む
感染対策への意識を徹底し、今年度も臨床心理室内での感染者は発生しなかった。

3 今後の課題

コロナ禍で自殺者が増加しており、令和3年は当院精神科においても自死遺族の支援ニーズが高まってきた1年であった。感染対策をとりつつも現状の閉塞感を少しでも緩和できたらとの思いで業務にあたっている。

発達障害や引きこもり、職場不適応などさまざまな様相を呈する患者が増加しているが、生活リズムや食生活の改善が人をいかに健康に導くかを実感することが多い。入院治療ではそれらの改善が期待できるため、心理士が関わったケースについては入院治療を導入できる場合があるが、体系的には導入ができていない。多職種での協議、システム構築を図っていくことが今後の課題である。

（文責：臨床心理室係長　池田　貴美）

臨床工学室

1 概要

所属長名：医療技術部長　田中　照夫
構成職員：臨床工学技士　3名
　　合計人数　3名

2 活動内容・目標に対する達成状況

1．臨床工学室では院内で使用する医療機器（以下、機器）の保守管理を主に中央管理方式で行っている。部署管理の機器に関しては故障時や異常時に対応し、一部の管理クラスの高い機器に関しては定期的に訪問点検を行った。また、手術室の術中

使用予定の機器に関しては使用前に毎回作動確認を行った。

2．ハートセンター業務では、臨床工学技士の専門性を活かし、心臓カテーテル室での術前および術中の医療材料（心臓カテーテルなど）の準備、医療材料の出納管理を行っている。また、ＥＣＭＯやＩＡＢＰなどの補助循環の操作、カテーテルアブレーション時に使用するＣＡＲＴＯシステムなどの操作を行い、高度で質の高い医療の提供を行っている。夜間・休日のオンコール体制も構築し、緊急症例に対し迅速に対応できるようになった。

3．新採用職員に対して、当院にある機器を安全に使用できるように基本的な操作方法やチェック方法などを研修会で開催して講習した。また、ハートセンターの患者増に伴い、ＥＣＭＯ、ＩＡＢＰ、ＣＨＤＦも導入され、病棟看護師に対し管理方法や操作説明を行った。

3 今後の課題

1．ハートセンターにおける清潔野業務への関わりなど、さらなる業務拡大に取り組む。



2．人員増加に伴い、新たな業務への参画を検討したい。

3．接遇研修を積極的に行い、患者をはじめ職員からも信頼される臨床工学技士を目指す。

4．専門職としての自覚と自信を持つため、研修プログラムに基づいて教育を行い、臨床工学室全体のレベルアップを図るとともに、医療の質の向上を図っていきたい。

（文責：臨床工学室室長　金本　雄泰）
（2022年４月１日就任）

歯科衛生室

1 概要

所属長名：医療技術部長　田中　照夫
構成職員：歯科衛生士　２名
　　デンタルアシスタント　１名
　　合計人数　３名

2 活動内容・目標に対する達成状況

1．他職種との連携

①全身麻酔下で手術を行う患者を対象に、安全に手術が行えることを目的として、11月から新しく手術前の口腔内の評価を開始し、医科歯科連携を開始した。他職種の働きと上手く協働していけるように、適宜、意見交換を行い、関連部署の協力を得ながら、現在では円滑に運営できている。

②患者満足度の高い治療介入を行うために、他職種との連携を積極的に行って情報収集に努めている。また、声掛けしやすい関係性を育むことを意識し、情報がいきかう環境をつくっている。

2．診療体制の整備

①歯科用レセプトコンピューターに予約表システムを導入し、予約の情報を北館医事課のパソコンでも管理できるようにした。それにより、歯科の予約に関する作業は、北館医事課でも行えるようになった。専門的な問い合わせは、歯科衛生士で対応するよう対策をとっている。分業することにより、歯科衛生士の専門的な業務に集中することが



可能となり、患者にとっては折り返しの電話を待つ必要がなくなるなど、円滑な患者対応ができるようになった。

②歯科用ユニット（診療台）を新しく増設し、合計２台での診療体制となった。これまでは歯科用ユニット１台とポータブルユニット１台で運営してきたが、ポータブルユニットでは快適な治療環境を患者に提供することができず、最低限の使用でとどめていた。もちろん、ポータブルユニットでないと治療できない場合があるので設備としては必要不可欠な設備である。治療環境が整ったことで、予約枠を増やすことができ、診療が円滑になった。余分な時間を排除し、業務の効率化が図れている。

③歯科衛生士を１名増員したことによって、活動の幅が広がった。手術前の口腔内の評価を開始できたことのほか、日々の業務も並行して行えるよう

になり、効率的に働くことができた。

3．医療安全・感染対策の継続

変化するコロナ状況の中、適宜、感染対策室の助言を得て、安全な治療介入を行うことができた。また、歯科診療室内で働く職員の体調管理を徹底し、感染対策を意識した活動に努めた。

3 今後の課題

これからも活動の幅を広げていくことに前向きに取り組んでいきたい。引き続き、多職種との連携を強化し、専門職として一人ひとりが自己研鑽に励み、充実した介入を提供できるように努めていきたい。

（文責：歯科衛生室主任　内平　真実）

事務部


事務部長
宮地　耕一郎


事務部副部長
中路　達也


事務部副部長
中嶋　光宏

令和３年度の事務部門は、年度当初に以下の目標と取り組みを掲げ、業務遂行に努めました。

1 事務・独立部門の目標

⇒“強い部門”“頼られる部門”“情報発信する部門”を目指す。

1）常に当事者意識を持ち、“チェンジ・チャレンジ”する。
2）「病院の目標と取り組み」の達成のため、事務･独立部門もそのリーダー役として積極的に取り組む。
3）日ごろの取り組みを成果につなげ、それを、院内外に情報発信していく。
4）働きやすく、働き甲斐のある職場環境を実現する。

2 事務・独立部門の取り組み

1）コロナ禍で担うべき社会的役割の発揮と経営の安定化に取り組む。
①以下の社会的役割を果たす。
・コロナ陽性患者の入院受け入れ医療機関
・コロナ検査協力医療機関
・コロナワクチンの住民接種協力医療機関
②適応する補助金、支援金を適時適切に最大限確保する。
③リモート診療、リモート面会の体制整備を推進する。
④経営指標の整理と、効率的効果的な経営データの収集・分析手法を確立する。
⑤経営の安定化に向けて、各部署の主体的な取り組みを推進する。

2）正常化に向けた新たな体制整備と構築に取り組む。
①１日当たり入院患者の目標値（休床補償時:383人／日、正常化後：410人／日）の達成に取り組む。
②「ほそぎハートセンター」のさらなる増患に取り組む。
③酒井コンサル・ミーティングを継続し、具体的な取り組み課題を着実に実行する。
④地域資源、法人内資源との連携（前方連携、後方連携、医療介護連携、医科歯科連携）をさらに推進する。
⑤ＨＵ再統合の深化とマネジメント力の強化を図るため、事務・独立部門の組織体制や役割を大幅に見直す。
⑥令和４年度の介護医療院への転換を含め、病棟再編（第２ステップ）の検討を進める。

3）働き方改革の推進と労働生産性の向上に取り組む。
①有給休暇の取得と時間外勤務時間の削減を推進する。
②事務・独立部門全体のＩＴスキルの向上を図り、業務プロセスの改善と生産性の向上につなげる。

4）クラスター防止と非常時の対応力強化に取り組む。
①全力でクラスターの再発防止に取り組む。
②引き続き、医療事故（アクシデント）の減少に取り組む。
③地震や火災、感染症アウトブレイクなどの非常時の対応力強化を進める。

3 取り組みの成果

令和３年度は、前年度に引き続き「コロナ禍との闘い」でした。コロナ重点医療機関としての役割を果たしつつ、以下の成果を上げることができました。

①「ほそぎハートセンター」の増患
「ほそぎハートセンター」のさらなる増患に向け、連携病院訪問や広報の強化、ドクターカーの運用などに取り組みました。
コロナ禍の大きな影響も受けましたが、着実に診療圏での認知度がＵＰし増患につながっています。

②デジタル化の推進
コロナ禍の中、病院全体でデジタル化を推進しています。
・診療運営会議や医局会等、ほぼ全ての会議をデジタル化するとともにペーパーレス化しています。
・また、医療安全や感染防止などの研修会もYou Tubeを使った研修会に切り替えています。
・クラスター発生時などの緊急時には、全員参加のzoom会議ができるよう各部署へのzoomパソコンやＰＣの配備、デジタル会議室の整備などを進め、全職員が活用できるようになりつつあります。

③診療報酬改定への対応と入院単価ＵＰ
・今年度の診療報酬改定への対応を進め、特に入院単価は新３病棟（急性期入院基本料１）で大きくＵＰしています。

④新型コロナ対応への取り組み
・引き続き「新型コロナ対策チーム」と「新型コ

ロナワクチンチーム」の２チームを司令塔に遅滞なく対応できる体制を整えています。
・また、院内感染対策室の陣容を強化すべく、もう１人の専任看護師の養成と事務職員１名の配置をしています。

（文責：事務部長　宮地　耕一郎）

人事総務課



1 概要

所属長名：文野　正史
構成職員：事務　　11名
　　秘書業務　２名
　　交換業務　５名
　　（うち派遣１名）
　　合計人数　18名

2 活動内容・目標に対する達成状況

1．コロナ対応、南海トラフなどの情報を積極的に収集し、病院の対応力強化に助力する。ワクチン接種時の責任者としての対応や、案内、受付係としての役割を担った。また毎日Ｇ－ＭＩＳへの入力も行った。南海トラフに備えて、定期的に高知市が行う衛星携帯電話回線によるメール送信訓練、ＦＡＸ送信訓練、Ｅ－ＭＩＳ訓練に定期的に参加して、若干参加が漏れたりもしたことが反省点である。
2．年金機構への申請を一部電子化したことで、多少楽になった面もある。給与明細の電子化は、希望者が少なかったため現在滞っているが、引き続き運用開始できるよう検討を重ねたい。
3．昨年１番大きな出来事で、総務課と人事部（課）が統合して人事総務部（課）が発足し、業務の統合により業務の見直し、合理的な運用、業務改善を行う必要がある。これについては、システムの導入による業務の効率化も視野に入れながら、進めていきたい。
4．昨年度末に、秘書が中心となって、医師の勤怠管理、タイムカード打刻を実現、実施をすることができ、今まで全く管理できてなかった労務管理が可能になった。休暇取得状況も、システムで確認できるので、業務の短時間化、簡素化が可能になった。また日高クリニックでも、タイムカードの運用が２月から開始し、全体での管理が可能となった。
5．ドクターカーの運用も始まり、最初は戸惑いもあったが、慣れてくるにつれ何とか急な呼び出しにも対応できるようになった。

3 今後の課題

上記２の３にも書いたが、組織の統合により今までバラバラに進めていた業務の統合がとれる体制になったことをいいチャンスととらえて、システム導入を図り、流れるような業務を目指し、無理、無駄な部分をそぎ落として、本当に必要なことに時間を割いていきたい。

人事総務課としては、職員へのサービスが第一になるので、すぐに離職にならないように必要なもの（こと）が漏れていないかを、再検討して働きやすい職場、働き続けたい職場をこれから作り上げていきたい。

（文責：人事総務課長　文野　正史）

医 事 課

1 概要

所属長名：古谷　英理
　　浅津　里衣
構成職員：本院　　26名
　　（課長２名、係長１名、主任１名）
　　こころのセンター　６名
　　（主任１名）
　　合計人数　　32名

2 活動内容・目標に対する達成状況

1．ＨＵ人事交流による新しい意見や考え方を取り入れた業務改善に取り組む
2．コミュニケーションスキルの構築と接遇能力向上を目指す
3．延滞未収金の回収率を上げる
4．専門職としての技術を身につけスペシャリストを目指す

5．新型コロナウイルスのクラスター防止と感染対策の強化

本院とこころでは業務内容に質的、量的にも違いがありスキルの標準化を目指しているがハードルが高く、メンタル面含め人事交流による体制の整理が必要である。

接遇では個人差が大きく向上にはつながらなかった。一方、未収回収は活動が業務化され意識的な回収ができている。

指導、教育ができる環境が不十分で一部の職員に負担が増えている。今後の大きな検討課題となる。



細木病院　医事課



こころのセンター　こころ医事課

3 今後の課題

1．ワーキング活動は医事課の業務改善に影響を与えた。しかし、職員の中には認識のズレにより負担と感じる部分があり、やる事の意味を正しく伝えることが必要と反省している。検討と対策を医事課スタッフへフィードバックし、やる気につなげ目標達成を目指す。

2．指導、教育ができる環境を早急に整えスキルの標準化を目指すとともに、働きやすく働き甲斐のある職場を目指す。また、来年度は診療報酬改定であり新しい基準を理解し積極的な請求を行っていく。

3．受付は病院の顔であるという意識を持ち、接遇のプロフェッショナルとして対応力を強化する。

4．医事課内の清掃や換気が積極的に行えている。新型コロナウイルスに対し、引き続き感染対策を徹底し予防に努めていく。

5．診療報酬を他部署の職員にも伝え、理解していただくことで病院の質の向上、収益アップにつながる取り組みを行いたいと考えている。

（文責：医事課長　古谷　英理）

用度課

1 概要

所属長名：村田　真
構成職員：事務　　3名
　　合計人数　3名

2 活動内容・目標に対する達成状況

1．前年度のコロナ禍による影響で世界的に品薄となり、価格高騰した防護衣関連品を前々年度の購買単価並みの価格に戻すよう取り組む目標において、8割程度の成果を得られたが、全品の確保には至らず、コロナ禍の一因とみられる輸送便の減便で安定した供給が得られず、さらに原油高騰などの影響で、主に輸入商材で値上げとなった物品も発生し、代替品や従来の価格帯で購入できる商材探しに時間を要した。



2．請求書の照合作業の効率化に、物品管理システム、消耗品受注システム、ＷＥＢ発注（請求）データ、Excelでの単純入力による情報データを活用し、慢性的な超過勤務時間の削減を目指し、それぞれの入力データの整合性、簡素化を図り、試行錯誤を繰り返しながら約4割の削減ができたことは、大きく前進する一歩となった。

3 今後の課題

1．依然としてコロナ禍による防護衣関連品の供給遅延・不足は、安心できる領域とはならないため、後期より同等品の２社購買に取り組み、一方の供給遅延などの事態が発生した際にカバーできることとなった。すべての主要な防護衣関連品の購入に努めていくように対応する。

2．物品をＷＥＢ上で請求できる「消耗品管理システム」が導入より２年経過し、利用部署は７割程になり、用度課窓口での出入庫の混雑が随分と緩和されてきた。しかし、物品の問い合わせ連絡で作業が止まることがまだまだ多く、システム内の物品マスタの規格・詳細を充実させて、物品が検索しやすく、物品内容が一目で分かるよう今後も取り組んでいく。

3．納品書・請求書照合の簡素化にそれぞれのデータフォームを使用したために情報データが分散するといった弊害が生じることになった。再度、入力した情報データを一元化することで、請求金額照合や部署での使用実績が把握できるデータベースの環境を整える。

（文責：用度課長　村田　真）

施 設 課

1 概要

所属長名：真鍋　誠

構成職員：技能員　3名
運転手・技能員　1名
運転手　5名
合計人数　9名





2 活動内容・目標に対する達成状況

1．新型コロナに対する体制への取り組み

新型コロナ感染防止対策として本館外来者用の洗面台手洗いの蛇口を調べたところ、数台がハンドルタイプの蛇口だった。それらをすべてタッチレスの自動水栓式に交換を行った。

2．病院の維持管理、設備機器の機能強化

新館４階の手術室内を業者が調査と測定が行った結果、手術室内が陰圧であるとの調査報告が業者よりあった。手術室から陽圧化を行いたいとの要望があり、空調業者に相談したところ排気口の改装をして外気調整を行うことにより陽圧化ができるとの回答があったので、排気口を改装し外気の調整を行った。

3．病院方針による建物改築など対応

在宅部が上町のビルから元銀行の建物へ引っ越しすることになり、元銀行の建物内装の一部改装しエアコンなどの取り付けを行い対応した。

4．省エネ対策の実施

平成30年に行った新館空調機更新と照明器具ＬＥＤ化と断熱工事の効果があり本館・新館のピーク時の電力を下げることができた。そこで電力会社との話し合いをして契約電力を下げる電力需給契約の変更を10月に行った。契約電力を下げることにより電力会社への基本部分の支払い金額を下げることができた。

3 今後の課題

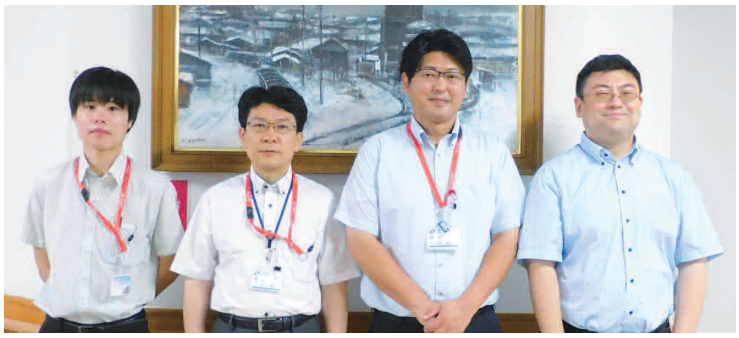
前述したとおり、本館・新館の契約電力を下げて基本部分の支払い金額を下げることはできたが、昨年末から世界的な原油価格上昇の影響で電気の単価が上がり最近は全体の支払い電気料金としてはアップしている。今後も電気の単価は上昇傾向と思われるので、老朽化して修理部品の供給不可になってきている南館全体の空調機の更新を計画している。現在の１階２階の全館空調システムを廃止して個別化を行い、さらに省エネ性能の高い空調機を南館全体に導入をしていきたいと考えている。

（文責：施設課長　真鍋　誠）

情報システム管理課

1 概要

所属長名：前田　卓郎
構成職員：システム担当　4名
　　合計人数　　4名



2 活動内容・目標に対する達成状況

1．電子カルテシステム・院内ＰＣ保守

日次・月次の集計作業、電子カルテシステムのハード面を含めた運用サポート、院内ＰＣなどの保守作業を行いました。電子カルテ端末・プリンタの使用年月が経ってきており不具合などが少し目立ってきております。早期の修理対応に努めますのでご理解のほどお願いいたします。

2．Ｗｅｂ会議・リモート面会対応

院内・院外のＷｅｂ会議などのサポートを行いました。課員増員に伴い、院内リモート面会の対応も円滑に行うことが可能となっています。

引き続き、院内ＩＴ活用に向けたサポートを行っていきます。

3 今後の課題

1．院内セキュリティ対策

電子カルテシステムや関連する部門システムの構成をしっかり把握し、ランサムウェア対策をソフト面、ハード面での対応を積極的に行っていく必要があります。

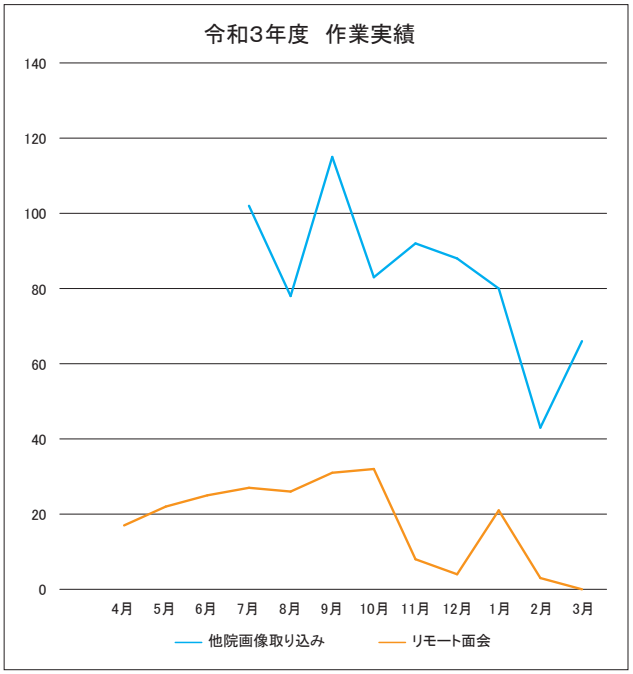
2．院内ＩＴ推進・強化

院内ＩＴ技術向上の取り組みや、ネットワーク環境の整備（Ｗｉｆｉ環境整備など）を行っていきます。

■ 2021（令和３）年度　作業実績

内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
他院画像取り込み				102	78	115	83	92	88	80	43	66	747	※1
リモート面会	17	22	25	27	26	31	32	8	4	21	3	0	216	※2

※１　2021年７月より計測開始。
※２　2021年２月４日～３月28日までリモート面会停止。



（文責：情報システム管理課主任　前田　卓郎）

臨床支援課

1 概要

所属長名：門田　美紀
構成職員：
医療秘書　11名
合計人数　11名



2 活動内容・目標に対する達成状況

「課業拡大を目指した業務体制の再構築に取り組む」

1．医師の院内支援体制拡大
2．医師の学術業務支援
3．人材育成への取り組み
4．臨床支援課の業務体制再構築

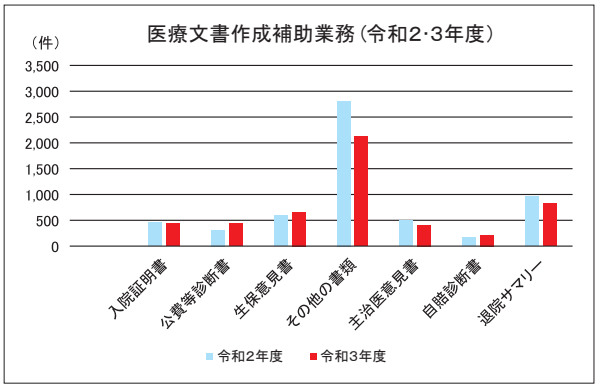
新任医師に対し電子カルテレクチャーから開始し代行入力、医療文書作成補助業務など順調に支援継続ができている。症例登録は全症例を期日までに登録を終えている。今年度は当課に２名の新人を迎え入れ、独り立ちに向け、カリキュラムに沿った教育を行っている。また、日本医師事務作業補助研究会全国大会において２演題を発表し、そのうち１演題は優秀演題賞をいただくことができた。そして、業務改善を各チームが提案、達成しており医師の負担軽減や医療の質向上にも取り組めた。

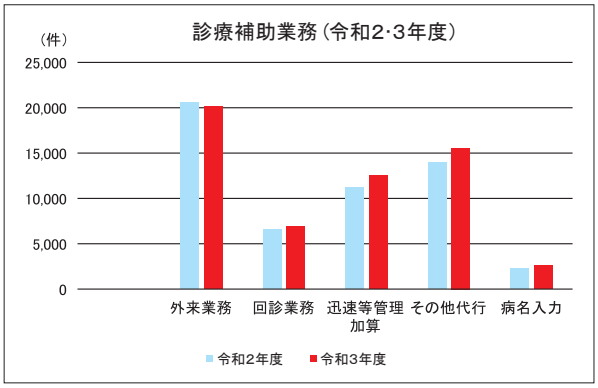
3 今後の課題

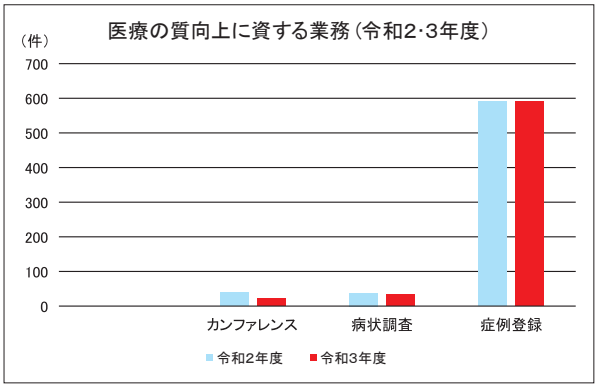
医師支援業務拡大に向けて業務の効率化、標準化を進め、柔軟な業務体制を目指してきた。医師への支援を積極的に行い、領域によっては専門性が高くなり深化している。また、学会等からの調査依頼のデータ収集や回答といった業務が年々増加しており、医師の学術支援も当課業務として定着してきた。全医師へ何らかの支援は行っているものの、医師の働き方改革に向け、医師の要望を伺うなど支援の見直しも検討が必要と考えている。

■ 2021（令和３）年度　医療秘書業務実績

業務分類	項目	令和２年度	令和３年度
医療文書作成補助	入院証明書	464	447
	公費等診断書	319	440
	生保意見書	610	673
	その他の書類	2,858	2,166
	主治医意見書	512	418
	自賠診断書	169	221
	退院サマリー	985	837
診療補助	外来業務	20,854	20,343
	回診業務	6,662	6,990
	迅速等管理加算	11,383	12,673
	その他代行	14,140	15,749
	病名入力	2,272	2,587
医療の質向上に資する業務	カンファレンス	49	18
	病状調査	46	30
	症例登録	589	590







（文責：臨床支援課課長　門田　美紀）

診療情報課

1 概要

所属長名：古谷　英理
構成職員：診療情報管理士　3名
　　事務員　3名
　　合計人数　6名



2 活動内容・目標に対する達成状況

1．診療情報管理の専門性を発揮し、管理体制の整備
2．他部署と連携を図り、医療の質と安全性の向上に努める
3．量的、質的点検の精度を上げ、分析・改善し医療の質の向上を図る
4．施設基準の総合的管理体制の構築

精神科の紙カルテとの一元管理が難航している。まず、本年度は統合以降に死亡退院された患者のカルテの一元化への取り組みを行った。次に、精神科カルテの現状把握の取り組みを開始している。

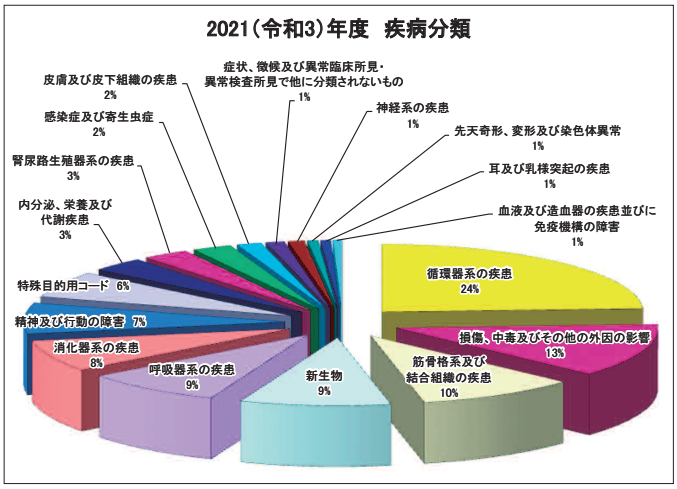
ＥＶＥのデータを活用しＤＰＣ管理委員会を通じ、係数アップを図る取り組みを各部署で共通認識していただき、検討と対策を行っている。

日常業務を通して気づいた改善点は積極的に他部署へ提言し、連携を図るとともに業務改善・精度向上に努めることができている。また、診療録の量的点検を通し改善点をフィードバックし、他部署との連携強化に努めた。

コロナ禍で多くの学会や院外研修がＷＥＢ配信となったことで、多数の研修受講が可能でスキルアップを図ることができている。

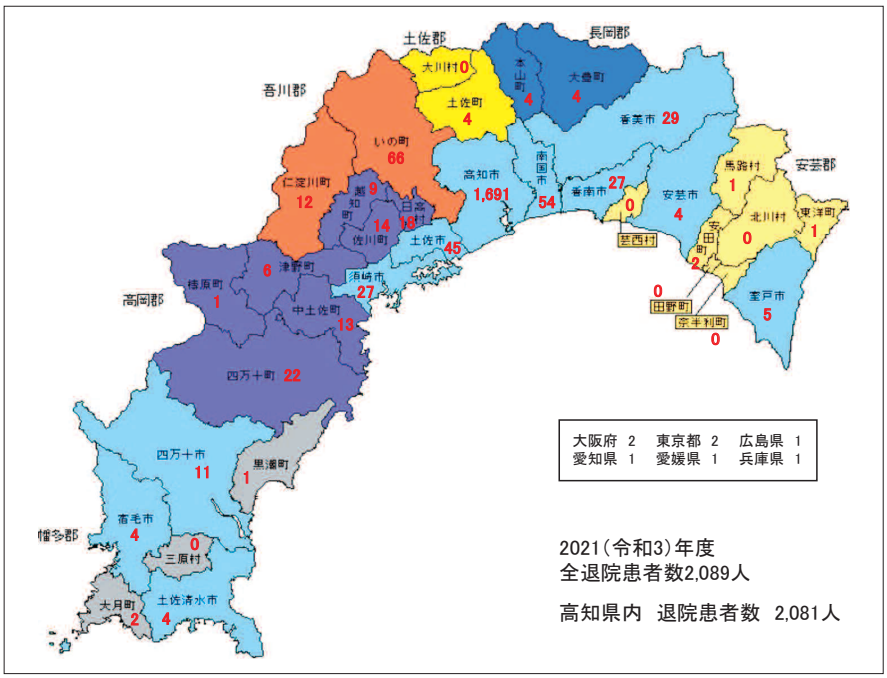
3 今後の課題

1．診療情報管理の専門性を十分に発揮した業務ができていない。もう一度、基準を理解した上で取り組む必要があり、勉強会など取り入れ精度を上げたいと考える。
2．また、診療情報管理が増員され作業の見直しにより、新しい取り組みを試みることができている。管理士の育成も合わせて行っており、機能強化し質の向上を目指したい。
3．他部署との連携により業務の簡素化が図れている。今後も問題点発生時はしっかりとコミュニケーションを取り改善していきたい。
4．精神科による診療録の一元管理は、体制的にも困難な状況がある。現状把握を進め、できる所から一元管理を行いたい。



令和３年度　ＩＣＤ10　大分類

循環器系の疾患	505
損傷、中毒及びその他の外因の影響	265
筋骨格系及び結合組織の疾患	206
新生物	194
呼吸器系の疾患	180
消化器系の疾患	158
精神及び行動の障害	154
特殊目的用コード	131
内分泌、栄養及び代謝疾患	70
腎尿路生殖器系の疾患	60
感染症及び寄生虫症	51
皮膚及び皮下組織の疾患	32
症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	24
神経系の疾患	21
先天奇形、変形及び染色体異常	14
耳及び乳様突起の疾患	13
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	11
眼及び付属器の疾患	0
健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	0
周産期に発生した病態	0
傷病及び死亡の外因	0
妊娠、分娩及び産じょく<褥>	0
	2,089



	3年度	2年度
高知市	1,691	1,674
いの町	66	63
南国市	54	80
土佐市	45	31
香美市	29	19
香南市	27	27
須崎市	27	22
四万十町	22	14
日高村	18	24
佐川町	14	14
中土佐町	13	13
仁淀川町	12	6
四万十市	11	7
越知町	9	7
津野町	6	4
室戸市	5	18
宿毛市	4	13
安芸市	4	10
本山町	4	10
土佐清水市	4	7
大豊町	4	4
土佐町	4	3
大月町	2	1
安田町	2	1
黒潮町	1	6
檮原町	1	1
東洋町	1	0
馬路村	1	0
北川村	0	4
田野町	0	3
芸西村	0	1
奈半利町	0	0
大川村	0	0
三原村	0	0
その他（県外）	8	9
合計	2,089	2,096

（文責：診療情報課長　古谷　英理）

企 画 課

1 概要

所属長名：門田　紘和
構成職員：事務員　　3名
　　合計人数　3名

2 活動内容・目標に対する達成状況

企画課は、コロナ対応を継続しつつ正常化に向けて、仁生会5カ年ビジョンおよび細木病院の理念を実現すべく、行動計画の達成に向けて、その作成や進捗管理、各種データの分析を行い、病院全体が最高のパフォーマンスを発揮できるように最大限にサポートを行うことである。

主な業務は、①事務部長直轄業務、②経営管理に関する業務、③初期研修医および医学部実習生の研修・実習の事務局業務　④歯科関連業務等で構成されている。令和3年度の企画課の活動は、以下の通りである。

1．ほそぎハートセンター第2カテ室の稼働検討

令和3年度の当院の目標と取り組みの1つに『**「ほそぎハートセンター」のさらなる増患に取り組み、第2カテ室の稼働を検討する**』ことが掲げられた。この目標をもとに、企画課では、業者との交渉を行いながら、予算概要を作成し、本部会・理事会で使用する検討資料の作成を行った。また、並行して、業者との粘り強い価格交渉や院内調整を行った。

検討の結果、半導体などの外部環境の影響を最小限に抑え、稼働目標は、令和4年6月となり、準備対応を引き続き行った。



2．事務部門の組織強化

事務･独立部門の目標に、『**“強い部門”“頼られる部門”“情報発信する部門”を目指す。**』とある。今年度企画課では、多様な人材育成を焦点に、人事交流推進システムの提案を行った。その提案をもとに、医事課協力のもと人員配置の見直しを行い、同課および情報システム課、入退院サポートセンターの強化を図った。

次に、今後の事務部門強化を想定し、本部・人事課と細木病院・総務課の組織を見直し、人事総務部（課）の提案を行った。これにより、人事・労務関係業務等の効率化を図り、1つの部署内で完結できる体制を構築し、本部・細木病院の事務部全体の業務の合理化と効率化を併せて進める第一歩へとつながった。

最後に、平成29年度から『ＩＭＡＪＩＮ（今から

の仁生会）活動』を開始し、グループ力強化を図っている。その中で、組織は、その時々の課題に対応できるように現状を踏まえ見直しをする必要があるため、仁生会グループの日高クリニックを『単独運営』⇒『細木病院とのグループ運営』の方向性が示された。

企画課では、スムーズな移行を進めるため、新たな組織体制のイメージ案や検討課題の抽出や新体制への移行スケジュールを作成し、ＯＮＥ細木へ向けてのサポートを行った。

3．令和３年度医師臨床研修制度

令和２年度より新研修医制度がスタートし、研修プログラムが全面的に見直された。今年度は、新制度初めて修了する研修プログラムのため、指導医・研修医への評価入力などの運用に注力した。

また、コロナ禍での研修のため、プログラム責任者とともに研修の工夫を行った。

4．歯科領域の強化サポート

企画課では、歯科アドバイザーを配置し、歯科のサポートを強化した。今年度、患者増への取り組みのため、ユニット増設、歯科衛生士の増員などの体制整備を行った。また、体制整備に伴う収支シミュレーションを作成し、今後の患者増への取り組みを検討した。

その他、外科や整形外科を中心とした医科歯科連携の開始や職員や外来患者向けのポスターを作成し、歯科の認知度向上を行った。

上記と並行して、歯科業務効率化のため予約システムの導入や保険への知識向上へのアドバイスを歯科衛生士などへ積極的に行い、歯科領域強化のサポートを行った。

3 今後の課題

1．事務部門の組織強化

令和３年度の下期に人事総務部(課)の準備を行った。次年度は、職員・患者さんの視点、業務効率の視点、財務の視点、学習と成長の視点でさらなる体制の見直しを行い、新たな課題を解決できる組織強化へつなげたい。

2．医師臨床研修体制の見直し

次年度より、プログラム責任者の交代、研修診療科の減少、コロナ禍での研修などの影響へ対応するため現状整理し、新プログラム責任者と共に検討しなければならない。

3．歯科領域のサポート

今年度は、歯科領域の体制整備を中心に取り組んだ。次年度は、歯科の職員・患者さんへの認知度のさらなる強化をし、財務の視点を持って取り組む。

（文責：企画課長　門田　紘和）

健康管理センター


健康管理センター部長
森下　延真


名誉副院長
松田　勇蔵


内科長
弘瀬　祥子


副院長
上地　一平


医局長／外科部長
尾﨑　信三

1 業務内容

①健康診断

全国健康保険協会管掌健康保険（協会けんぽ）生活習慣病予防健診、事業主健診（企業健診）、人間ドック、特定健康診査（特定健診）、高知市の乳がん検診、子宮頸がん検診、大腸がん検診、前立腺がん検診、肝炎ウイルス検査、一般健診、福寿園への出張健診など

②職員健診

細木病院職員の定期健康診断、新採用者、中途採用者の健診、ストレスチェックの実施

③予防接種業務

細木職員のＢ型肝炎ワクチン接種など

2 2021（令和３）年度の実績

令和３年度の健康管理センターの総業務件数は5,532件（前年比4.6%増、前々年比2.2%減）であった。内訳では健診部分が4,168件（前年比4.7%増、前々年比3.9%減）、職員健診は1,302件（前年比0.9%減、前々年比0.5%減）であった。令和２年度に内科で行った細木病院職員のＢ型肝炎ワクチン接種は、新型コロナウイルスの影響により、令和３年度は健康管理センターで施行した。また同様の理由で、職員の定期健康診断が４月までずれ込み、３月までに終える予定の114名が４月に行うこととなったが、比較しやすいよう、令和３年度の統計に組み込んでいる。また福利厚生費からの支出となる職員健診（9,549,119円分）を除いた総収入は55,692,851円（前年比9.1%増、前々年比1.6%増）であった。



3 まとめ

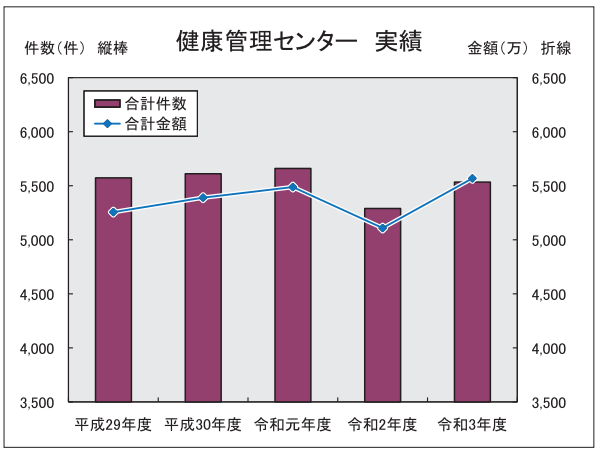
令和３年度も引き続き新型コロナウイルスの感染対策を徹底しながら業務を行った。幸い健診部門では新型コロナウイルス感染者を出すことなく業務を遂行できた。令和２年度に減少した健診件数も徐々に回復してきており、総収入も過去最高を記録した。また令和３年度より高知大学附属病院のご支援を受け、従来通りの婦人科検診を行っている。この場をかりて感謝申し上げたい。今後も利用者さんのニーズにこたえた健診を心掛け、スタッフ一同努力していきたい。

4 常勤医師

診察担当　森下　延真、弘瀬　祥子
　　松田　勇蔵
乳がん検診担当　上地　一平、尾﨑　信三

5 非常勤医師

子宮がん検診担当　大黒　太陽、平川　充保、
　　塩田　さあや、黒川　早紀



健康管理センター　実績　件数

	ドック	協会けんぽ健診	企業健診	健康診断	乳がん検診	子宮がん検診	特定健診	保健指導	健診分　小計	予防接種	職員健診	合計件数
平成29年度	231	1,293	1,146	129	617	486	395	28	4,325	7	1,239	5,571
平成30年度	234	1,318	1,094	93	614	514	431	8	4,306	3	1,300	5,609
令和元年度	247	1,286	1,150	100	639	501	413	0	4,336	8	1,314	5,658
令和２年度	222	1,160	1,110	101	560	461	365	0	3,979	0	1,309	5,288
令和３年度	243	1,222	1,128	115	593	492	375	0	4,168	62	1,302	5,532

健康管理センター　実績　金額

	ドック	協会けんぽ健診	企業健診	健康診断	乳がん検診	子宮がん検診	特定健診	保健指導	健診分　小計	予防接種	合計金額	職員健診
平成29年度	8,364,012	23,570,640	11,760,851	411,690	2,890,374	2,552,197	2,774,570	122,335	52,446,669	41,960	52,488,629	8,057,621
平成30年度	8,441,585	25,072,155	11,194,796	221,653	2,896,786	2,804,168	3,055,630	45,792	53,732,565	18,460	53,751,025	9,025,462
令和元年度	8,961,001	24,563,874	12,115,144	327,581	2,949,185	2,857,635	2,987,602	0	54,762,022	36,000	54,798,022	9,243,900
令和２年度	8,244,980	22,251,493	12,355,539	228,045	2,713,142	2,628,647	2,647,335	0	51,069,181	0	51,069,181	9,299,162
令和３年度	9,200,615	24,387,634	13,400,626	332,446	2,813,095	2,819,623	2,717,912	0	55,671,951	20,900	55,692,851	9,549,119

（文責　健康管理センター部長　森下　延真）

ほそぎ入退院サポートセンター



1 概要

所属長名：西岡　達矢

構成職員：

センター長	医師	1名
副センター長	看護師	1名
入退院サポート室	看護師	3名
	事務員	2名
患者サポート室	社会福祉士	9名
	精神保健福祉士	9名
	（出向3名含む）	
	合計人数	25名

2 活動内容・目標に対する達成状況

1．「入院前から入院中、退院に至る切れ目のない質の高い支援」を継続して実践する

入院前の支援として心臓カテーテル、手術目的の患者に患者用パスやパンフレットを用いて看護師が説明を行い入院後に行われる治療のイメージが描け、不安なく臨めるような支援を行い事務職員が入院生活と諸手続きの説明を行い患者支援に努めてきた。

入院時の介入では、転院紹介入院では、各医療機関の担当者と情報交換しながら当院での療養目的をふまえ退院に向けて行うべき療養支援をアセスメントしながら受け入れを行った。その入院目的を退院調整専従看護師やソーシャルワーカーにつなげるなど部署内連携は有効に機能し患者支援に生かされている。

入院後は患者の退院に向けて多職種が介入をしているが、各職種が専門的視点で支援を行っており、それらを統合するなどの情報共有、情報交換が十分でなく質の高い支援とは言い難い。今後は、各職種が持っている患者の情報を統合させ共に退院に向けて多職種協働のシステムづくりに取り組む必要がある。

2．コロナ禍をふまえながら、終息に向けた動向を見据えた自院の方向性を把握し戦略を立案しながら入退院サポートセンターとしての役割を推進していく

第6波となった新型コロナ感染症は、感染力、伝播性の強いオミクロン株が流行したため、さまざまな医療機関、在宅施設などでクラスターが発生した。そのため、通常の診療体制が維持できず緊急性のない手術・検査が待機になるなど入院延期も余儀なくされた。当院も例外ではなく通常の診療体制が維持できなかった。感染対策も強化され医療職としてのモラルを自覚しながら自身の業務に邁進した1年だったように思う。その状況下で、連携先医療機関と情報交換しながら患者紹介、逆紹介、転院患者の受け入れと当院からの転院依頼など患者に不利益がないように調整に努めたが、新たな連携促進となるような取り組みには至らなかった。今後も新型コロナ感染症状況の動向を見ながら入退院サポートセンターの役割を推進していく。

3 今後の課題

1．「入院前から入院中、退院に至る切れ目のない質の高い支援」を提供する

患者を中心に多職種と連携し協働しながら質の高い支援提供を行うことが課題であり、そのシステムづくりを行う。

2．ｗｉｔｈコロナをふまえた連携機能の促進

コロナ感染症以前は“顔と顔をつなぐ”関係性が基本であったが、現在はオンラインでのつながりも促進されてきている。さまざまな目的に応じて柔軟に地域医療機関、行政、在宅施設などとのつながりを維持、促進していきたい。

（文責：ほそぎ入退院サポートセンター長
西岡　達矢）

入退院サポート室

1 概要

所属長名：永野　亜希子
構成職員：看護師　4名
精神保健福祉士　1名
事務員　2名
合計人数　7名

2 活動内容・目標に対する達成状況

1．目標1の地域連携強化については、コロナ禍のもと可能な範囲内での病院訪問を実施。近森病院や高知赤十字病院への週に1回の定期訪問はリハビリテーション課課長の協力のもと実施できたが、新規入院患者の獲得については微増であった。またドクターカーの運用も開始となり、利用していただいた病院への訪問も患者サポート室と分担して実施。利用後についての意見や感想などをいただき、改善することができた。

2．目標2の、入院前から退院後に向けての切れ目ない支援体制の推進については、選出されたメンバーでの入退院支援ワーキングを実施したが、新型コロナ感染の第5波、第6波の影響によりやむを得ず休止となった。次年度、新型コロナの感染状況をみてワーキングの再開が望まれる。

3．目標3のベッドコントロールの強化については、各病棟師長と共にベッドコントロールミーティングを開始。当日の各病棟の空床状況や入退院・転棟の情報、手術スケジュールや検査や処置の共有を行った。平日の10分間のミーティングではあるが、皆で情報共有したことで、緊急入院の受け入れが滞ることがないように、各病棟の協力体制も取れ、転棟調整もスムーズになった。

4．目標4の入退院サポート室内での相互支援については、看護師業務、事務業務、協同業務については定着でき、繁忙時や不在時は業務を代行しサポートを行うことができた。

5．目標5の災害対応の強化については、部署内での勉強会を予定していたが未実施であった。ここ数年で起こっている大きな災害を考えると、自分たちができることや備えについて考える機会にしたいため次年度に計画を予定したい。

3 今後の課題

昨年に引き続き、コロナ禍での活動ではあった。次年度は、診療報酬の改正もあり、当院にとってもさまざまな選択を迫られることが予測されるため早期の対応が望まれる。

（文責：入退院サポート室長　永野　亜希子）

患者サポート室

1 概要

所属長名：辻　美知子
構成職員：社会福祉士　9名
精神保健福祉士　9名（出向3名含む）
合計人数　15名

2 活動内容・目標に対する達成状況

1．今年度も、新型コロナウイルス感染症の対応に右往左往しながらも、「入院前から入院中、退院後の生活に向け切れ目のない支援」を目標に業務を行った。通院や入院療養中の困りごと、生活上の相談ごとを聴き、経済的･社会的･精神的にサポートし、必要に応じ、医療や福祉制度について情報提供や活用の支援を行った。

感染対策の観点から、患者･家族の面会･面接、介護保険訪問調査や施設入所前面接、退院前自宅訪問、多職種カンファレンスなど実施にあたり、必要性はどうか、他の方法はないかなど、注意深く確認しながら行った。患者・家族からは「感染対策だから仕方ない」と半ばあきらめのようではあったが、理解は得られた。しかし、「ワクチン接種も、証明書もある、ガラス越しでもいい、直接会いたい」と、直接の面会を希望する声も多く聞かれた。職員皆が戸惑いやもどかしさを感じていたが、「顔が見える･会える」ことの重要性を改めて感じ、今後も柔軟な思考で、支援方法を模索していきたい。

災害に備えるという目標は、感染対応という災害に対し、自分自身や身近なものを守る対策や行動、知識を習得することができた。

2．ソーシャルワーカーとしての資質向上のため、教育・人づくり

感染対策のため、対面での研修企画はできなかったが、部署内にリモート環境が整ったこともあり、オンライン形式で配信される講演会や研修会に参加し、知識の習得に努めた。機器操作に戸惑いながらも、移動時間の短縮や遠隔地からも参加できること、一定期間配信されるものは、空き時間に受講できるなど、オンライン形式のメリッ

トも知ることができた。

院内連携として、病棟での学習会に講師として参加し、ソーシャルワーカーとの連携や退院に向けての社会資源など、相互理解の機会となった。

今年度も県立大学社会福祉学部の学生実習を受け入れたが、新型コロナ感染者の増加により、残念ながら実習期間が短縮となった。実習受け入れ機関の指導者のスキルアップ、新カリキュラムへの対応、量的にも質的にも担保が必要と考え、新たに2名、実習指導者講習を受講した。今後も、継続して後進の育成に貢献できるよう基盤づくりを行った。

3 今後の課題

新しい生活様式に対応しながら、患者や家族の病気や治療、生活上の問題に対し、誠実な相談対応を行う。院内外の関係機関と情報交換や密な連携、多職種で構成されている当センターのメリットを最大限に生かし、今後も、安心して治療や療養生活が送れるよう相談支援していきたい。

（文責：患者サポート室長　辻　美知子）

在宅部

1 概要

所属長名：廣井　三紀

構成職員：

看護師	23名
理学療法士	8名
作業療法士	3名
言語聴覚士	1名
介護職員	106名
事務員	9名
調理員	3名
運転手	2名
合計人数	155名



在宅部長
廣井　三紀



2 活動内容・目標に対する達成状況

1．健全で安定した事業所の運営をする。

①病院や院外の介護事業所との連携を取り、在宅部の利用者数・実績増につなげる

②各事業所が目標値を意識した経営をしていく

③介護報酬改定内容を職員全員が周知し一体となって取り組める

【評価】

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、在宅サービス利用者の中に通所や訪問を控える傾向があったこと、さらに令和４年２月に福寿園入居者へのサービス休止もあり、実績は累計５億5800万円、対前年比92.8％だった。各事業所の目標値に向けた経営意識については、事業所によってバラツキが見られていた。一部、管理者の変更もあったが、安定した経営に向けて事業所を支援していく体制を整えたい。科学的介護推進体制構築の一環としての情報システム「ＬＩＦＥ」への入力などは、現場の戸惑いがみられながらも取り組めている。デイ利用者のＡＤＬ（日常生活動作）低下はさほどみられないが、ＡＤＬ維持加算が算定できる事業所はデイサービスいちご学校のみだった。ＡＤＬを評価する指標「バーサルインデックス」の標準化が課題と考える。上町５丁目のビルから事業所の一部が移転することになり、10月の転居作業にいたるまで多岐にわたり調整を要した。

2．安全で信頼される質の高い看護・介護サービスの提供と働きやすい職場づくり

①知識の習得、適切な判断能力を養うため、全員が院内外の研修会や学会に計画的かつ積極的に参加。研修内容を職員間で共有し、質の高い看護・介護を提供する

②全職員がＡＣＰ（アドバンスド・ケア・プランニング）を理解し、利用者を支援できる

③働きやすい職場に向けて、良好な人間関係を保ち、日ごろから気づきを言い合える

④インシデント０レベルの報告書を出し、事業所の中で共有していき事故防止につなげる

【評価】

コロナ禍で職員の行動が制限されるなか、外部の研修の中止もあり、参加の機会に恵まれなかったが、院内の研修や部内の研修には参加できていた。日本在宅看護学会学術集会と四国老人福祉学会には、オンラインで発表できた。研修会を通じて職員へのＡＣＰの周知を図ったが、利用者への支援にまではいたっていないと思えた。グループホームの入居者には随時、看取り指針に沿って意向の確認が取れている。働きやすい職場環境については事業所により、あらゆる面で差異があることが課題である。日ごろから気付きや思いをより言い合える職場風土を構築していきたい。

3．安心して生活できる地域づくりに向けた関わりをする。

①細木病院の理念のもと、地域づくりに貢献できるように、ネットワークを広げ幅広い視野でさまざまな機関や人と良好なつながりを持つ

②大規模災害、感染症発生時ＢＣＰ（事業継続計画）を認識し全員が取り組める

③対象者がスムーズに入院につながるよう、ナースカーなどで柔軟な関わりが取れる

【評価】

コロナ禍で地域交流も制限され、活発な活動ができなかったが、４月から開設したＹｏｕＴｕｂｅチャンネルでの動画配信で、事業所情報を迅速かつ高頻度に発信できるようになった。介護保険上で義務付けられたＢＣＰの策定は、すでにできており、ＢＣＰ委員会も継続できている。ナースカー発動は２件のみ。出前講座は、好評で依頼が続き、地域へ出向くことができている。

3 今後の課題

1．梅田橋ビルに移転し、感染症対策を徹底しながら地域活動を推進し、病院と地域をつなぐ役割を果たしながら、地域包括ケアシステムの構築につなげていく

2．点在する介護事業所の連携をしっかり取りながら、みなが同じ方向を向いて働き、「この病院でよかった」と誰もが言えるようにしていく

（文責：在宅部長　廣井　三紀）

ニャンでも相談センター

1 概要

所属長名：在宅部長　廣井　三紀
構成職員：介護相談員（ケアマネジャー）　1名
　　マッサージ師　2名
　　合計人数　3名

2 活動内容・目標に対する達成状況

新型コロナウイルス感染対策と旧所在地の賃貸契約の変更に伴い一時イベント活動を休止した時期があったが、10月中旬の移転を機に介護・医療の相談窓口としての機能を強化するということで「ニャンでも相談センター」に改称。11月10日には移転のごあいさつの意味でバザーを開催し、地域から大勢の方にお越しいただいた。職員主体の介護相談対応や情報発信が主だった活動だが、出前講座についてはコロナ禍においても依頼があった。

【職員主体の活動】

①介護相談：月～木曜日　9時～16時まで電話や面談での介護相談に対応し、その多くは高知市上街・高知街・小高坂地域包括支援センターやケアサポートセンターほそぎなどの専門窓口へつないだ。出前講座は「終活について」「今日からできる転倒予防体操」「ストレスに強くなる方法」「薬の飲み方について」など8件の依頼があった。

②マインドフルネス：開催できたのは2回のみだが、参加者からはセラピーの資格を持つ講師により、リラックスできたとの感想をいただいた。

③生け花教室：小原流1級の資格を持つ職員が毎月2回、季節のお花を題材に指導している。こちらも8回のみの開催だった。

④俳句の集い：四季折々の俳句を詠む会として、地域の方の希望と地域包括支援センターの依頼で11月から始まったが、開催できたのは3回のみだった。

【地域主体の活動】

いきいき百歳体操：地域のお世話役の方を中心に、周辺地域の高齢者が集う。週2回で延べ28回の実施にとどまった。

3 今後の課題

今後、新型コロナ感染拡大が収束に向かうにしたがい、まっこと出前講座の依頼が多くなる見通し。

受け付けから講師への連絡、段取りを円滑に運びたい。また、地域の方で身体的な理由で受診困難な方の情報をすばやくキャッチし、ナースカーを活用して地域と病院の懸け橋としての役割を担いたい。

（文責：介護支援専門員　山本　剛光）

ケアサポートセンターほそぎ

1 概要

所属長名：木村　まり
構成職員：主任介護支援専門員　2名
　　介護支援専門員　3名
　　合計人数　5名



2 活動内容・目標に対する達成状況

①健全で安定した事業所運営を効率的に行う

【評価】各事業所の実績の推移を把握し、安定した経営状態が維持できるよう、ほそぎ入退院サポートセンターや各事業所との間で連携を密に対応した。ケアマネジャーの退職に伴って利用者数が落ち込んでいたが、年度末から新しいケアマネジャーを迎え、実績回復の兆しが見えてきた。

②多職種と連携し質の高いチームケアが提供できるマネジメントを実践する

【評価】コロナ禍による各種研修の中止を補てんするべく、リモート研修会で自己研さんに努めて

きた。ＡＣＰについての研修で理解を深め、その人の生き方に寄りそったサービス提供につなげるようにした。

③安心して生活できる地域づくりに向けた関わりをする

【評価】独居高齢者や高齢者世帯に、防災の備えの提案や避難場所の確認を行っている。また、地域の高齢者の在宅生活を支えるためにナースカー対応や、高知市上街・高知街・小高坂地域包括支援センターやナースカーなどと連携し、必要に応じてスムーズに医療へつなげることができた。

3 今後の課題

1．独居、認知症、医療依存度が高いことなど、さまざまな課題を抱えながらも住み慣れた地域や家で生活することを希望される方が今後も増えていくことと思われる。利用者やご家族の望む生活に向けて、地域包括支援センターが実施する事例検討会や院内外の研修に積極的に参加して自己研さんに努め、多職種と連携を図る。

2．地域とのかかわりに目を向け、防災活動や地域行事への参加を通じて、地域づくりに貢献するとともに、地域のみなさまに選ばれ、信頼していただける事業所をめざす。

3．法人や病院、在宅部が掲げる目標に向けて、新人ケアマネジャーを迎えたスタッフが一丸となって取り組む。

（文責：ケアサポートセンターほそぎ主任　木村　まり）

訪問看護ステーションほそぎ

1 概要

所属長名：谷脇　貴美子

構成職員：看護師　5名
理学療法士　5名（非常勤）
作業療法士　2名（常勤・非常勤）
言語聴覚士　1名（非常勤）
合計人数　13名



2 活動内容・目標に対する達成状況

1．個別性を尊重した質の高い看護サービスを展開する

①利用者、家族の主体性、価値観を尊重した、看護計画を立案し、展開、評価していく。

②カンファレンスや研修会等への参加や多職種との連携を通して質の向上に努め、専門性を生かしたサービスを展開する。

【評価】利用者および家族を主体としたサービスを提供している。高齢、医療処置が必要、独居といった背景の利用者が多く、精神症状に起因した引きこもり、日常生活が送れない人もいる。“本人が望んでいることは何か”を常に念頭に置き、看護計画を立案、展開し、評価しながら専門性を生かした在宅ケアサービスを行ってきた。在宅での看取りに携わることもでき、主治医や多職種と連携した個別ケアにも取り組めた。コロナ禍で多職種とのコンタクトが難しい状況でも感染対策を徹底の上、連携、情報共有に努め、サービスの質の向上に努めた。

2．安全性を考慮し、異常の早期発見に努め、具体的な解決策をアセスメントする

①利用者のＡＤＬ維持、ＱＯＬ向上に向けてリスクマネジメントを行いながらチームケアを実践する。

②フィジカルアセスメントやコミュニケーションスキルを高めながら、チームで情報共有を密にし、異常時の迅速な対応に努める。

③マニュアルを順守し、気づきを言い合える職場づくりを行い事故防止につなげる。

【評価】利用者は高齢で、複数の疾患を持っている人が多く、いつ病状や状態が変化するか分からない。スタッフ間で情報交換しながらアセスメントし、異常には主治医と連携して迅速に対応した。精神の利用者に対しても表情や言葉の変化から状態の変化を察知し、多職種協働で入院につなげることができた。このようなチームケアを今後も継続していく。

3．効率的、効果的な事業所運営を行い、地域づくりに貢献する

①１カ月の訪問回数550件を維持し、新件を獲得していく。

②各事業所、多職種との情報共有を密にし、スタッフ間の良好な人間関係を継続、助け合いながら、

効率的に業務を行う。
③多機関多職種、地域とのつながりを保ち、各自が防災意識を高めながら安心して生活できる地域づくりに向けた関わりをもつ。
【評価】コロナ禍でサービス提供が難しい時期もあり、目標件数におよばなかった。地域連携推進委員会での情報発信や、患者サポート室とのコミュニケーション、法人外事業所への電話などでのアピールで、新件はコンスタントに獲得できていた。リモート研修を活用して防災意識の向上を図り、グループホームとも医療連携を構築するなど、今後も地域づくりに関わっていきたい。

3 今後の課題
1．独居で社会から孤立する中、必要な医療を受けられず引きこもっているケースが増えている。地域包括支援センターと連携をし、病院につなげ、治療後には社会に帰れるよう支援する。その後も多職種と連携しながら“その人らしさ”を大事にして関わりを持っていく。
2．ＢＣＰに基づいた防災および感染対策の知識を高めながら、地域に目を向け、防災活動に参加。安心して生活できる地域づくりに向けた関わりを持つ。

（文責：訪問看護ステーションほそぎ主任
谷脇　貴美子）

訪問リハビリテーション

1 概要
所属長名：藤本　弘昭
管理者名：橋田　寿恵
構成職員：理学療法士（ＰＴ）５名
作業療法士（ＯＴ）１名
言語聴覚士（ＳＴ）１名（非専従）
合計人数　７名



2 活動内容・目標に対する達成状況
1．ＥーＳＡＳ、ＳＰＰＢなどの定期評価を抜け目なく行う
【評価】ＥーＳＡＳは、進捗状況の確認を怠り、継続して実施できてないことがあった。ＳＰＰＢは、利用者の身体状況を踏まえて評価した。評価結果を『みえる化』することで利用者のモチベーションアップを試みた。一定の効果はあったが、さらにモチベーションを向上させるには利用者と目標を共有し、達成具合をフィードバックすることが大切であると考え、来年度に向け『みえる化シート』の見直しを行った。
2．リハビリテーション会議の開催とＬＩＦＥへのデータ提出
【評価】４名の利用者に対し３カ月ごとにリハビリテーション会議を実施し、ＬＩＦＥへのデータ提出を行った。リハビリテーション会議は外来診察時に実施し、都合がつかない場合はテレビ電話を活用した。主治医の外来診察時に会議を実施する際、主治医と利用者の時間調整がうまくいかず、思いのほか苦労した。
3．地域貢献
【評価】まっこと出前講座では『認知症と運動療法』のテーマで地域住民に対し講義する機会を得た。また、高知市総合事業である訪問Ｃ型事業を３件実施し、地域ケア会議のアドバイザーも務めた。グループホームへ出向き、生活機能向上を目的に運動指導を行った。
4．社会参加につなげる活動
【評価】新型コロナウイルス感染症まん延で地域活動が制限されているなか、社会参加につなげることが困難なケースもあったが、自立支援の視点で利用者に介入することで来年度も移行支援加算を算定できることとなった。

3 今後の課題
1．ウィズコロナ下でも感染対策をしっかりと行い、事業継続のためＢＣＰ策定に取り組んでいく。
2．在宅担当医師の協力をあおぎ、リハビリテーション会議を実施。医師や多職種との連携を強化し、より良いサービス提供に努める。
3．言語聴覚士も在宅専従となり、ますます個別性に合わせたサービスの提供が可能となる。今後も、「細木病院の訪問リハビリでよかった」と思っていただけるサービス提供に努めたい。

（文責：リハビリテーション課在宅担当係長
橋田　寿恵）

ホームヘルパーステーション城西

1 概要

所属長名：高島　恵美子
構成職員：介護福祉士　5名
ヘルパー2級　2名
合計人数　7名



2 活動内容・目標に対する達成状況

1．事業所運営の健全化に努める
【評価】介護報酬改定内容を理解し、事業所運営を円滑に行い、職員が目標値を意識できるよう在宅部会の実績報告などを月例会で伝達、情報共有した。

2．職員間の意思疎通を図り、信頼されるサービスにつなげる
【評価】利用者の状況を把握し、意見交換は行えた一方、ＡＣＰの内容理解は不十分だった。研修参加を呼び掛け、リモートで受講できる年間目標研修には積極的に参加して現場で活かせるよう努めた。

3．地域の一員として職務を通じて地域に貢献する
【評価】利用者が地域で安心して生活が送れるよう、他部署と連携してＢＣＰを整備した。備品担当者が中心となり、防災リュックの中身の点検、補充、検討を行っている。

3 今後の課題

1．引き続き職員が事業所の一員として、実績を意識した行動や思考ができるよう図る。新人職員についても介護報酬改定内容を理解のうえ、職務にあたるよう育成する。

2．利用者の安心、安全な暮らしをサポートしていくために多職種間の情報共有を密にし、連携を強化する。各員が利用者に寄り添ったケアを最優先事項とし、傾聴から気づきを得て、異常の早期発見、各所に連絡がとれるように体制整備、訓練、情報共有のために日ごろから備えておく。

3．研修参加で必要な知識を獲得し、知識を広げる。ＢＣＰマニュアルをもとにした感染症発生時の人員配置、シフト調整を踏まえ、災害時における初期対応や連絡網の構築にも活用する。マニュアルは人事などの環境変化に応じて随時見直し、円滑に更新していく。

（文責：ホームヘルパーステーション城西主任
高島　恵美子）

通所リハビリテーション デイケア「ゆうゆう」

1 概要

所属長名：主任兼介護福祉士　筒井　章恵
構成職員：理学療法士　1名
作業療法士　1名
言語聴覚士（非常勤）　1名
看護師　2名
介護福祉士　9名
合計人数　14名



2 活動内容・目標に対する達成状況

1．活動内容
要支援1から要介護5の介護認定を受けた利用者が通所し、利用者個々の生活を基準に安定した在宅生活が送れるようリハビリ計画を立て、多職種で実践している。リハビリ職員による自宅訪問や、退院後、退所後の短期集中リハビリなどでスムーズな在宅生活への移行を支援している。リズム体操、失禁体操、口腔体操、転倒予防体操、器具を使った下肢トレーニングや屋外歩行で身体機能の維持を図っている。

コロナ禍で外部講師による絵画や生け花などを長らく中止しているが、今後は感染状況を見ながら再開し、レクリエーションは利用者どうしが密にならな

ないよう配慮しながら実施、小集団での趣味活動なども行えるように環境を整えていく。

実績の下降を打破すべくサービスの質、職員の働きがい、働きやすさの向上を目指して在宅部副部長主導の「３Wプロジェクト」が発足。院内外との連携や広報活動を通しての新規利用者獲得で実績アップを図る。同プロジェクトには全職員が関わり、情報共有しながら取り組んでいる。

2．目標に対する達成状況

①健全で安定した事業所の運営をする

【評価】居宅などへの営業活動を継続しているが、コロナ禍の影響もあって思うような成果は上がっていない。毎月の実績や介護報酬改定内容等など、経営課題を職員間で共有している。

②安全で信頼される質の高い看護・介護サービスの提供と働きやすい職場づくり

【評価】研修にはリモートで全員が参加できている。インシデント０レベルの報告書を作成、検討することで、大きな事故の防止に効果があると考えている。営業後のカンファレンスも継続し、気づきを情報共有することで質の高いサービスの提供につなげている。働きやすい職場になるよう職員間で密に連携、協力し合いながら業務に携わっていきたい。

③安心して生活できる地域づくりに向けた関わりをする

【評価】地域と関わりを持つことがままならない状況が続いているが、防災面ではＢＣＰ委員を中心にシェイクアウト訓練やマニュアルの見直しなどに取り組めた。

3 今後の課題

1．感染対策を徹底し、職員や利用者から感染者を出さないよう取り組みながら広報活動を継続して、利用者増につなげていく。

2．利用者一人ひとりについてリハビリ会議を行い、目標の設定を随時共有し、職員全員で目標に向けて取り組むことで自立支援や移行支援を図っていく。

3．職員間での気づきや利用者の意見をカンファレンスで取り上げ、質の高いサービスやレクリエーションを提供できるよう内容を充実させていく。

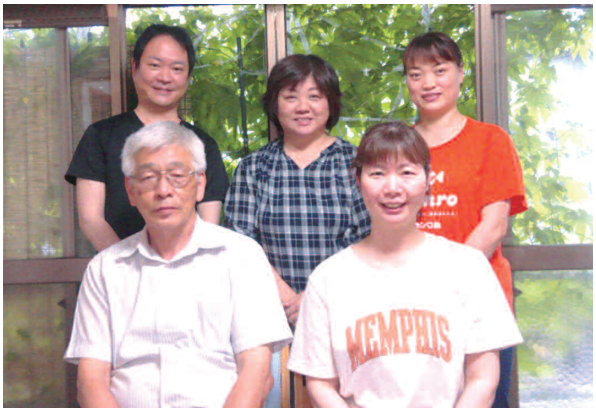
（文責：通所リハビリテーション　デイケア
「ゆうゆう」主任　筒井　章恵）

デイサービス赤とんぼ

1 概要

所属長名：溝渕　万希子

構成職員：	管理者（相談員、介護福祉士兼務）	1名
	看護師（機能訓練員兼務）	1名
	准看護師（機能訓練員兼務）	1名
	介護福祉士	4名
	調理員	1名
	運転手	1名
	合計人数	9名



2 活動内容・目標に対する達成状況

1．活動内容

認知症と診断された要介護１～５の利用者が来所、日常生活の援助、個別機能訓練や集団体操を実施している。コロナ禍で不自由な日々が続いているが、散歩に出た折には周囲の景観を楽しみ、「赤とんぼ農園」で育てた野菜の収穫で職員と達成感を共有、昼食に提供するなど、四季の喜びをともに感じられるよう工夫をしている。

2．目標に対する達成状況

①健全で安定した事業運営を行う

居宅介護支援事業所や病院に広報活動に回ったが、利用者の入院やグループホームへの入居もあり、実績の向上はおろか維持もできなかった。

②信頼される質の高い看護・介護サービスの提供と働きやすい職場づくり

オンライン研修の内容を職員間で共有し、サービスの向上と職場づくりにつなげた。

③安心して生活できる地域づくりに向けた関わりを持つ

行事の中止で地域との積極的な関わりは持てなかったが、畑づくりや散歩の際のあいさつなどで住民との交流を保っている。防災では利用者とともに訓練を行い、ＢＣＰ委員を中心に備蓄品のチェックや発災時の避難、連絡方法など検討を重ねている。

3 今後の課題

1．職員が専門職としての自覚を持ち、認知症ケアにつながる知識と技術向上のために研修会や勉強会に参加して、接遇を意識した質の高い看護・介護を提供していく。
2．入院や別施設への移行で通所登録者数が激減している。居宅介護支援事業所や他事業者と連携をとり、利用者獲得を図る。
3．地域や自施設の行事などを通じて住民と交流し、安心して生活できる地域づくりをする。

（文責：デイサービス赤とんぼ主任　溝渕　万希子）

デイサービスさくらんぼ

1 概要

所属長名：相談・看護師兼務　山口　三喜
構成職員：介護福祉士　5名
　　看護師　2名
　　調理員　2名
　　運転手　1名
　　合計人数　10名



2 活動内容・目標に対する達成状況

1．活動内容

新型コロナウイルス感染対策は職員一丸となって継続。外出もままならない日々が続くが、事業所名「さ」「く」「らん」「ぼ」にちなんで事業所の魅力を意識した取り組みを続けている。

さ・・・ささえます、厚みのあるケアで。
く・・・くふうを凝らしたレクリエーション。
らん・・・ランチとおやつに定評あり、旬の素材を生かした料理を提供。
ぼ・・・ぼうさい対策もばっちり、津波避難ビルとして地域の防災の要となる。

これを「さくらんぼの4本柱」として、利用者の体調管理に注意し、室内を季節ごとに装飾、季節の行事、脳トレ、機能訓練を基本に、認知機能低下予防および日常生活動作予防継続に力を入れてきた。

2．目標に対する達成状況

①健全で安定した事業所の運営をする。
【評価】令和3年度介護報酬改定に伴う各種届け出や申請に職員が一体となって取り組んだ。また、在宅部長や各事業所と感染予防、安全対策面で情報共有し、利用者、家族の体調確認や管理を徹底した。経営面では利用者の状況に応じて利用回数を増やす提案や新件獲得のため、法人内外の居宅介護支援事業所へこまめにチラシの郵送や電話連絡などで、距離感を密にするよう努めている。

②安全で質の高い看護・介護サービスの提供を行い働きやすい職場を目指す
【評価】利用者の個別性に合わせたケアを行うため、朝夕のミーティングで職員間の情報共有、実践、検討を行い、利用者や家族に寄り添える介護を目指し、日々取り組んでいる。リモート研修の参加で個々のスキルアップにも努めている。コロナ禍の中だからこそ、それぞれのケアの意味の深さを考えさせられている。

③安心して生活できる地域づくりに向けた関わりをする
【評価】年2回のグループホームさくらんぼとの合同の避難訓練では、利用者とともに車瀬公園への避難行動を取れることが確認できた。一方、地域住民への参加の呼び掛けに対しては地域の活動が自粛中だったため、参加にはいたらなかった。大規模災害、感染症発生時ＢＣＰに対しては、日々の報道や在宅部会、朝のリモート会の情報などを職員間で共有、検討会を通じて災害、感染への危機管理意識を高めるよう取り組めている。

3 今後の課題

1．コロナ禍の影響が長期化しているなかで、高い危機管理意識のもと感染予防対策に努め、より安全で、安心できる環境を提供できるよう努める。利用者の和気あいあいとした笑顔が見られる場を職員と一丸となって目指す。
2．全職員が利用者、職員間の体調変化を見逃さず、安定した業績を保てるよう充実した介護力をもって事業所運営にあたる。

（文責：デイサービスさくらんぼ主任　山口　三喜）

グループホーム

1 概要

所属長名：堀本　佐知

構成職員：	管理者（介護福祉士）	4名
	介護支援専門員（介護福祉士）	4名
	看護師	2名
	介護福祉士	32名
	ヘルパー	14名
	調理員	1名
	合計人数	57名

2 活動内容・目標に対する達成状況

1．活動内容

利用者に寄り添い個々に関わりを持ち、集団または個別体操、創作活動を毎日実施してＡＤＬ低下を防ぎながら、近隣への散歩などで気分転換できるように日常生活を支援した。

2．目標に対する達成状況

生活に閉塞感を感じることがないよう、職員間で情報共有し、常に業務に緊張感を持つ

【評価】オンライン面会の実施や、看取り支援ができた。また早期対応で医療につなげ、ホームでの生活が継続できた。インシデント０の気づきを共有し事故防止に努めた。

3．それぞれのホームのトピック

【ハッピー万々】年間を通して入院者０は開設以来、初めてのことであった。

【西町】精神ＧＨ入居者が清掃員として就労。地域共生社会を目指して取り組んだ。

【さくらんぼ】男性職員が４名となり、レクリエーションにも新鮮な風が吹いている。

【赤とんぼ】花壇や畑づくり、外気浴、ドライブなどコロナ禍でも楽しく生活できるよう工夫した。

3 今後の課題

利用者の加齢に伴い、医療的対応が必要な場合が増えている。安心してグループホームで生活できるように専門職としてのスキルアップを図る。職員も高齢化しているが、それでも人材の活用および育成を続けていく。



グループホーム　ハッピー万々



グループホーム　西町



グループホーム　さくらんぼ



グループホーム　赤とんぼ

（文責：グループホーム担当係長　堀本　佐知）

精神障害者グループホーム「介援隊」「やまもも寮」「介援隊2」

1 概要

所属長名：坂本　万理
構成職員：管理者兼サービス管理責任者　1名
世話人　6名
生活支援員　1名（患者サポート室兼任）
合計人数　8名



2 活動内容・目標に対する達成状況

1．利用者の権利を擁護し、グループホームで安心して生活を送れる支援を提供する
【評価】職員は利用者の権利を意識し生活支援を行えている。研修会、学会にはリモート参加し、職員に伝達講習をすることができた。
2．各利用者の障害や疾患の特性を理解し、個別性を重視した支援を行う
【評価】ＡＣＰについて在宅部合同研修会に参加し、職員の間に理解が深まりつつある。利用者と個別支援計画時に将来の方針も含めて話し合うことができた。
3．グループホームのＢＣＰ活動に取り組み、大規模災害、感染症発生時に備えて今後できる準備をしていく
【評価】職員はグループホームの防災活動に参加し、自部署や自宅での防災を意識した取り組みができた。災害伝言ダイヤルを利用し、利用者も活用できるよう支援した。ただ、自部署のアクションカードは作成に至らなかったため、次年度に必ず作成し、災害訓練に活用する。

3 今後の課題

1．障害者の人権や権利について、専門職として知識の習得、適切な判断能力を養うため、院内外の研修会や学会の情報を収集し、積極的に参加する。職員に丁寧語で会話をすることを習慣づけ、接遇の向上に努める。
2．利用者の障害や疾患の特性を理解し、将来利用者が希望する生活につながる支援を行っていく。ＡＣＰの理解を深め、利用者支援に取り入れる。また、個々の利用者にあった就労支援ができるよう情報収集する。
3．グループホームの防災活動に参加する。利用者、職員で災害伝言ダイヤルの訓練を継続し、防災意識を高めていく。グループホームのアクションカードを作成し、災害訓練に活用する。

（文責：施設管理者　坂本　万理）

デイサービス いちご学校

1 概要

所属長名：藤崎　明美
構成職員：

管理者・相談員・介護福祉士（兼務）	1名
看護師（育児休暇中）	1名
介護福祉士（イチゴいちえへ夜勤助勤含）	4名
理学療法士　（パート）	1名
作業療法士	1名
合計人数	8名



2 活動内容・目標に対する達成状況

1．活動内容
新型コロナウイルス感染対策による活動制限のなか、多職種で利用者個々に応じた機能訓練、体操、作業活動などを実施している。「いちご農園」での農作物の栽培や収穫、良心市での販売、みそ汁の具やおやつにするなどして四季を感じられる工夫をしている。
2．目標に対する達成状況
①安定した事業所運営をする
【評価】在宅部会での事業所実績を職員間で共有し、

職員全員で経営感覚を持ち実績増に向けて取り組めた。また、居宅介護支援事業所やイチゴいちえと連携をとり、利用回数増や新規利用者獲得につなげた。

②多職種と連携した質の高いチームケア提供と働きやすく意見を言いやすい職場づくり

【評価】多職種で気づいたことを話し合い、情報共有し利用者の生活・人生観に寄り添ったケアを行うことに心掛けた。コロナ禍で満足に研修に参加できていないが、リモートで参加した職員による伝達講習で知識向上を図った。

③地域防災づくりに貢献でき、信頼される事業所を目指す

【評価】感染対策を徹底して５月と11月に防災訓練を行い、地域住民の参加もあった。部署内ではＢＣＰ委員を中心に職員と利用者が毎月１回シェイクアウト訓練を実施し、防災意識向上を常に図っている。

3 今後の課題

利用者の高齢化により施設入所やショートステイの利用増、骨折や体調不良などで長期入院するケースが目立ってきた。コロナ感染対策を継続し、安心・安全に通所できる環境を提供、利用者個々のケアに取り組み支えていく。

（文責：デイサービスいちご学校主任　藤崎　明美）

サービス付き高齢者向け住宅 イチゴいちえ

1 概要

所属長名：野口　優子

構成職員：	管理者　看護師	1名
	看護師	1名
	介護福祉士	1名
	ヘルパー	4名
	学生（アルバイト）	1名
	合計人数	8名



2 活動内容・目標に対する達成状況

コロナ禍の外出、外泊など制限のある中、引きこもりや認知機能低下予防のために自室でできる体操や塗り絵などを提供し、入居者の心身の機能維持に努めてきた。

（目標に対する達成状況）

1．安定した事業所運営をする

・病院や居宅介護支援事業所・訪問介護事業所と連携し、空き情報を共有することで新規入居者獲得につなげる。

・職員一人ひとりが実績の推移を意識し満室を維持する。

【評価】各事業所や地域支援センターなどに空き状況を連絡し、新件獲得に努めた。病院からの問い合わせもあったが介護度が高いことに加えて入居期間も短いケースが多く、転倒による入院などもあって満室を維持できなかった。

2．看護・介護サービスの質の向上と働きやすい職場づくり

・オンライン研修などを活用し、意欲的に研修に参加することで知識を深め、職員間で情報共有する。

・ＡＣＰについてさらに理解を深め、家族とともに入居者の意思確認を支援する。

・日々の業務の中で意見を出し合い、円滑な業務の遂行と良好な人間関係を継続する。

・インシデント報告書の情報を共有し、事故防止に努める。

【評価】オンラインでＡＣＰ研修に参加し理解を深められた。職員間で入居者について情報交換し、スタッフが同じ思いで入居者に対応できるように努めた。さらに他事業所のインシデントレポートを情報共有することで、自部署での事故防止につなげることができた。

3．入居者が安心して生活できる環境づくりと、地域との関わり

・災害や感染症対策時ＢＣＰの取り組みを強化する。

・入居者・家族の意見を聞き、情報交換を密にし、良好な関係を築く。

・職員の防災意識を高め、地域住民とともに防災訓練を行う。

・入居者の体調管理を行い、体調の変化に速やかに対応する。

【評価】感染防止対策に努めてきたが、新型コロナウイルス感染者が３名発生した。防災訓練は少人数ではあったが、地域住民が参加し定期的に実施できた。

3 今後の課題

入居者の高齢化に伴い、体調の変化や、転倒による骨折などで入院が増えている。またコロナ禍で家族との面会や外出の機会も減って引きこもり傾向になることから、認知機能の低下がうかがえる。今後は一人ひとりの入居者に寄り添った、よりきめ細やかな対応を要する。

（文責：サービス付き高齢者向け住宅 イチゴいちえ
主任　野口　優子）

高知市上街・高知街・小高坂地域包括支援センター

1 概要

所属長名：センター長　廣井　三紀
構成職員：看護師・介護支援専門員　1名
介護支援専門員・介護福祉士　1名
社会福祉士・介護支援専門員　1名
合計人数　3名

＜担当地区（令和3年4月1日現在）＞

	総人口	高齢者人口	高齢化率
上街・高知街・小高坂地区	17,469	5,651	32.34%

＜対応件数＞

相談延べ件数	訪問	来所	電話	会議	同行
3,838	1,173	63	2,415	33	154

2 活動内容・目標に対する達成状況

1．幅広い知識と質の高いコミュニケーションスキルを身につけ、住民からの相談に応じ、ＡＣＰを意識して支援する

【評価】必要な研修に継続して参加し、幅広い知識の修得でスキルアップし、質の高いコミュニケーションスキルにつなげることができた。ＡＣＰを意識して相談業務に臨み、20名の方に今後の生き方や病気になったときの考えを確認することができた。

2．住み慣れた地域でいきいきと暮らし続けられるよう、介護予防の推進を図り、住民による地域での支え合いの仕組みづくりをともに行う

【評価】認知症ケアパスの活用や７つのポイントの啓発活動を通じて介護予防の関わりを持てた。自助マップ作成を通じて住民たちの自助活動の実態を把握でき、地域での支え合いの理解が深まった。

3．地域ケア会議を通じて、地域課題を明らかにし、地域住民、関係機関とともに課題解決に向けた検討を行う

【評価】地域ケア会議では、8050問題、男性介護者の抱える問題、コロナ感染拡大による地域交流の減少などが課題として挙がり、ケア会議参加の専門職に対し、ＡＣＰへの意識づけを持ってもらえるように働きかけた。地域の集いの場が少ないことから、身近で少人数で集まれる交流の場の開拓の必要性を感じている。



4．ＢＣＰの見直しを継続しながら、災害時や感染症発生時にできることを予測し準備を行う

【評価】在宅部内のＢＣＰ活動に参加し、毎月の机上訓練、備品の確保や感染対策徹底のためのＰＰＥ着脱訓練を継続している。また、感染症による業務自粛も想定して緊急時の対応について周知を徹底している。

3 今後の課題

1．小高坂地区民生委員が主となり活動開始となった「向う三軒両隣運動」は、コロナ感染拡大のため活動休止状態となっていた。しかし、小高坂地域での孤独死ケースを目の当たりにし、活動再開への声が上がっている。孤独死や閉じこもりのように地域で人知れず進行する課題は、全ての地域での課題であり、支え合う地域づくりが必要である。包括支援センターとして、積極的に地域住民、行政機関とともに課題解決に向けた地域づくりに取り組みたい。

2．高知市避難行動要支援者対策、高知市高齢者保健事業と介護予防などの一体的事業への取り組みが動きだし、日ごろから地域住民の実態を把握することが必要である。災害や自分の身に何かが起こった際、どうしたいか、どうしてもらいたいか、意思確認をしていく。包括支援センターとして行政と協働し、コロナ禍での継続可能な住民活動としてミニサロンなど（少人数の集まり）で、ＡＣＰの啓発活動を展開しながら、その方らしい、よりよい生き方につながる支援をしていきたい。

（文責　高知市上街・高知街・小高坂
地域包括支援センター主任　中居　江美）

委員会

定例会	診療運営会議
	経営会議
	診療幹部会議
	医局会議
委員会	倫理委員会
	⇒臨床倫理部会
	診療記録開示検討委員会
	臨床研修管理委員会
	医療安全管理委員会
	⇒医療安全管理室会
	⇒医療安全推進委員会
	院内感染対策委員会
	⇒ＩＣＴ委員会
	大規模災害対策委員会
	医療ガス安全・管理委員会
	臨床検査適正化委員会
	褥瘡対策委員会
	身体抑制委員会
	ＮＳＴ委員会
	リハビリテーション委員会
	回復期リハ病棟システム委員会
	⇒回復期リハプロセス委員会
	⇒脳卒中パス委員会

委員会	栄養管理委員会
	外来診療運営委員会
	ハートセンター運営委員会
	心臓リハビリテーション委員会
	情報システム委員会
	診療情報管理委員会
	クリニカルパス委員会
	ＤＰＣ管理委員会
	手術麻酔管理委員会
	輸血療法委員会
	薬事委員会
	図書委員会
	安全衛生委員会
	健康管理センター運営委員会
	救急委員会
	地域連携推進委員会
	虐待等対策委員会
	化学療法委員会
	サービス向上委員会
	院内行動制限最小化委員会
	職員研修委員会
	医療放射線管理委員会

委員会	新型コロナ対策本部
	⇒新型コロナ対策チーム
	⇒新型コロナワクチンチーム
	ＤＣＴ委員会
	こころのセンター運営委員会
仁生会全体	仁生会事務部門委員会
	仁生会広報委員会
	仁生会教育委員会
	仁生会人事制度検討委員会
	仁生会在宅ネットワーク委員会
	仁生会年報編集委員会
看護部内委員会	看護部師長会
	看護部主任会
	看護教育委員会
	看護部業務委員会
	看護部医療安全委員会
	感染リンクスタッフ会
	看護部・褥瘡対策委員会
	看護部記録委員会
	看護部実習指導者委員会
	認定看護師･専門看護師連絡会

※上記の「⇒」は、委員会の下部組織です。

医療安全管理委員会/医療安全管理室



1 2021（令和３）年度　目的・目標

1．安全な医療・介護を提供できるよう安全管理体制の構築を図る。
　1）情報収集・分析・改善策を立案し職員へフィードバックする。
　2）コミュニケーションがとれる職場環境づくりに努め、各部門との連携を図る。
　3）医療安全巡視を通し危険箇所を見つけ速やかに改善する。
　4）医療安全マニュアルの見直し。
　5）薬剤ＷＧ、転倒転落ＷＧ活動を継続する。
2．医療安全に関する職員への啓蒙活動を行い安全文化の醸成を図る。
　1）新たな医療安全研修会の実施。
　2）定期的な医療安全巡視を行う。
　3）医療安全情報を提供する。
　4）医療安全推進週間への取り組みを継続する。
3．医療安全対策加算（地域連携加算）協力病院と継続的に連携ができる。

2 活動内容・目標に対する達成状況

1．医療安全管理委員会開催（毎月開催）
2．医療安全管理室会議（33回）
3．医療安全推進委員会（11回）
4．院内巡視（毎週）
5．マニュアル改訂（１回）
6．薬剤ＷＧ（５回）・転倒転落ＷＧ（12回）
7．医療安全研修会開催（２回）
8．院内巡視（在宅部を含む）（毎週）
9．医療安全情報（Ｗｅｂにて12回配信）
10．カンファレンスへの参加（計20件）

11. 医療安全における救命処置研修会（ＩＣＬＳ研修２回・ＢＬＳ研修27回）

令和３年度は、1,154件の事故（ヒヤリ・ハットを含む）報告がされており、事故の種類としては療養上の世話が602件と最も多く、中でも転倒転落が353件報告された。対策として、前年度から継続している転倒転落ＷＧでの発生要因の分析や入院患者さん向けに転倒転落予防の協力依頼のポスター配布、ＡＤＬ変化時の職員間の情報共有などの取り組みを行っている。

医療安全研修では、初めてＷｅｂでの動画視聴による研修会を行った。Ｗｅｂになじみのない職員にも配慮し、第１回目は少人数ずつを集めたホールでの開催も併設して行い、参加率100％を達成することができた。第２回目もＷｅｂでの研修会を行うが、院内の他の研修会もＷｅｂ研修を導入したこと、院内の新型コロナ感染症のクラスター発生後でもあり、感染対策に考慮し集合形式の研修は行わなかった。

医療安全管理室は、長年医療安全管理室を牽引してこられた前任者が定年退職され、11月に医療安全管理者の交代があった。今後も医薬品安全管理責任者・医療機器安全管理責任者および医療安全推進委員会と協力しつつ、これまで培われた医療安全体制の構築および職員への安全文化の啓蒙の継続に努める。

（文責：医療安全管理者　門田　季香）

院内感染対策委員会／院内感染対策室



1 2021（令和３）年度　目的・目標

1. 新型コロナウイルス感染症による院内感染拡大を防止する
2. 標準予防策の徹底

2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 院内感染対策委員会（以下、ＩＣＣ）および感染対策チーム（以下、ＩＣＴ）会議開催
2. 感染対策研修会Ⅱ（年２回）、ＡＳＴ研修会（年２回）の開催
3. 薬剤耐性菌、職員感染、アルコール使用量、デバイスサーベイランス、針刺し事故サーベイランス（毎月）
4. 感染情報週報の発行（毎週）
5. ＩＣＴラウンド（週１回）
6. 感染防止対策加算２施設との合同カンファレンス開催（年４回）
7. 地域連携加算施設（加算１施設）との相互訪問（年１回）
8. 職員のワクチン接種の推進（インフルエンザ、Ｂ型肝炎、コロナウイルスワクチン）
9. 抗菌薬適正使用支援チーム（ＡＳＴ）による抗菌薬カンファレンス（週１回）
10. 感染リンクスタッフ会の開催（月１回）
11. 新型コロナウイルス感染症対策

令和３年度も昨年と同様、新型コロナウイルス感染症対策を中心とした活動になった。コロナ対策チームやコロナウイルスワクチンチームを組織し、コロナ対応病床の運営、コロナウイルスワクチン接種への対応、院内制限・職員の行動制限の見直しや発令、職員の陽性者・濃厚接触者への対応などを行ってきた。入院部門についてはクラスター防止対策を念頭において実施してきたが、令和４年２～３月に２度目のクラスターが発生した。新館のクラスター対応は大変なことが多かったが、診療や情報共有のためのショートミーティング、患者・家族説明、救急蘇生など、ＣＯＶＩＤ－19に関するクラスター関連の体制および手順など、一部について整備することができた。

コロナ禍においてもＩＣＴやＡＳＴ活動は例年通り実施しているが、今回のクラスターの経験からも平時からの標準予防策の徹底や直接対応にあたる職員の感染防止対策のスキル向上が必要である。今後は、感染管理研修や教育計画について計画的に取り組み、各部署で自衛することができるよう職員の育成を図りたいと思う。

（文責：院内感染管理者　土居　世知）

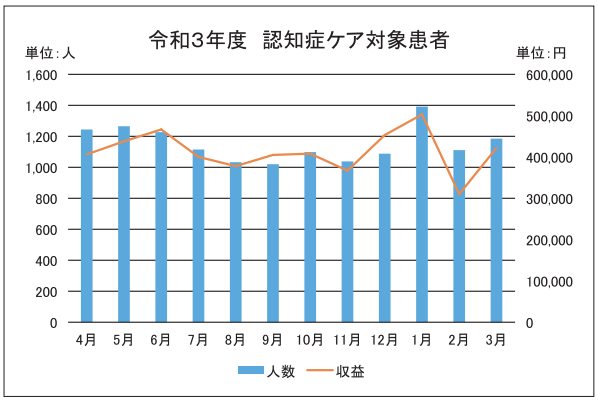
認知症対策室／認知症ケアチーム委員会

1 2021（令和３）年度　目的・目標

１）認知症ケア加算１（診療報酬）の施設基準が維持できる。
（１）精神科医師の認知症ケアチーム（以後ＤＣＴと記載）介入、およびＤＣＴ委員会へ参画する。
（２）１回／WのＤＣＴラウンドとカンファレンスを実施できる。
２）認知症ケア研修会を実施する。

2 活動内容・目標に対する達成状況

１）認知症ケア加算１の施設基準を維持できている。
（１）こころのセンター長　吉岡医師が認知症対策室室長を続投し牽引している。ＤＣＴ委員会には、２人の精神科医（吉岡医師・河野医師）が参加している。
（２）ＤＣＴラウンドは、週２回に分けて実施。月曜日に南１．２．３病棟を河野医師。新３．２．１病棟に徳岡医師が担当している。医師と共にラウンドを行っている職種は、社会福祉士、病棟看護師、認知症看護認定看護師で行っている。
ＤＣＴが設置され２年が経過しているが最低限のラウンドとカンファレンスを行いＤＣＴの維持に努めている。
認知症の治療やケアに関しては、環境の変化により、せん妄を来す患者が増えている。精神科のイメージが悪いのか、家族の賛同が得られないと治療に結びつかないこともある。家族と医療従事者との思いの乖離が少しでもなくなるように努めていきたい。また、認知機能低下を来した高齢の患者や認知症者が自ら意思決定をすることが困難であり、今後も家族や他科医師と協力し、少しでも安心して治療ケアが受けられるように関わっていきたい。
２）認知症ケア研修会は、せん妄の患者の対応も増えており、せん妄の治療薬や対応の仕方に焦点を当て、コロナ禍の感染対策のため、講義形式を中止し、YouTubeでの研修会を行った。視聴期間は１カ月で設定したが、自分の好きなタイミングで視聴できることとせん妄が増えていることで、ニーズに合った研修会となった。



（文責：認知症対策室　室長医師　吉岡　隆興
認知症対策室　看護師長　認知症看護認定看護師
中山　充代）

褥瘡対策委員会

1 2021（令和３）年度　目的・目標

目的

病院全体での褥瘡発生・予防および発症後早期からの適切な褥瘡対策を討議・検討し、その効果かつ効率的な推進を図る

目標

１．推定院内発生率１％以下
２．スタッフ教育を行い、褥瘡をはじめとする創傷に関する知識向上
３．集合教育の開催

2 活動内容・目標に対する達成状況

活動内容

１．毎月　第３月曜日　定例会
２．毎週　月曜日　全病棟対象褥瘡回診
回診者：専任Ｄｒ（外科）　血管外科Ｄｒ　褥瘡ＮＳ　管理栄養士

目標に対する達成状況

推定発生率１％以下を目標としていたが達成することができず、また褥瘡発生数も前年度と比較して減少に至らなかった。

発生要因としては「ポジショニング、体位変換不足」「体位変換時の摩擦、ズレ」が多く挙げられ、その他には皮膚の脆弱やさまざまな要因が挙げられた。スタッフ教育としてはリハビリテーション科によるポジショニング研修やクッションの使用方法など年間計画を立てていたが、コロナ禍であったため少人数での参加実施のため大幅なスタッフ教育には至らなかった。しかし、創傷ケアマニュアルが改定できたことで統一されたケア提供を行うことができ、実践に活かすことができたのではないかと考える。

昨年度に引き続き発生要因に「適切なポジショニング不足」が一番多く挙げられていたため、昨年度行えていなかった研修をリハビリテーション科と協力して行っていきたい。

そして褥瘡処置、ケア方法、栄養評価、薬剤の検討、ポジショニングなど多職種と連携を図りより良いケアの提供･スタッフ支援に取り組んでいきたい。

（文責：褥瘡対策委員会委員長　上地　一平）

ＮＳＴ委員会

1 2021（令和３）年度　目的・目標

目的

1．入院患者の“低栄養状態”を早期に発見し改善するために院内の体制を整える

2．チームで低栄養状態に関する評価を行い適切な栄養療法を提案・実施する

目標

「栄養評価を適正に行い病院に貢献できるＮＳＴの定着」

～ＮＳＴ委員として必要な共通知識・共通言語を学ぶ～

2 活動内容・目標に対する達成状況

活動内容

1．関連書類および書式の更新

2．毎週木曜日、多職種参加のラウンドとカンファレンス

3．２カ月に１回委員会、毎月の勉強会

目標に対する達成状況

1．毎週木曜日に開催しているカンファレンスの業務負担軽減として、ＮＳＴシートの改定を行い、円滑な進行や記録時間の削減につなげた。

2．ＮＳＴ介入では昨年に引き続き感染対策のためラウンドを自粛、カンファレンスのみ実施した。ＮＳＴ新規依頼件をクラスター前の前年度と比較すると147％に増加した。

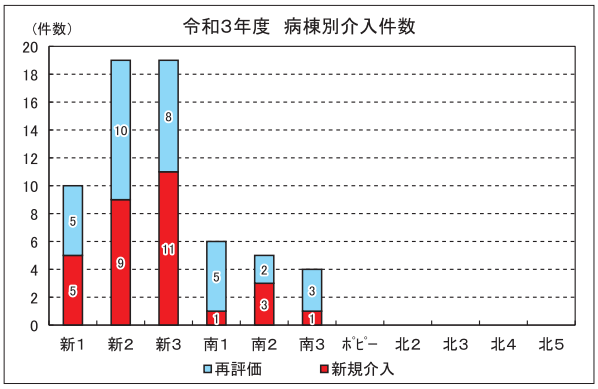
3．委員会を５回（令和３年５月、７月、９月、11月、令和４年２月）開催した。なお、２月は新型コロナ感染症拡大により書面審議とした。院内勉強会はＤＶＤ視聴とし対象者をＮＳＴ委員に限定することで、集合型勉強会を３回開催できた。また、並行してＷｅｂセミナー（無料）の案内も行った。

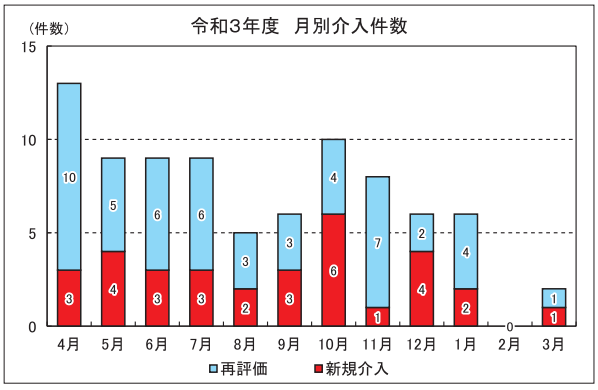
4．目標の達成状況は、ＮＳＴ委員対象の年度末アンケートの結果、貢献できた32％、できなかった57％であった。目標達成不十分なためこの目標は次年度に持ち越すことになった。

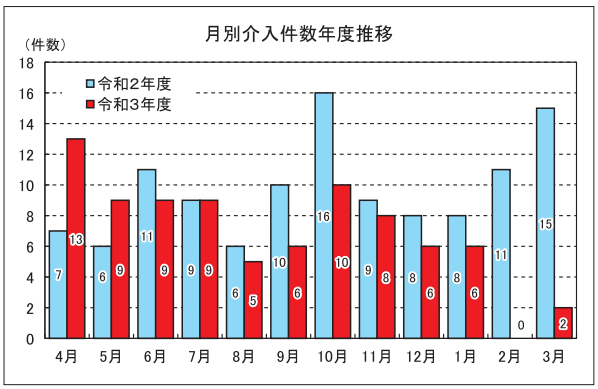
5．経腸栄養剤用のコネクタ変更や終売および新商品の案内をするとともに、院内約束食事箋の経腸栄養剤一覧表のバージョンアップも行い、情報共有を図った。

2021（令和３）年度　ＮＳＴ委員会　勉強会一覧

実施月	勉強会の内容	演　者
９月	リハ栄養 ～フレイル･サルコペニア予防のための食事と運動～	㈱クリニコ
10月	摂食・嚥下障害と食事介助	明治乳業㈱
11月	褥瘡と栄養管理	明治乳業㈱







（文責：ＮＳＴ委員　前田　光代）

薬事委員会

1 2021（令和３）年度　目的・目標

1．医薬品の採用・削除を審議する。
2．後発医薬品の使用促進を図る。
3．医薬品の適正かつ効率的な使用および管理を図る。
4．医薬品の副作用報告を一元管理する。

2 活動内容・目標に対する達成状況

1．委員会を４回（５月、８月、11月、２月）開催した。なお、８月、２月は新型コロナ感染症拡大に伴い書面審査とした。令和３年度は、新規採用薬17品目（うち、院外処方専用薬からの切り替えが１品目）、新規院外処方専用薬24品目（うち、採用薬からの切り替えが12品目）、採用中止薬（院外専用薬を含む）30品目、臨時採用薬186品目を決定した。令和３年度末での採用医薬品数は1,091品目である。
2．先発後発品から後発医薬品へ新たに13品目の変更を行った。また、製薬会社の不正製造（承認書からの逸脱）が相次いで発覚した影響で一部の医薬品の入手が不安定となり、安定供給可能な医薬品へ32品目の銘柄変更を行った。後発医薬品使用体制加算は加算１（後発医薬品の使用割合85％以上）を継続している。
3．院内で発生した副作用報告は薬剤部が一元管理し、今年度は６件の報告があった。薬事委員会で報告するとともに、医局会、診療運営会議で情報共有を図った。

（文責：薬事委員会委員長　田中　照夫）

安全衛生委員会

当委員会は、職員の安全衛生に関する計画作成と実施、評価を行い、職員の労働災害・健康障害の防止及び健康増進を図ることを目的に設置された労働法に基づく法定委員会です。
令和３年度の主な取り組みを、以下に報告します。

1 2021（令和３）年度の主な取り組み

①令和３年度も“コロナ禍との闘いの年”となり職員のストレスも大きなものがあった。
②そのため、コロナ禍でのメンタルヘルスやクラスター発生時の職員対応に力を入れた。
③具体的な活動は、年間活動計画に沿って行った。
⇒表を参照

■ 令和３年度　安全衛生管理計画書

令和3年度　細木病院　安全衛生管理計画書

（50人以上）

基本方針	1 安全衛生体制を確立し、ゼロ災害を目指すこと。 2 安全衛生教育および健康診断を計画的に実施すること。

事業場名	社会医療法人 仁生会 細木病院
所在地	高知市大膳町37 TEL 822-7211

令和2年度　労働災害発生状況

令和3年3月末労働者数	延べ労働時間数	死傷件数				損失日数	度数率	強度率
		死亡	休業4日以上	休業4日未満	計			

産業医氏名	森下　延真
衛生管理者氏名	豊田 邦江・荻島 美奈子 井上 加奈子・橋本奈生子
安全・衛生委員会開催有無	(有)　無
計画書について、安全・衛生委員会での審議の有無	(有)　無

損失日数＝業務災害による休業日数×300÷365　度数率＝1,000,000×死傷件数÷在籍労働者の延労働時間数　強度率＝1,000×損失日数÷在籍労働者の延労働時間数

重点実施項目	具体的実施項目	実行計画 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	担当
1. 安全衛生管理体制の確立・強化	1）安全衛生の年間計画および基本事項の審議				○									安全衛生委員会
	2）安全衛生委員会の開催（月１回）	←											→	安全衛生委員会
	3）北館および在宅部も含めた安全パトロールの実施	←											→	施設課・衛生管理者
	4）災害事例に基づく再発防止対策の検討実施	←											→	安全衛生委員会
	5）ストレスチェックの実施と課題フォロー					○	←						→	病院全体
2. 安全衛生教育の充実	6）新採用研修および中途採用研修時の安全衛生教育の実施	○						○						教育委員会
	7）採用時、部署変更時および業務変更時の職場教育の実施	←											→	部署管理者
	8）業務上および通勤時の交通事故防止のための交通安全教育の実施							○						安全衛生委員会・安全運転管理者
	9）針刺し事故防止や感染対策研修の実施	←											→	安全衛生委員会・院内感染管理者
3. 健康診断の実施	10）採用時健康診断の実施	○			○			○			○			健康管理センター
	11）定期健康診断（年１回の職員対象）の実施				←				←		→			健康管理センター
	12）定期健康診断（年２回必要な夜勤従事者対象）の実施				←		→				←		→	健康管理センター
	13）調理に従事するものに対する検便（月１回）の確認（業務委託先）	←											→	栄養管理室
	14）予防接種（インフルエンザ・B型肝炎など）の勧奨拡充と推進	←											→	安全衛生委員会
4. 機械設備等の改善	15）機器の点検修理・整備時の不安全行動の排除（安全に実施）	←											→	施設課・部署管理者
	16）作業方法の改善（改善提案に基づき随時）	←											→	部署管理者・安全衛生委員会
	17）X線発生装置の安全点検（全機器月１回）	←											→	放射線室
5. 職場施設・労働環境改善	18）X線発生装置周辺環境測定（年２回）	○						○						放射線室
	19）病理検査室のホルムアルデヒド測定の実施（年２回）			○						○				病理検査室
	20）労働環境の改善（改善提案および環境測定に基づき随時）	←											→	部署管理者・安全衛生委員会
	21）危険防止対策（危険箇所や危険作業の発見時など）の実施	←											→	部署管理者・安全衛生委員会
	22）職場のコロナ感染対策とワクチン接種の推進	←											→	部署管理者・コロナ対策チーム
	23）残業時間調査と削減対策の推進			○	←								→	部署管理者・安全衛生委員会
6. 健康増進活動の推進	24）職員のスポーツ活動への支援	←											→	総務課・安全衛生委員会
	25）禁煙の推進と受動喫煙対策の徹底	←											→	安全衛生委員会

（文責：安全衛生委員 事務部長　宮地　耕一郎）

リハビリテーション委員会

1 2021（令和３）年度　目的・目標

1．コロナ禍でひっ迫する医療現場において部署としての役割が果たせる。
2．専門職種の特性を活かして理学療法、作業療法、言語聴覚療法が展開できる。
3．このような状況下だからこそ、地域とのつながりの懸け橋としての役割を担う。
4．その他、日々の業務で起こっている諸問題について解決策を練っていく。

2 活動内容・目標に対する達成状況

令和３年度は対面開催が３回開催されたのみで、残り９回は紙面開催となった。

1．今年度は職種の特異性を発揮することを目標に掲げ、各病棟での特性に応じた関わりを持つことを推し進めた。コロナ病棟クラスター時に当会はバックアップできなかったが、病棟との協業した働きはできていた。
2．専門職種の役割を発揮するよりは、職種の枠を超えた取り組みに課題が見えてきた１年であった。
3．在宅部門と連携しスムースなサービス提供への流れをワーキングで展開していたので、当会で検討する予定だったが、会の開催自体できなかったため次期の課題となった。
4．その他、療養病棟でリハビリテーションを展開するにあたり、診療報酬上厳しい指摘をいただく機会が増え、その見直しと先の課題を検討し改善につなげた。

ケアミックス病院で多くの施設基準にリハビリテーションを提供している当院において、コロナを身近で経験したことはよかったと思っている。災害時におけるリハビリテーション部門が担う役割について具体的に検討していける糸口が見つかったと前向きにとらえている。

（文責：リハビリテーション委員長　藤本　弘昭）

新型コロナ対策チーム

1 2021（令和３）年度　目的・目標

新型コロナウイルスに対する感染対策を決定し、各部署に指導、指示、命令する。

2 活動内容・目標に対する達成状況

1．メンバーは、最新情報を入手、共有し必要に応じて発信する。
2．メンバーは、各担当業務に関わる情報収集と情報伝達などを担う。
3．メンバーは、感染対策を検討し、決定する。
4．メンバーは、決定した感染対策が適切に実施されているか評価する。

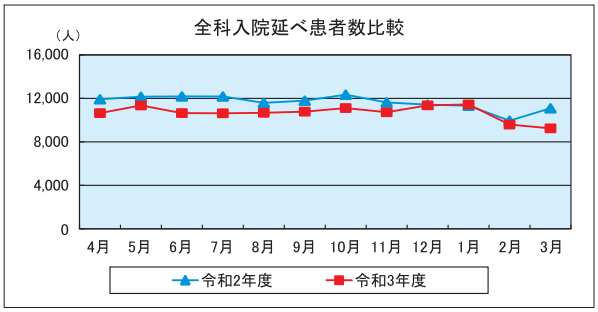
感染状況に応じて週１～２回のチーム会を開催し、上記１.～４.について実施している。
令和３年度は細木病院で２度のクラスター、また関連の三愛病院でもクラスターが発生したが、いずれもチームメンバーはもとより、関連部署の職員の皆さまのご尽力のおかげで制御することができた。この場をお借りし感謝申し上げます。

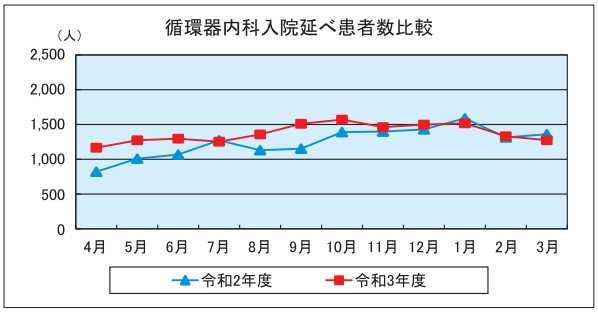
（文責：新型コロナ対策チーム委員長　尾﨑　信三）

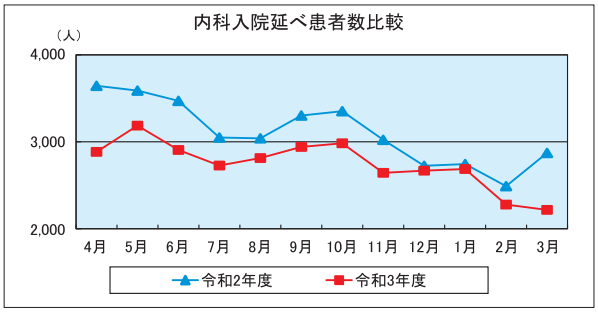
診療部

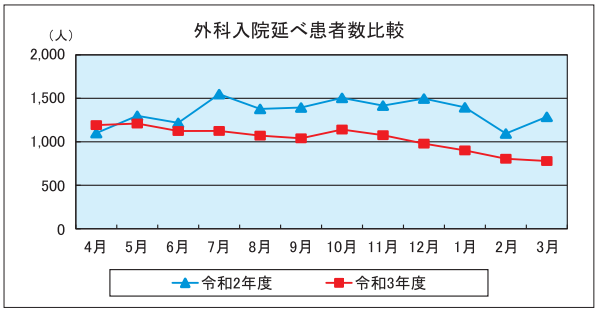
令和３年度　入院患者数統計

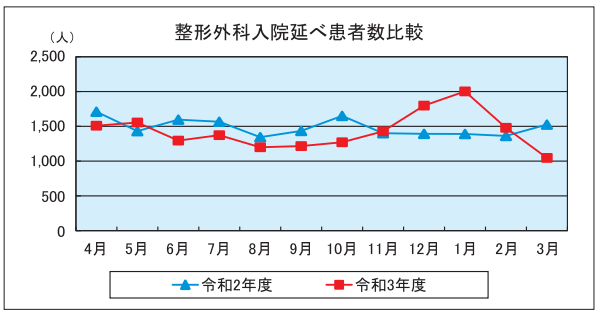
	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	平均／合計
稼　働　率(%)	77.6	80.1	77.6	75.0	75.3	78.6	78.6	78.4	80.3	80.9	75.4	65.4	76.9
延べ患者数(人)	11,922	12,154	12,184	12,177	11,590	11,790	12,341	11,629	11,422	11,326	9,950	11,088	139,573
平均患者数(人)	397.4	392.1	406.1	392.8	373.9	393.0	398.1	387.6	368.5	365.4	355.4	357.7	4,588

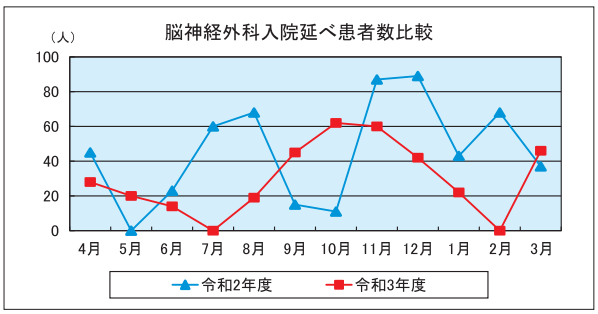


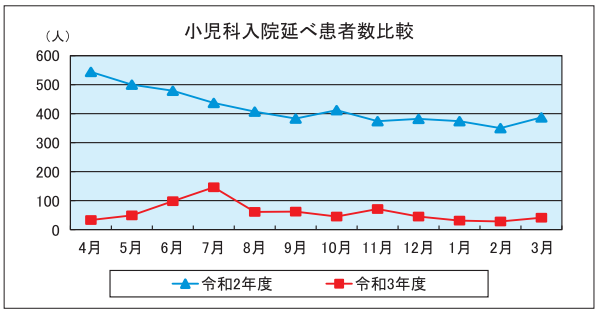


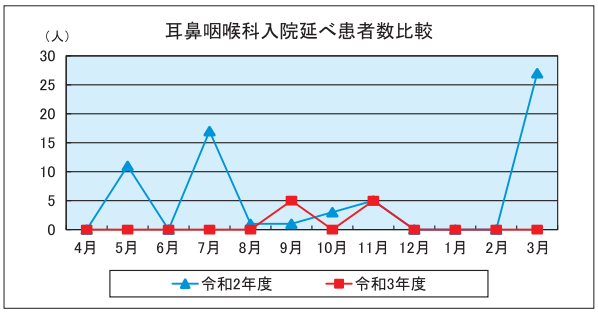


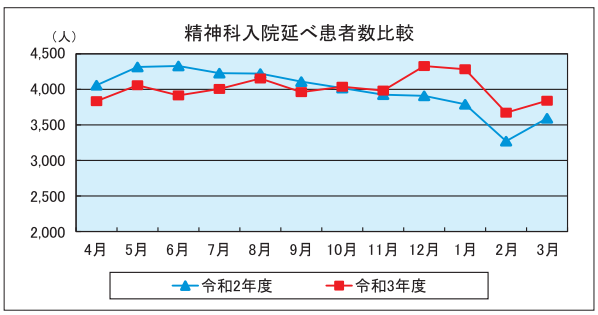








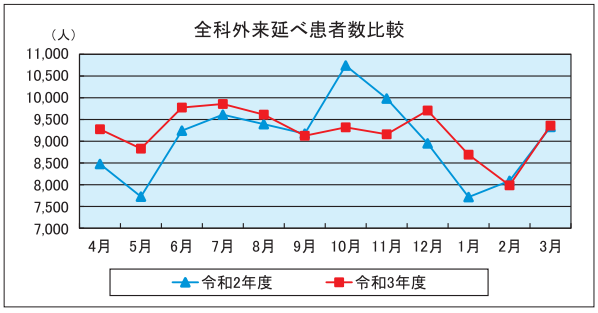


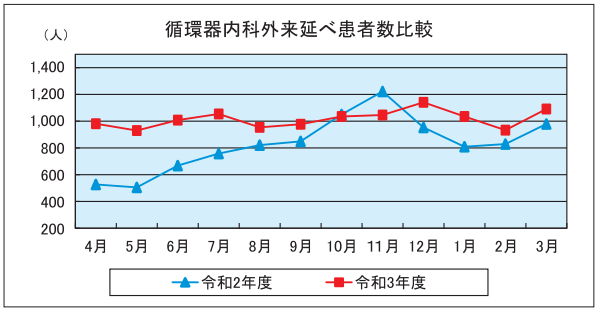


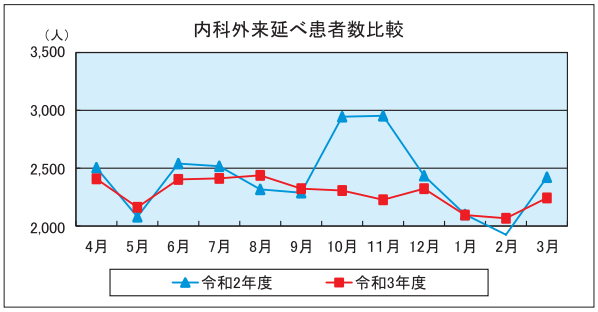
令和３年度　外来患者数統計

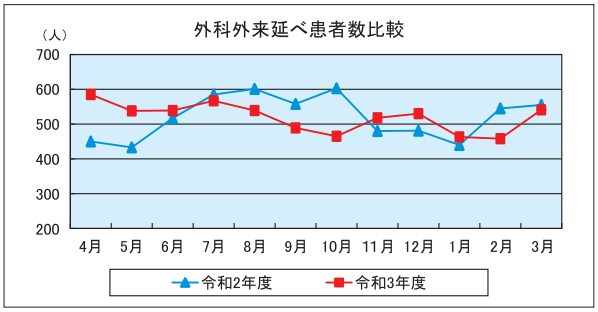
単位：人

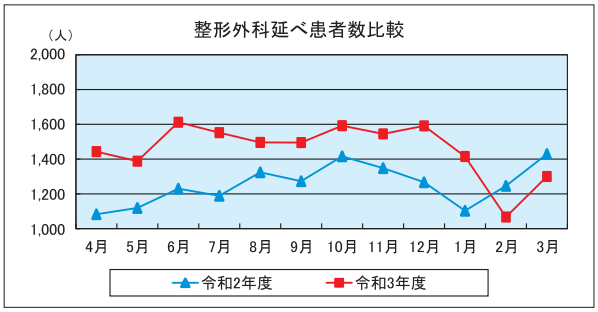
	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	合　計
実患者数	6,643	6,515	6,921	7,020	6,832	6,520	6,713	6,579	6,995	6,342	5,655	6,580	79,315
延患者数	9,004	8,231	9,911	10,369	10,214	10,023	11,791	11,204	9,904	8,525	8,918	10,309	118,403
平均患者数	360.2	357.9	396.4	414.8	408.6	417.6	453.5	466.8	380.9	370.7	405.4	396.5	4829.2
初診患者数	1,031	1,066	1,192	1,103	1,159	957	992	958	1,103	965	850	952	12,328

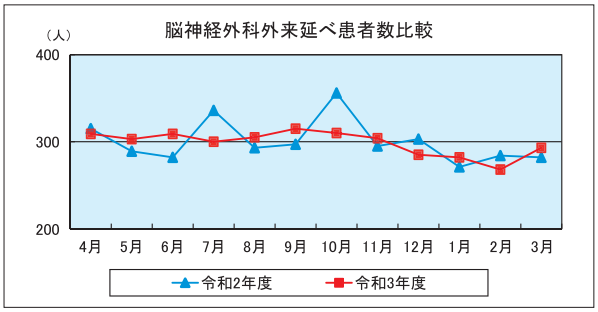


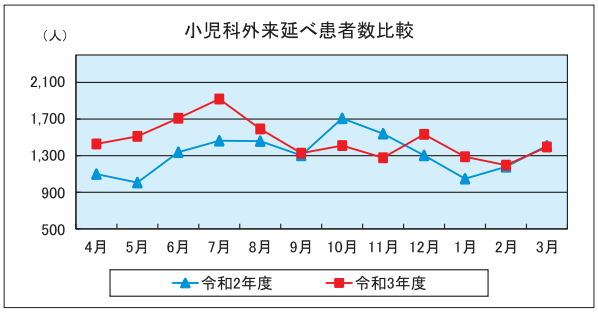


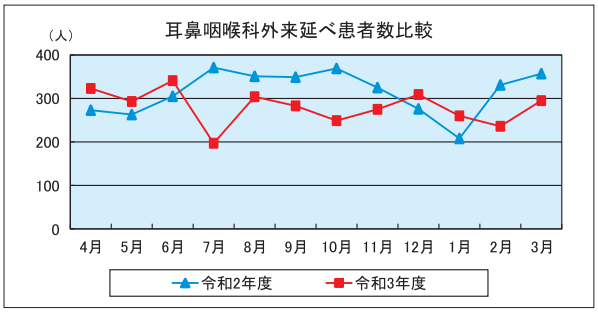


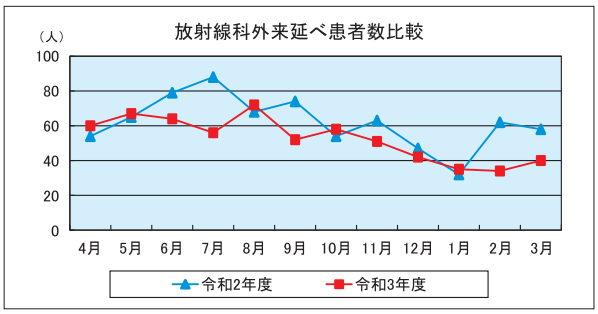


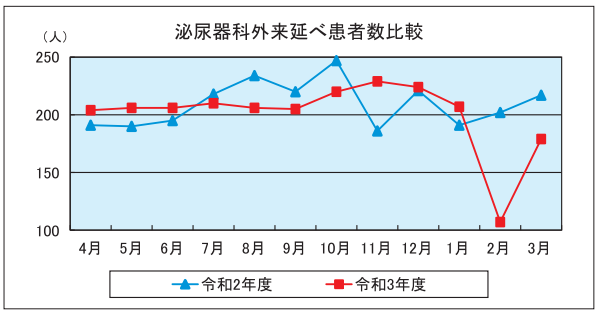


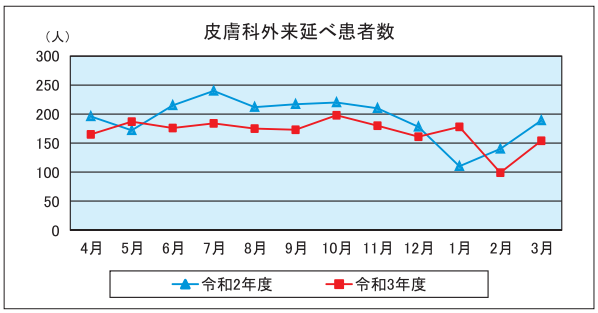


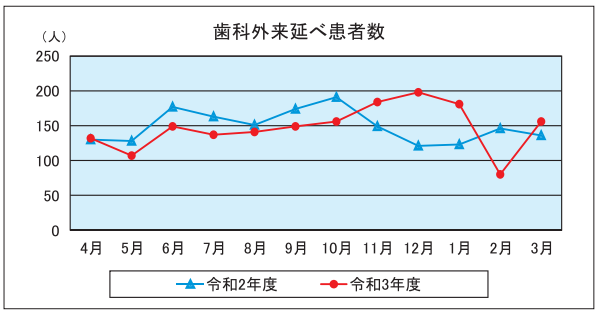


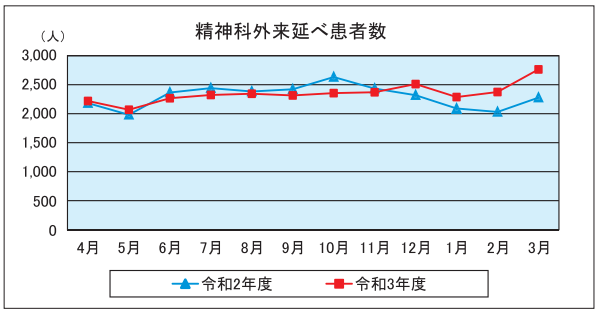












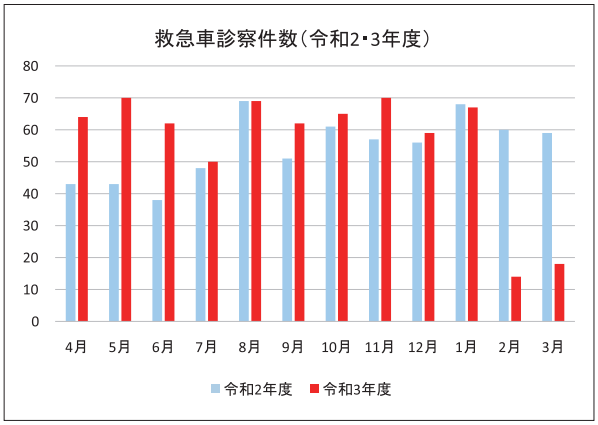
■ 2021（令和３）年度　救急件数

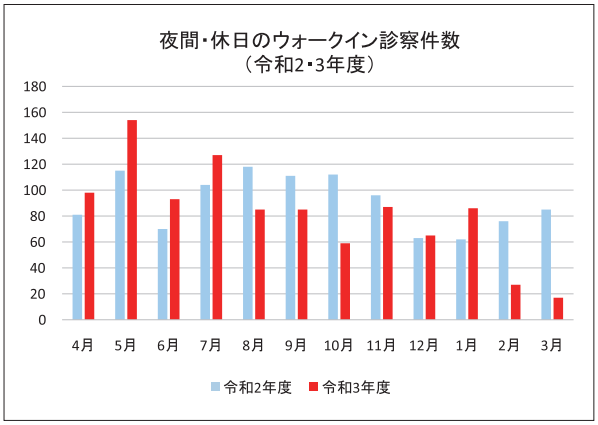
救急車診察件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和２年度	43	43	38	48	69	51	61	57	56	68	60	59	653
令和３年度	64	70	62	50	69	62	65	70	59	67	14	18	670

夜間・休日のウォークイン診察件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和２年度	81	115	70	104	118	111	112	96	63	62	76	85	1,093
令和３年度	98	154	93	127	85	85	59	87	65	86	27	17	983





2021（令和３）年度
検査件数（令和３年４月１日～令和４年３月31日）

■ 消化器内科（内視鏡手術を含む）

上部消化管内視鏡		（総数1,798）
	内視鏡的粘膜切除術・粘膜下層剥離術	4
	内視鏡的胃ろう造設術	39
	内視鏡的消化管止血術	6
	内視鏡的逆行性胆道膵管造影	24
	内視鏡的食道静脈瘤結さつ術・硬化療法	0
下部消化管内視鏡		（総数376）
	内視鏡的ポリープ切除術・粘膜切除術	72
	内視鏡的消化管止血術	6
経皮経肝胆嚢ドレナージ		0
腹部血管造影・肝動脈塞栓術		0
エコー下肝生検		0
合　　計		2,174

■ 糖尿病・内分泌内科（検査）

甲状腺穿刺吸引細胞診	25
合　　計	25

■ 過去３年間の病理組織検査

年度	令和元年度	令和２年度	令和３年度
内　　科	279	214	178
外　　科	86	98	99
整形外科	9	6	2
耳鼻科	4	0	0
皮膚科	27	24	16
脳神経外科	0	0	0
歯　　科	1	0	1
院内計	406	342	296
三愛病院	40	22	8
合　　計	446	364	304

2021（令和３）年度
手術件数（令和３年４月１日～令和４年３月31日）

■ ほそぎハートセンター（循環器科内科）（手術）

ＰＣＩ	119
アブレーション	58
ペースメーカー	18
合　　計	195

■ 耳鼻咽喉科（手術）

鼓膜切開術	1
外耳道異物除去術	10
鼻内遺物除去術	1
顎関節脱臼非観血的整復術	1
咽頭異物摘出術	3
合　　計	16

2021（令和３）年度
手術件数（令和３年４月１日～令和４年３月31日）

■ 外科（手術）

全麻・腰麻・硬麻	令和２年度	令和３年度
胃がん		
胃全摘術		
幽門側胃切除術		
開腹		
腹腔鏡補助下		
噴門側胃切除術		
結腸がん		
部分切除術	6	9
半側切除術		
腹腔鏡補助下		
人工肛門造設術	2	1
直腸がん		
高位前方切除術		
低位前方切除術	1	6
直腸切断術		
経肛門的切除術		1
人工肛門造設術		1
腹腔鏡補助下		
胆石症		
鏡視下胆摘	4	10
鏡視下胆管切石		1
開腹胆摘		
胆管切石術		
イレウス		
腸管切除あり	1	2
腸管切除なし	3	3
胃空腸吻合術		
腸瘻造設・閉鎖		
急性虫垂炎	4	7
成人鼠径ヘルニア	19	16
小児鼠径ヘルニア		
陰嚢水腫		
腹壁瘢痕ヘルニア		
恥骨上ヘルニア		
大腿ヘルニア	2	2
閉鎖孔ヘルニア		1
臍ヘルニア	2	2
痔核		
硬化療法	3	1
結紮切除	1	
結紮切除＋硬化療法	1	2
ＰＰＨ		
痔瘻	1	
肛囲膿瘍切開排膿		

	令和２年度	令和３年度
直腸脱		
デローメ		1
ガント三輪＋Thiersch		
ＰＰＨ＋Thiersch		
開腹術		
ＳＳＧ		
肝部分切除術		
肝外側区域切除術		
肝左葉切除		
乳がん	50	33
甲状腺腫瘍	4	2
単純胃切除術		
膵頭十二指腸切除術		
膵体尾部切除		
胆嚢がん		
消化管穿孔		
腹腔鏡下結腸切除		
結腸憩室炎（腸切）		
直腸腫瘍切除（経肛門的）		
下肢静脈瘤ストリッピング手術		
その他	1	1
合　　計	105	102

乳房腫瘍摘出術	14	10
陥入爪手術		
皮膚皮下腫瘍摘出術	12	12
切開排膿術	1	5
創傷処理		
リンパ節生検	1	
血腫除去		
趾切断		
リンパ浮腫ドレナージ		
その他		1
合　　計	28	28

手術総計	133	130

2021（令和３）年度
手術件数（令和３年４月１日～令和４年３月31日）

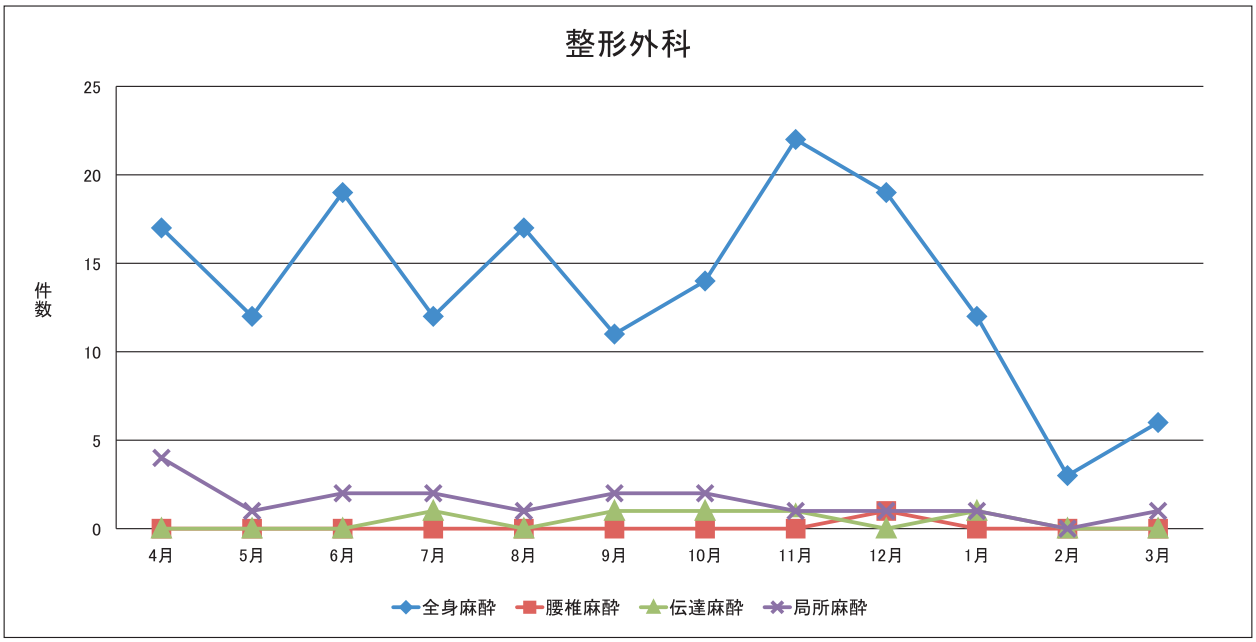
■ 整形外科（手術）

Ⅰ．脊椎手術		
	側弯症手術	0
	頚椎	0
	胸椎	0
	腰椎	56
	脊髄・脊椎腫瘍手術	0
Ⅱ．小児整形		12
Ⅲ．関節手術		
	１）肩関節	
	腱板修復・制動など（鏡視下）	16
	腱板修復・制動など（直視下）	0
	人工関節	0
	２）肘関節	0
	３）股関節	
	人工関節置換術	4
	その他	26
	４）膝関節	
	人工関節置換術	13
	靭帯縫合・再建	0
	関節鏡	2
	その他	1
	５）足関節手術	0

Ⅳ．手・末梢神経手術		
	１）末梢神経手術	11
	２）手外科手術	0
Ⅴ．腫瘍摘出術		
	１）骨腫瘍摘出術	0
	２）軟部腫瘍摘出術	0
Ⅵ．骨髄炎手術		0
Ⅶ．骨接合術		18
Ⅷ．バイオプシー		0
Ⅸ．その他		29
合　　計		188

■ 整形外科（手術）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
全身麻酔	17	12	19	12	17	11	14	22	19	12	3	6	164
腰椎麻酔	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
伝達麻酔	0	0	0	1	0	1	1	1	0	1	0	0	5
局所麻酔	4	1	2	2	1	2	2	1	1	1	0	1	18
												総計	188



2021（令和３）年度
手術件数（令和３年４月１日～令和４年３月31日）

■ 麻酔科（手術）

表１　麻酔科管理手術件数の推移（麻酔方法別）

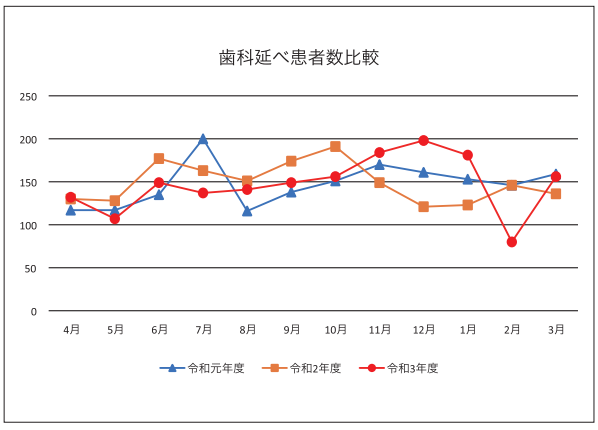
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和２年度	令和３年度
全身麻酔(吸入麻酔)	81	82	160	185	142	142	182	193
全身麻酔(完全静脈麻酔＜ＴＩＶＡ＞)	10	4	2	1	1	0	1	3
全身麻酔(吸入)＋硬背伝麻	171	155	153	163	160	116	58	64
全身麻酔(＜ＴＩＶＡ＞)＋硬背伝麻	4	0	0	1	20	11	14	4
脊髄くも膜下麻酔	34	28	26	32	6	10	11	6
その他	3	9	3	4	3	1	0	4
総計	303	278	344	386	332	280	266	274
対前年比％	※詳細不明	91.74％	123.74％	112.20％	86.01％	84.33％	95％	103％

表２　ペインクリニック:患者数とブロック数の推移

	平成30年度	令和元年度	令和２年度	令和３年度
硬膜外ブロック（仙骨ブロック含む）	92	114	110	118
星状神経節ブロック	19	15	10	21
トリガーポイント注射	77	154	80	114
その他の末梢神経ブロック	14	19	53	36
■神経ブロック（合計）	202	302	253	289
神経ブロック（合計）前年度比（％）	※詳細不明	149.5％	83.8％	114.2％
■延べ患者数（総数）	337	448	440	508
延べ患者数（総数）前年度比（％）	※詳細不明	132.9％	98.2％	115.5％

■ 歯科診療

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
令和元年度	117	117	135	200	116	138	151	170	161	153	146	159
令和２年度	130	128	177	163	151	174	191	149	121	123	146	136
令和３年度	132	107	149	137	141	149	156	184	198	181	80	156



看護部

2021(令和３)年度　病棟別業務実績

■ 新１病棟（病棟形態：回復期リハビリテーション病棟）

令和３年度	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月
稼働率（％）	70.9	82.4	74.0	68.1	64.3	74.2	84.6	71.7	77.3	83.5	73.1	54.8
平均患者数（人）	36.9	42.8	38.5	35.4	33.4	38.6	44.0	37.3	40.2	43.4	38.0	28.5
平均在院日数（日）	56.3	63.2	69.0	70.2	63.8	64.5	70.4	65.6	61.6	62.4	85.1	86.7

■ 新２病棟（病棟形態：地域包括ケア病棟）

令和３年度	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月
稼働率（％）	79.1	68.7	73.1	74.0	66.6	76.2	81.7	71.8	61.3	66.5	73.4	68.7
平均患者数（人）	41.8	40.4	38.8	35.6	35.1	39.7	38.5	39.9	42.4	43.0	33.4	14.2
平均在院日数（日）	24.6	25.2	23.1	21.9	19.9	22.3	24.1	26.1	23.1	23.0	28.3	30.4

■ 新３病棟（病棟形態：急性期一般病棟）

令和３年度	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月
稼働率（％）	66.3	69.0	68.7	68.3	63.9	69.9	71.1	74.7	65.2	67.6	66.9	53.5
平均患者数（人）	39.8	41.4	41.2	41.0	38.4	42.0	42.7	44.8	39.1	40.6	40.1	32.1
平均在院日数（日）	13.6	13.7	12.6	12.1	11.6	13.1	13.7	13.7	13.2	13.0	14.6	18.5

■ 南１病棟（病棟形態：医療療養病棟）

令和３年度	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月
稼働率（％）	90.1	85.4	87.1	87.2	87.0	86.5	81.6	84.1	85.9	87.0	87.3	88.0
平均患者数（人）	46.9	44.5	44.0	45.5	42.0	44.1	45.3	45.1	44.3	42.4	42.4	41.9
平均在院日数（日）	481.8	560.5	586.6	587.1	503.9	403.5	350.3	429.5	458.8	351.4	369.0	400.0

■ 南２病棟（病棟形態：医療療養病棟）

令和３年度	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月
稼働率（％）	90.0	90.6	85.6	79.9	83.3	88.0	88.4	89.0	82.9	84.4	82.3	81.6
平均患者数（人）	44.1	44.4	41.9	39.2	40.8	43.1	43.3	43.6	40.6	41.4	40.3	40.0
平均在院日数（日）	563.4	457.2	316.6	256.5	226.6	243.5	278.8	328.8	355.6	220.9	349.6	304.2

■ 南３病棟（病棟形態：障害者施設等一般病棟）

令和３年度	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月
稼働率（％）	66.3	91.2	92.4	92.0	84.7	88.7	92.7	86.6	89.0	87.1	79.3	81.9
平均患者数（人）	27.2	27.4	27.7	27.6	25.4	26.6	27.8	26.0	26.7	26.1	23.8	24.6
平均在院日数（日）	787.0	1,660.7	2,497.0	1,690.7	1,650.7	814.0	979.2	696.9	823.0	604.3	354.5	319.7

■ 南５病棟（病棟形態：新型コロナ陽性者受け入れ病棟／緩和ケア病棟）

令和３年度	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月
稼働率（％）	19.7	48.7	43.6	24.2	50.5	34.4	2.7	15.0	49.5	45.7	21.7	33.9
平均患者数（人）	2.4	5.8	5.2	2.9	6.1	4.1	0.3	1.8	5.9	5.5	2.6	4.1
平均在院日数（日）	7.1	9.3	8.4	8.3	7.8	7.7	7.9	8.4	27.6	20.4	17.1	12.7

■ 北３病棟（病棟形態：精神科急性期治療病棟）

令和３年度	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月
稼働率（％）	72.0	70.3	69.0	72.7	84.4	79.1	77.3	77.3	85.7	84.6	73.6	69.0
平均患者数（人）	28.8	28.1	27.6	29.1	33.7	31.6	30.9	30.9	34.3	33.8	29.4	27.6
平均在院日数（日）	108.8	128.2	125.1	137.0	120.7	103.5	77.7	78.7	86.7	103.1	117.4	126.9

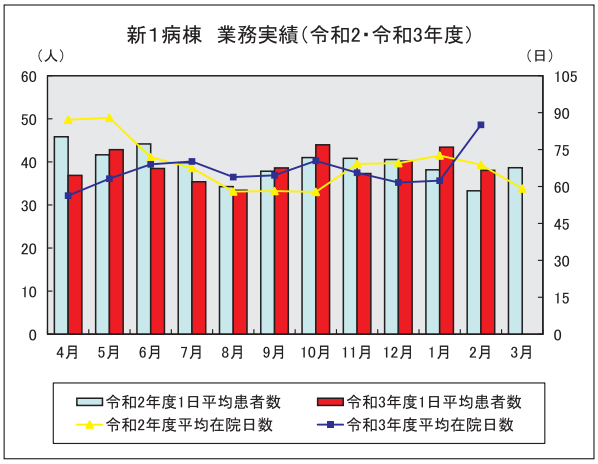
■ 北４病棟（病棟形態：精神病棟）

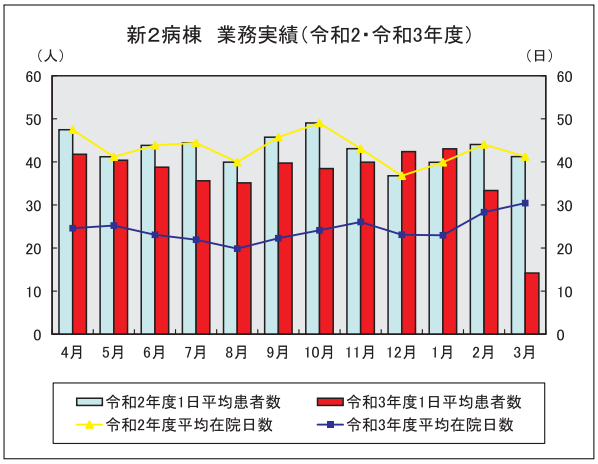
令和３年度	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月
稼働率（％）	80.3	86.7	86.3	82.0	86.0	87.2	84.8	89.4	95.4	94.8	90.0	83.7
平均患者数（人）	42.5	45.9	45.7	43.5	45.6	46.2	45.0	47.4	50.6	50.3	47.7	44.4
平均在院日数（日）	622.8	798.2	1,163.4	950.9	751.5	691.3	1,048.5	1,200.9	1,753.6	1,516.0	1,115.5	948.7

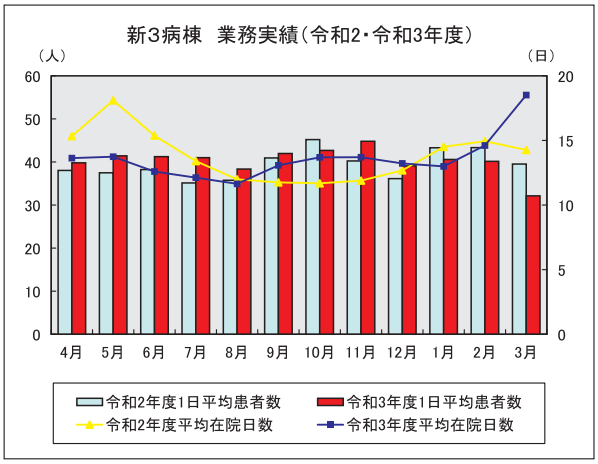
■ 北５病棟（病棟形態：精神病棟）

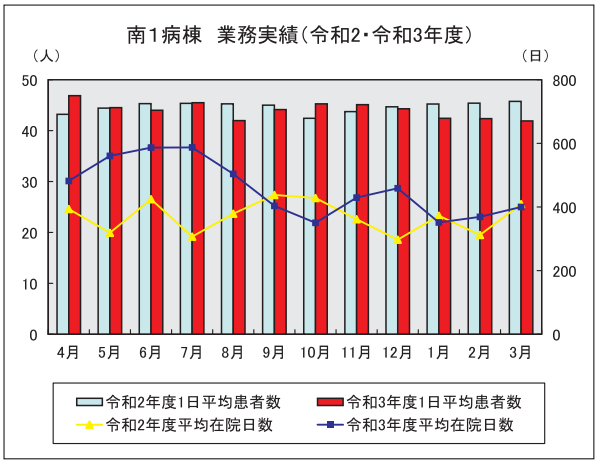
令和３年度	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月
稼働率（％）	94.7	95.5	96.2	95.1	94.1	94.1	93.1	92.6	95.3	95.7	95.8	91.5
平均患者数（人）	45.5	45.8	46.2	45.6	45.2	45.2	44.7	44.4	45.7	45.9	46.0	43.9
平均在院日数（日）	1,159.7	840.8	1,191.4	1,407.0	1,200.0	1,191.4	828.0	1,018.3	827.2	1,043.8	1,376.7	1,164.0

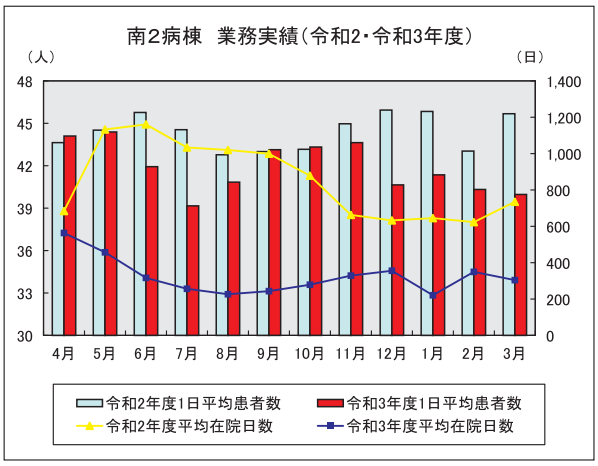
１日平均患者数と平均在院日数の前年度比

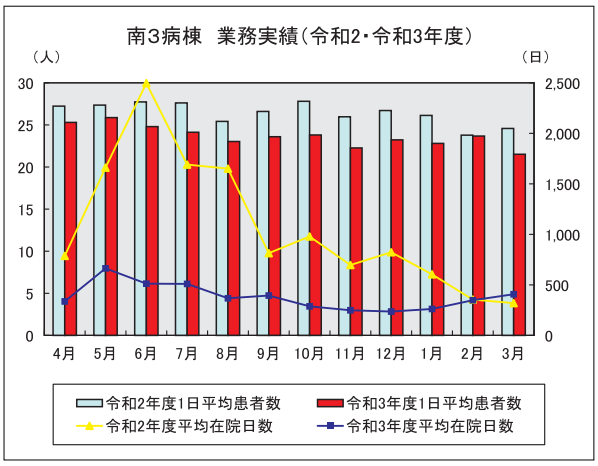


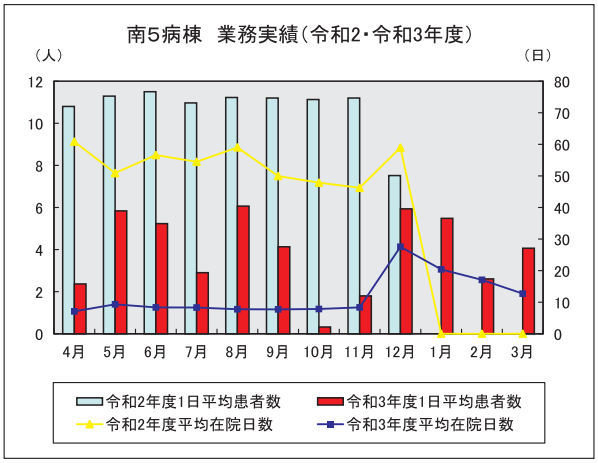


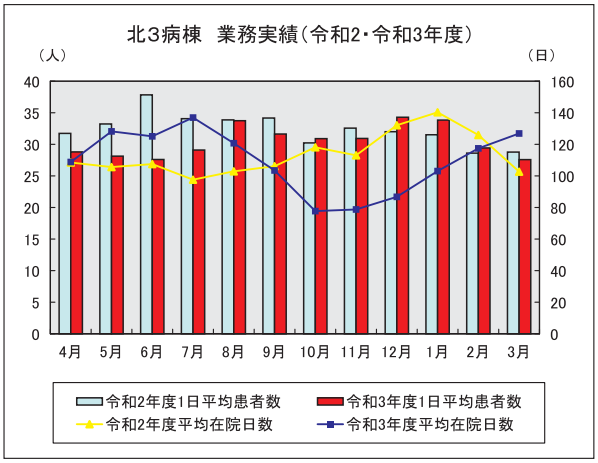


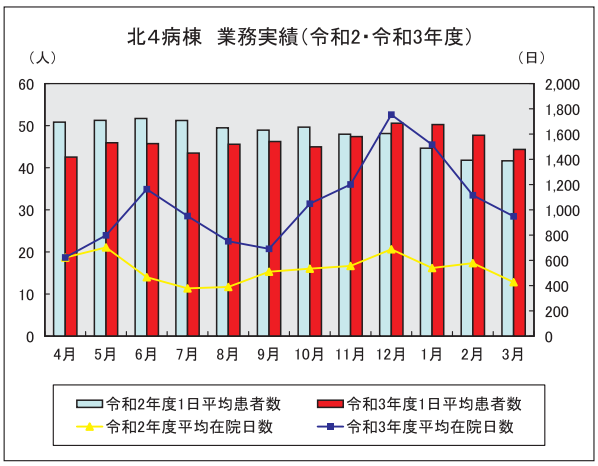


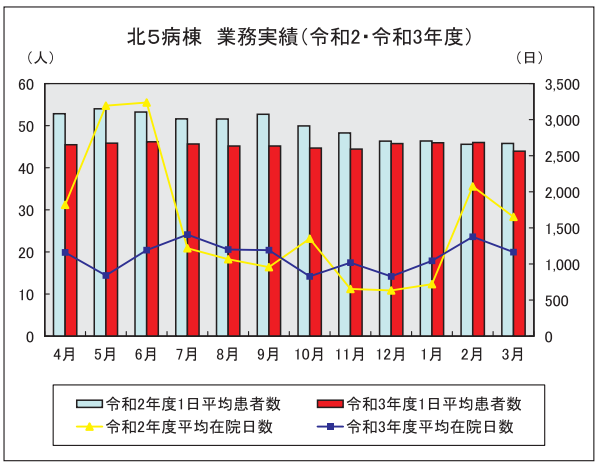

南2病棟　業務実績（令和2・令和3年度）
（人）
（日）
令和2年度1日平均患者数
令和3年度1日平均患者数
令和2年度平均在院日数
令和3年度平均在院日数


南3病棟　業務実績（令和2・令和3年度）
（人）
（日）
令和2年度1日平均患者数
令和3年度1日平均患者数
令和2年度平均在院日数
令和3年度平均在院日数


南5病棟　業務実績（令和2・令和3年度）
（人）
（日）
令和2年度1日平均患者数
令和3年度1日平均患者数
令和2年度平均在院日数
令和3年度平均在院日数


北3病棟　業務実績（令和2・令和3年度）
（人）
（日）
令和2年度1日平均患者数
令和3年度1日平均患者数
令和2年度平均在院日数
令和3年度平均在院日数

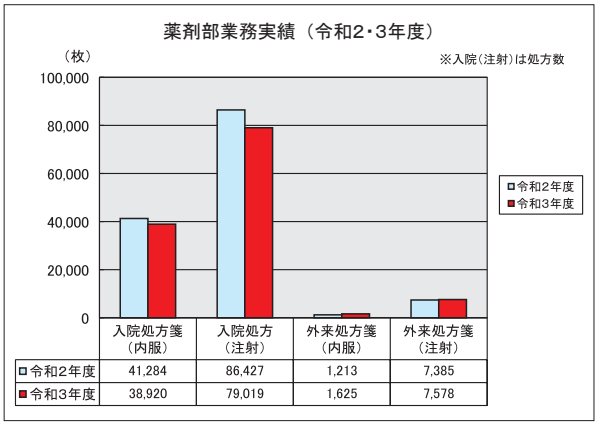

北4病棟　業務実績（令和2・令和3年度）
（人）
（日）
令和2年度1日平均患者数
令和3年度1日平均患者数
令和2年度平均在院日数
令和3年度平均在院日数

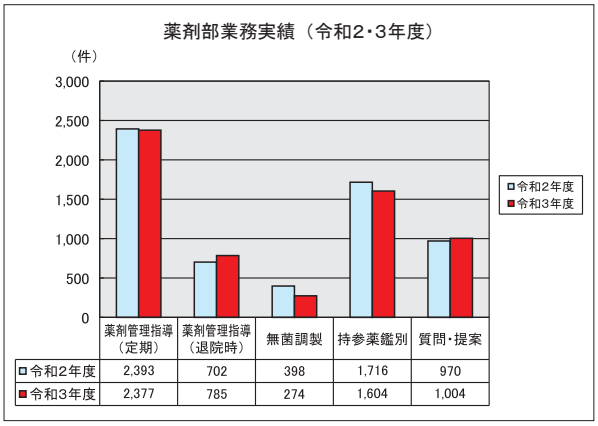

北5病棟　業務実績（令和2・令和3年度）
（人）
（日）
令和2年度1日平均患者数
令和3年度1日平均患者数
令和2年度平均在院日数
令和3年度平均在院日数

薬剤部

■ 2021（令和３）年度　薬剤部　業務実績件数

項目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院処方	内服	3,238	3,056	3,227	3,332	3,211	3,501	3,573	3,386	3,638	3,472	2,794	2,492	38,920
	注射	5,884	7,604	6,906	6,284	6,574	6,229	7,772	7,453	6,951	6,520	5,567	5,275	79,019
外来処方（院内処方分）	内服	111	119	113	144	132	98	117	83	112	142	254	200	1,625
	注射	674	697	729	752	695	630	633	662	593	593	415	505	7,578
薬剤管理指導	定期指導	198	194	255	228	250	197	195	226	230	213	104	87	2,377
	退院指導	60	62	95	77	75	57	67	83	77	68	39	25	785
無菌調製		31	27	20	21	26	28	12	24	27	22	22	14	274
医薬品情報	持参薬鑑別	150	129	140	93	175	162	162	168	154	145	53	73	1,604
	質問、提案	84	56	108	72	90	104	90	80	87	82	77	74	1,004

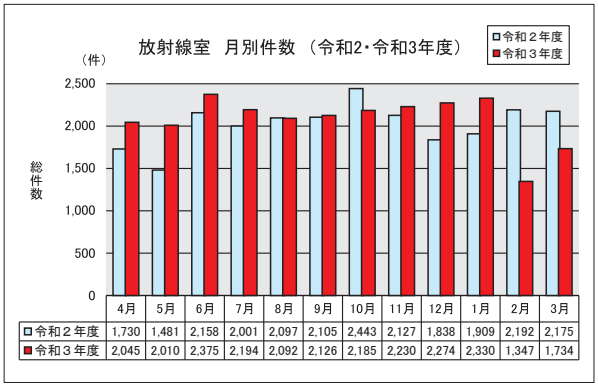


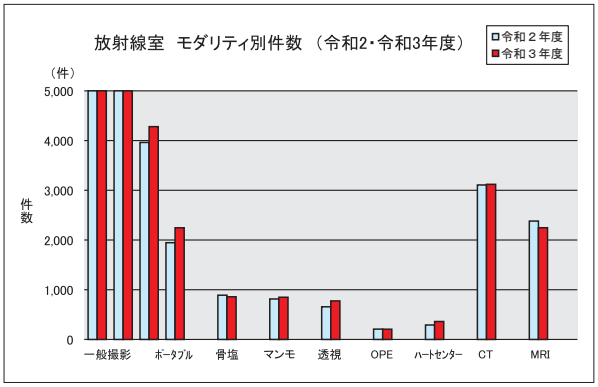


医療技術部

■ 2021（令和３）年度　放射線室　撮影件数表

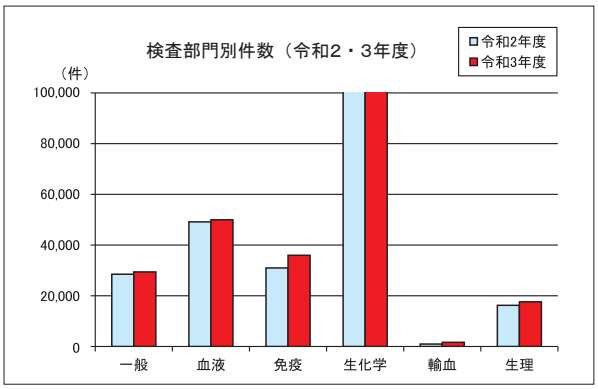
	撮影		骨塩	マンモグラフィ	透視	OPE	ハートセンター	健診				CT			MRI	
	一般	ポータブル						胸部	胃透視	骨塩	マンモ	単純	造影	心臓	単純	造影
令和２年度	11,159	1,946	656	287	335	208	291	2,803	322	234	527	2,621	297	189	2,246	135
令和３年度	11,502	2,246	599	281	276	206	361	2,778	499	259	568	2,665	261	194	2,136	111
前年度比（%）	103.1	115.4	91.3	97.9	82.4	99.0	124.1	99.1	155.0	110.7	107.8	101.7	87.9	102.6	95.1	82.2





■ 令和３年度　臨床検査室
検査部門別件数推移（令和２年度・令和３年度）

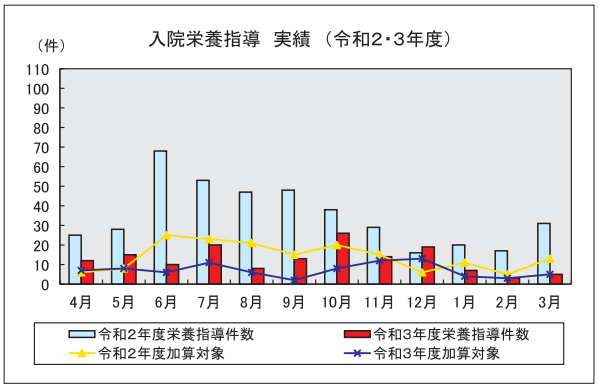
	令和２年度	令和３年度	前年度比
一般	28,495	29,405	103.2%
血液	49,143	49,960	101.7%
免疫	30,970	35,966	116.1%
生化学	461,030	472,841	102.6%
輸血	961	1,638	170.4%
生理	16,233	17,613	108.5%

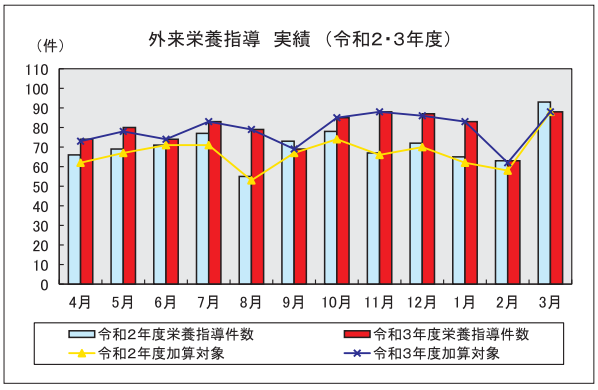


■ 令和３年度　栄養管理室　業務実績件数

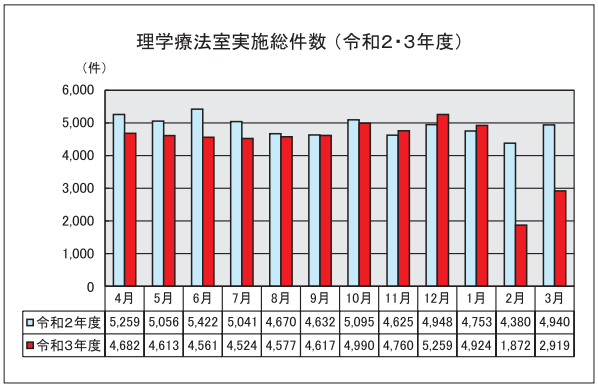
令和３年度	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月
入院栄養指導（件）	12	15	10	20	8	13	26	14	19	7	3	5
加算対象（件）	7	8	6	11	6	2	8	12	13	4	3	5

令和３年度	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月
外来栄養指導（件）	74	80	74	83	79	69	85	88	87	83	63	88
加算対象（件）	73	78	74	83	79	69	85	88	86	83	62	88



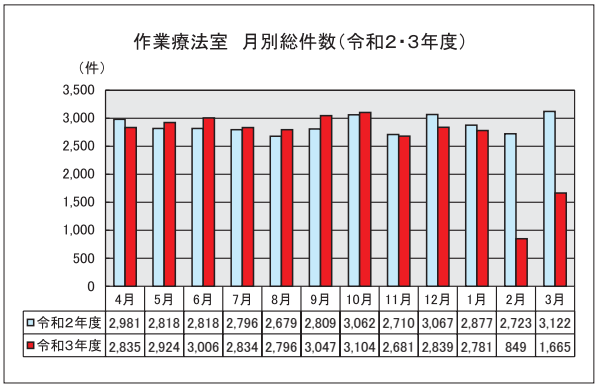


■ 令和３年度
リハビリテーション課　理学療法室　業務実績件数



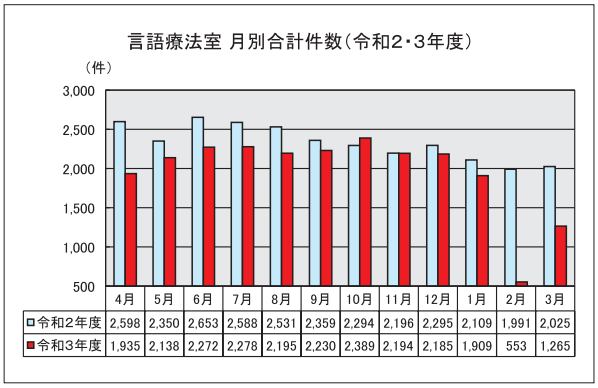
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
令和2年度	5,259	5,056	5,422	5,041	4,670	4,632	5,095	4,625	4,948	4,753	4,380	4,940
令和3年度	4,682	4,613	4,561	4,524	4,577	4,617	4,990	4,760	5,259	4,924	1,872	2,919

■ 令和３年度
リハビリテーション課　作業療法室　業務実績件数



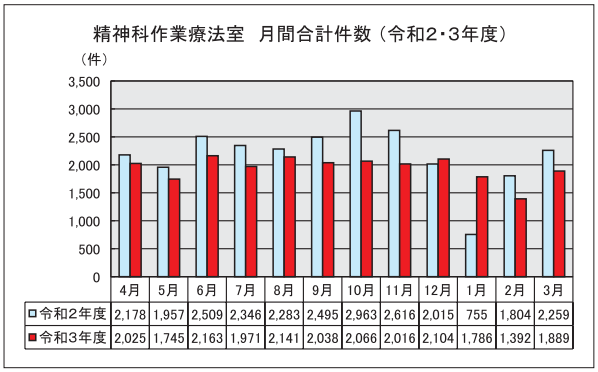
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
令和2年度	2,981	2,818	2,818	2,796	2,679	2,809	3,062	2,710	3,067	2,877	2,723	3,122
令和3年度	2,835	2,924	3,006	2,834	2,796	3,047	3,104	2,681	2,839	2,781	849	1,665

■ 令和３年度
リハビリテーション課　言語療法室　業務実績件数



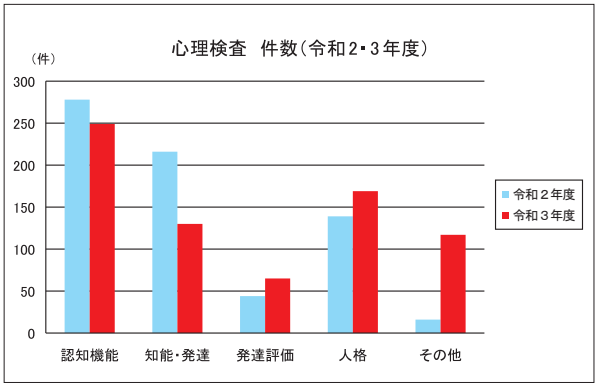
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
令和2年度	2,598	2,350	2,653	2,588	2,531	2,359	2,294	2,196	2,295	2,109	1,991	2,025
令和3年度	1,935	2,138	2,272	2,278	2,195	2,230	2,389	2,194	2,185	1,909	553	1,265

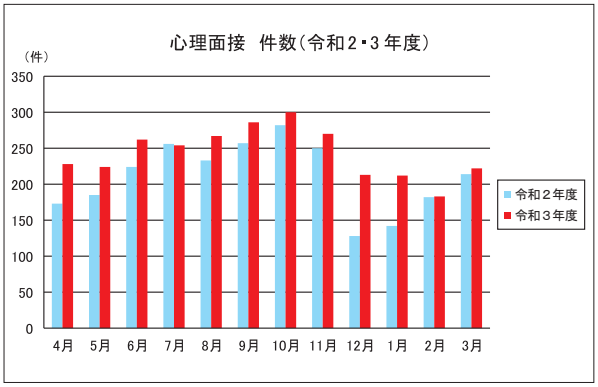
■ 令和３年度
精神科作業療法室　月間合計件数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
令和2年度	2,178	1,957	2,509	2,346	2,283	2,495	2,963	2,616	2,015	755	1,804	2,259
令和3年度	2,025	1,745	2,163	1,971	2,141	2,038	2,066	2,016	2,104	1,786	1,392	1,889

■ 令和３年度
臨床心理室　検査・面接実績件数





在宅部

2021（令和３）年度　在宅部業務実績

■ ケアサポートセンターほそぎ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
令和２年度介護保険利用者数（人）	221	218	228	233	237	236	237	218	195	187	155	136	2,501	208
令和２年度介護予防利用者数（人）	11	12	9	9	8	8	9	9	10	9	6	6	106	9
令和３年度介護保険利用者数（人）	128	129	137	133	131	131	135	136	133	131	125	132	1,581	132
令和３年度介護予防利用者数（人）	6	3	3	3	3	3	3	2	2	1	2	4	35	3

■ 訪問看護ステーションほそぎ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
令和２年度　利用者数（人）	124	117	120	124	123	124	125	124	114	112	118	116	1,441	721
令和２年度　のべ回数（回）	550	467	607	559	541	567	650	545	492	514	524	670	6,686	3,343
令和３年度　利用者数（人）	119	116	125	119	112	116	115	120	118	106	104	101	1,371	114
令和３年度　のべ回数（回）	599	540	606	568	562	515	593	535	560	427	365	458	6,328	527

■ 訪問リハビリテーション

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
令和２年度　利用者数（人）	49	45	51	48	51	47	45	50	50	50	52	54	592	49
令和２年度　のべ回数（回）	317	311	337	328	325	323	318	330	326	313	329	374	3,931	328
令和３年度　利用者数（人）	52	55	59	59	58	54	54	57	56	54	50	48	656	55
令和３年度　のべ回数（回）	353	341	398	375	368	344	359	364	340	323	285	341	4,191	349

■ ホームヘルパーステーション城西

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
令和２年度　利用者数（人）	87	92	93	91	90	90	88	86	85	81	78	76	1,037	86
令和２年度　のべ回数（回）	604	631	642	716	654	594	623	575	594	522	507	572	7,234	603
令和３年度　利用者数（人）	77	80	83	78	79	75	75	73	73	73	70	69	905	75
令和３年度　のべ回数（回）	581	596	595	581	573	548	526	587	596	537	459	629	6,808	567

■ デイケア　ゆうゆう

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
令和２年度　利用者数（人）	73	74	77	77	77	77	73	76	78	71	70	72	895	75
令和２年度　のべ回数（回）	804	783	807	786	779	766	765	736	729	671	651	731	9,008	751
令和３年度　利用者数（人）	72	70	64	61	59	58	58	59	62	56	52	51	722	60
令和３年度　のべ回数（回）	704	675	666	650	583	579	583	609	596	523	442	534	7,144	595

■ デイサービス　赤とんぼ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
令和２年度　利用者数（人）	23	22	20	21	22	24	25	25	23	24	24	23	276	23
令和２年度　のべ回数（回）	237	245	222	219	233	227	258	261	251	252	234	242	2,881	240
令和３年度　利用者数（人）	23	22	22	20	20	22	22	20	20	20	18	18	247	21
令和３年度　のべ回数（回）	233	239	218	224	223	235	243	217	194	185	150	178	2,539	212

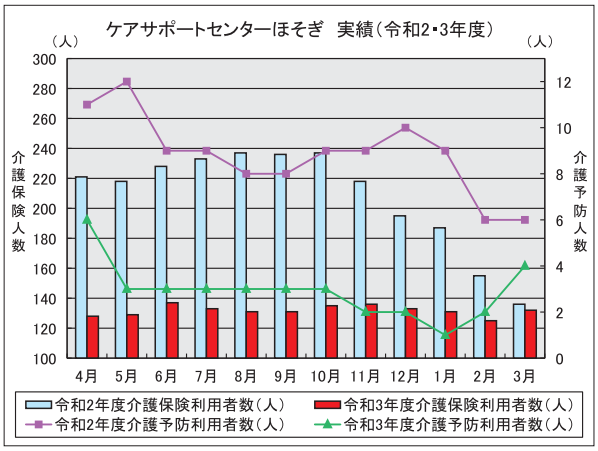
■ デイサービス　さくらんぼ

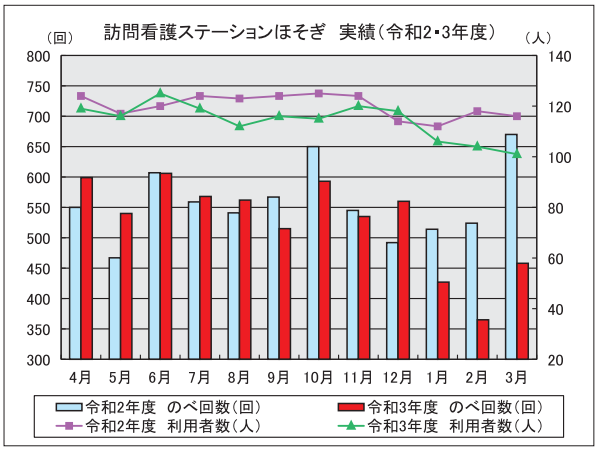
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
令和２年度　利用者数（人）	19	17	20	20	21	20	22	21	20	18	18	18	234	20
令和２年度　のべ回数（回）	187	189	220	230	246	240	258	245	248	207	221	218	2,709	226
令和３年度　利用者数（人）	19	19	20	19	19	18	19	20	17	19	18	16	223	19
令和３年度　のべ回数（回）	219	235	248	251	264	254	264	237	229	223	187	235	2,846	237

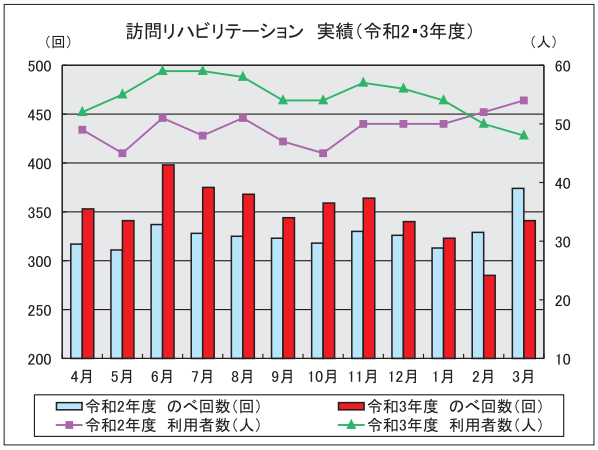
■ デイサービス　いちご学校

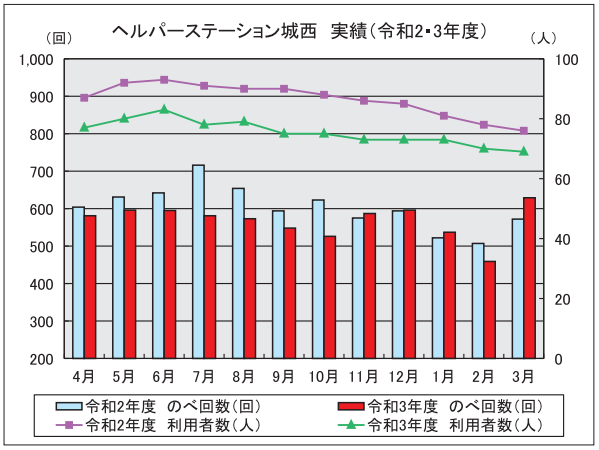
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
令和２年度　利用者数（人）	31	32	31	32	30	28	28	29	29	29	28	27	354	30
令和２年度　のべ回数（回）	304	291	296	332	322	298	308	293	321	280	287	324	3,656	305
令和３年度　利用者数（人）	27	31	31	32	32	32	31	30	28	27	28	29	358	30
令和３年度　のべ回数（回）	319	331	308	349	343	339	329	308	310	273	279	271	3,759	313

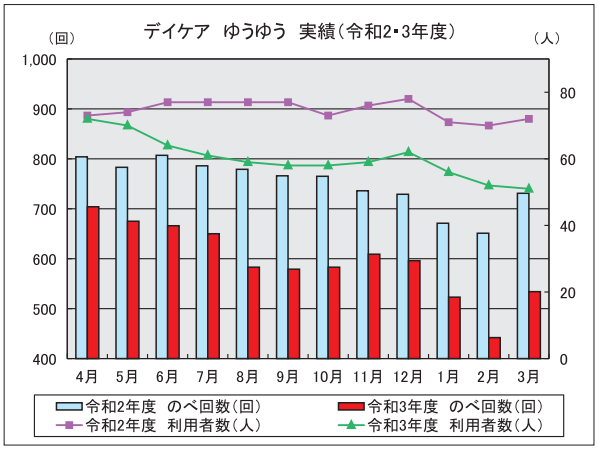
在宅部業務実績　前年度比

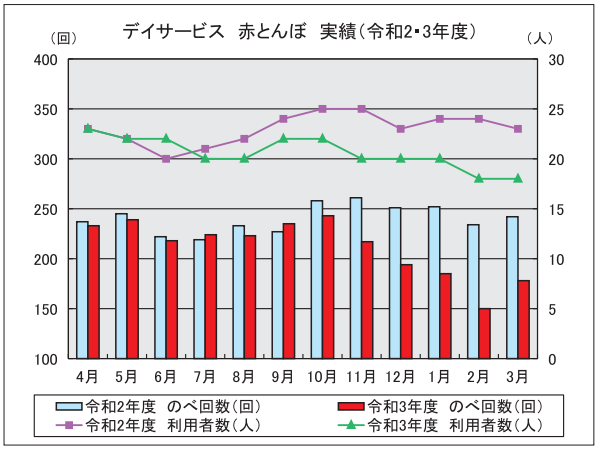


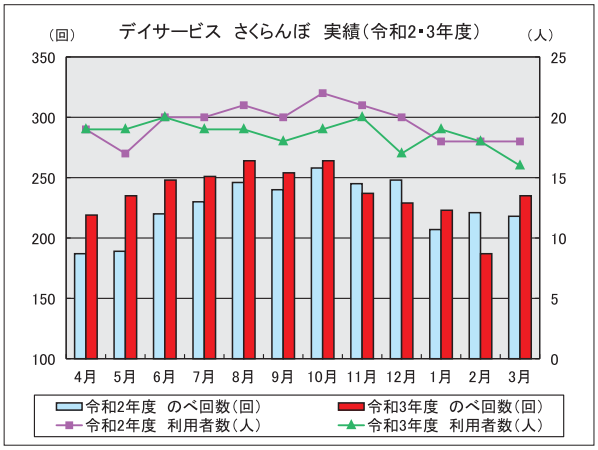


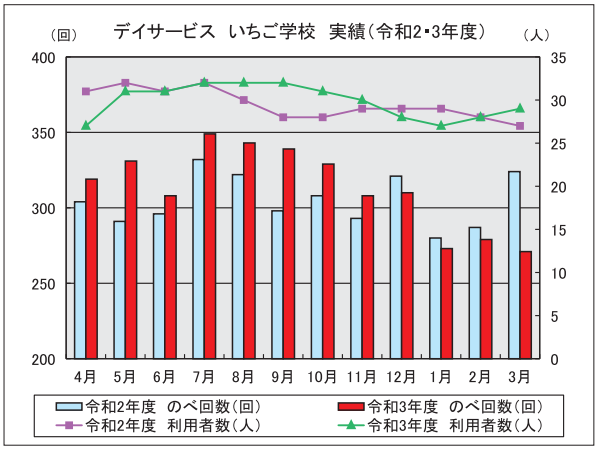












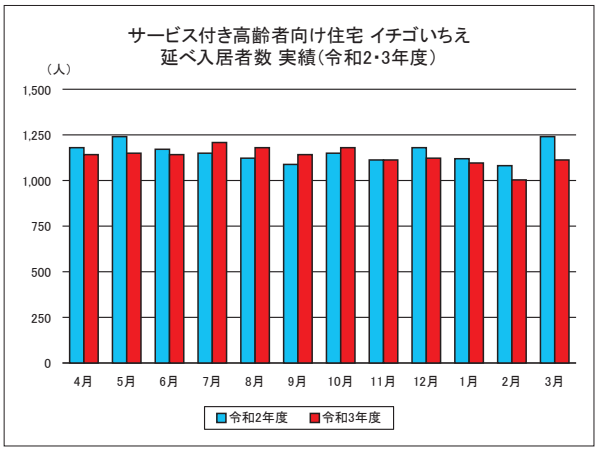
■ グループホーム　入居者の概要（令和３年３月31日現在）

事業所名	定員	要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５	男女比		平均年齢
							男性	女性	
西町	9名	2名	1名	3名	3名	0名	0名	9名	90.6歳
ハッピー万々	15名	4名	4名	3名	2名	2名	0名	15名	87.7歳
赤とんぼ	9名	1名	4名	1名	2名	1名	3名	6名	80.7歳
さくらんぼ	18名	6名	2名	6名	3名	1名	0名	18名	89.5歳

■ サービス付き高齢者向け住宅 イチゴいちえ　　部屋数：39室

令和２年度	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	月平均
営業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	30.4
延べ入居者数	1,209	1,271	1,200	1,178	1,150	1,115	1,178	1,140	1,209	1,147	1,108	1,271	1,181
１日平均入居者数	40.3	41.0	40.0	38.0	37.1	37.2	38.0	38.0	39.0	37.0	39.6	41.0	38.8
入居率	103.3%	105.1%	102.6%	97.4%	95.1%	95.3%	97.4%	97.4%	100.0%	94.9%	101.5%	105.1%	99.6%

令和3年度	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	月平均
営業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	30.4
延べ入居者数	1,170	1,178	1,170	1,238	1,209	1,170	1,209	1,140	1,150	1,123	1,028	1,140	1,160
１日平均入居者数	39.0	38.0	39.0	39.9	39.0	39.0	39.0	38.0	37.1	36.2	36.7	36.8	38.1
入居率	100.0%	97.4%	100.0%	102.4%	100.0%	100.0%	100.0%	97.4%	95.1%	92.9%	94.1%	94.3%	97.8%



■ 診療部

総合診療科

□誌上発表（論文・著作・寄稿）

1．深田順一：「支部だより　高知県支部報告」、日本病院会雑誌、Vol.69　No.3、P.56、2022年3月号

循環器内科（ほそぎハートセンター）

□誌上発表

1．Abe Y, Kitai T, Furukawa A, Nomura N, Matsumura Y, Naruko T, Yoshiyama M: Assessing the true severity of low-gradient aortic stenosis using resting echocardiography. J Cardiol. 2021;77:327-333. 2021年4月
2．Iwano H, Utsunomiya H, Shibayama K, Tanaka H, Isotani A, Onishi T, Obokata M, Izumo M, Kusunose K, Furukawa A, Yamada M, Kitai T, Onishi T, Yamamoto M, Sasaki S, Nochioka K, Ito YM, Anzai T: Results of PRospect trial to Elucidate the utility of EchocarDiography-based CardiacouTput in acute heart failure(PREDICT).J Cardiol. 2022;S0914-5087(22)00055-7. 2022年3月

□学会・研究会

1．○細木信吾：「やさしい閉塞性動脈硬化症」、第6回こうち循環器アライアンス、高知市、2021年5月18日
2．○山本哲史:「紹介患者さんの報告」、こうち循環器アライアンス、高知市、2021年5月19日、9月8日、2022年1月20日（研究会発表）
3．○阿部幸雄、古川敦子、伊藤誠、齋藤聡男、松村嘉起：「大動脈弁狭窄症のスクリーニングにおける身体所見の有用性」、第94回日本超音波医学会学術集会、神戸市、2021年5月21－23日
4．○細木信吾：「心カテを皆で極める」、PCI expert online サロン、Web開催、2021年6月3日
5．○細木信吾：「循環器内科医から見た中性脂肪管理」、安芸地区脂質治療Webカンファレンス、Web開催、2021年6月24日
6．○細木信吾：「社会医療法人仁生会細木病院紹介」、岡山大学循環器内科関連部長会議、Web開催、2021年6月26日
7．○細木信吾：「糖尿病と心臓病2021」、第20回高知糖尿病研究会、Web開催、2021年6月30日
8．○細木信吾：「大きく変わる心不全治療」、幡多薬剤師会研修会、四万十市、2021年7月7日
9．○細木信吾:「やさしい静脈血栓塞栓症2021」、第8回こうち循環器アライアンス、Web開催、2021年7月15日
10．○細木信吾：「PCI後抗血栓療法の考え方」、エリキュースInternet Seminar、Web開催、2021年7月30日
11．○細木信吾：「継子を見て時間を見ず」、中四国YES club夏の陣、Web開催、2021年8月20日
12．○赤尾敦、山本哲史、宮地剛、古川敦子、細木信吾、中内昌仁：「原因として稀ではあるが重要な疾患の発見の契機となった心嚢液貯留の1症例」、第74回高知県医師会医学会、高知市、2021年8月21日
13．○細木信吾：「Cases of LAD CTO」、高知冠疾患研究会、Web開催、2021年9月1日
14．○細木信吾：「逆行性アプローチからの側副血行路選択に苦慮したRCA　CTOの1例」、第27回CVIT中国四国地方会、Web開催、2021年9月4日
15．○細木信吾：「デバイス通過に苦慮したLAD7高度狭窄の1例」、第27回CVIT中国四国地方会、Web開催、2021年9月4日
16．○山本哲史、細木信吾、宮地剛、西本美香、古川敦子：「DAPTと抗凝固療法を要したRCAステント内閉塞の1例」、第27回日本心血管インターベンション治療学会（CVIT）中国四国地方会、完全Web開催、2021年9月4日・5日
17．○宮地剛、古川敦子、山本哲史、西本美香、細木信吾：「Caravel先端チップが断裂し、twisting　wire techniqueで回収することができた1例」、第27回　日本心血管インターベンション治療学会中国四国地方会、Web開催、2021年9月4日
18．○宮地剛、古川敦子、山本哲史、西本美香、細木信吾：「心臓リハビリテーションが著効した慢性心不全の1例」、第119回　日本循環器学会四国地方会、web開催、2021年9月4日
19．○細木信吾：「変わる心不全治療」、第8回こうち循環器アライアンス、Web開催、2021年9月8日
20．○細木信吾：「糖尿病と心臓病2021」、M3 web講演会、Web開催、2021年9月13日
21．○田中辰輔、上村梨菜、古川敦子、西本美香、宮地剛、山本哲史、細木信吾：「心肺運動負荷試験と運動負荷心エコーの組み合わせが拡張不全心不全の診断と治療に有用であった一例」、第25回日本心不全学会学術集会、岡山市、2021年10月3日

22. ○古川敦子：「大動脈弁狭窄症―重症度評価と結果の解釈について再考する」、日本超音波医学会第8回四国地方会講習会、高知市、2021年10月10日
23. ○細木信吾：「イバブラジンの使用経験」、高知心不全セミナー、Web開催、2021年10月21日
24. ○細木信吾：「ほそぎハートセンター 1歳になる」、第11回倉敷ゆかりの循環器研究会、Web開催、2021年10月23日
25. ○細木信吾：「変わる心不全診療」、広島心不全カンファレンス、Web開催、2021年10月25日
26. ○細木信吾：「循環器疾患と糖尿病　各論」、第43回高知糖尿病チーム医療研修会、高知市、2021年11月7日
27. ○宮地剛：「循環器疾患と糖尿病：総論」、第43回　糖尿病チーム医療研修会、2021年11月7日
28. ○野村菜々香、阿部幸雄、北井豪、古川敦子、松村嘉起、成子隆彦：「安静時大動脈弁通過血流速波形で低圧較差重度大動脈弁狭窄症の真性偽性を識別する」、第11回日本心臓弁膜症学会、大阪市、2021年11月20日
29. ○細木信吾：「誰でも難渋PCIができる2つの取り組み」、Kochi CV Premium Conference、Web開催、2021年11月24日
30. ○中嶋桃子、山本哲史、古川敦子、宮地剛、西本美香、細木信吾：「尿路感染症に起因した低カリウム血症の1例」、日本内科学会四国支部主催第125回四国地方会、完全Web開催、2021年12月5日
31. ○細木信吾：「Donor arteryのRCA入口部に解離が起こったら・・・」、未来へつなぐPCI：知って欲しいトラブル症例、Web開催、2022年1月19日
32. ○細木信吾：「地域で診る心房細動」、第10回こうち循環器アライアンス、Web開催、2022年1月20日
33. ○細木信吾：「高齢者への抗血栓療法」、人生100年を見据えた抗凝固療法in高知、Web開催、2022年1月26日
34. ○細木信吾：「Conquest Pro」、鼓動し続ける光藤イズムpart1、Web開催、2022年2月17日
35. ○古川敦子：「AS心エコーのいまさらなうんちく」、The echo web、Web開催、2022年3月9日
36. ○細木信吾：「変わる心不全診療2022：ベルイシグアトの可能性」、Meet the Expert in Kochi、Web開催、2022年3月19日
37. ○細木信吾：「失神を診る2022」、第11回こうち循環器アライアンス、Web開催、2022年3月30日

□講　義

1．○古川敦子：「心不全 ―Heart Failure― と心エコー診断」、大塚製薬社内研修会、高知市、2021年6月7日
2．○古川敦子：「知っておいて損はない心エコー@Emergency physician」、高知県救命救急医定例勉強会、高知市、2021年10月28日

□座　長

1．山本哲史：「Kowa Webカンファレンス」19：00−20：00、2021年7月9日（研究会）
2．細木信吾：「済生会宇都宮病院 PCI live」、YES foundation継子プロクターシップライブ、Web開催、2021年9月1日
3．細木信吾：CCIT webinar、Web開催、2021年9月3日
4．山本哲史：セッション種別「メディカル一般」セッションテーマ「ISR」、第27回日本心血管インターベンション治療学会（CVIT）中国四国地方会、Web開催、2021年9月4日・5日　（完全Web開催）
5．細木信吾：第27回CVIT中国四国地方会 Complex PCI 1、Web開催、2021年9月4日
6．細木信吾：SAMURAI LIVE@Saiseikai Yokohama City Hospital Live Demonstration4（CTO）、Web開催、2021年10月19日
7．細木信吾：「Fellow Course合併症」、CCT、Web開催、2021年10月28日
8．細木信吾：第9回こうち循環器アライアンス特別講演、Web開催、2021年11月18日
9．古川敦子：第9回こうち循環器アライアンス、高知市、2021年11月18日
10. 古川敦子：「Heart failure」、第86回日本循環器学会学術集会一般演題、神戸市、2022年3月12日
11. 古川敦子：「Aortic stenosis」、第86回日本循環器学会学術集会一般演題、神戸市、2022年3月13日

□術　者

1．細木信吾：みなみ野循環器病院PCI CTOワークショップ、八王子市、2021年5月21日
2．細木信吾：YES foundation継子PCIプロクターシップ、福山市民病院、福山市、2021年6月18日
3．細木信吾：ほそぎハートセンター PCI web live seminar、Web開催、2021年7月3日
4．細木信吾：YES foundation継子PCIプロクターシップ、住友別子病院、新居浜市、2021年7月19日
5．細木信吾：YES foundation継子PCIプロクターシップ、津山中央病院、津山市、2021年8月16日
6．細木信吾：「ビデオLive Demonstration＃1」、第18回四国お遍路ライブ、Web開催、2021年10月9日

7．細木信吾：第2回YES LIVE@細木病院ほそぎハートセンター、Web開催、2021年11月10日
8．細木信吾：YES　foundation継子PCIプロクターシップ、みなみの循環器病院、八王子市、2021年11月13日
9．細木信吾：YES foundation継子PCIプロクターシップ、住友別子病院、新居浜市、2022年2月18日
10．細木信吾：「PCIビデオライブ CTO」、中国四国ライブin倉敷2022、Web開催、2022年2月25日

□取　材
1．細木信吾：「受けよう血管チェック」、毎日新聞、2021年7月30日

呼吸器内科

□講　演
1．小林　誠：「当院でのエナジア®処方例」、エナジア®発売1周年記念講演会、高知市、2021年9月2日

消化器内科

□講演（講習会を含む）
1．上田祐二：「内服薬の消化管に対する影響。その薬、大丈夫ですか？」、安芸シルバー短期大学第10回講義、高知県安芸市、2021年11月26日

糖尿病・内分泌内科

□学会・研究会
1．篠原雅幸、熊谷千鶴、丸山博、寺西裕器、山川晴吾、北岡和雄、西岡達矢：「偏食と日光暴露忌避によりビタミン欠乏性骨軟化症を来した一例」、第94回日本内分泌学会学術総会、Web開催、2021年4月22日～24日
2．篠原雅幸、丸山博、熊谷千鶴、野田理香、西岡達矢：「ステロイド軟膏の大量使用による糖尿病の一例」、第64回日本糖尿病学会年次学術集会、Web開催、2021年5月20日～22日

□座　長
1．篠原雅幸：「環器疾患と糖尿病　～各論～」細木信吾、第43回高知県糖尿病チーム医療研修会、高知市、2021年11月7日

小児科

□誌上発表（論文・著作・寄稿）
1．Naomi Mitsuda, Naw Awn J-P, Takatoshi Hosokawa, Masamitsu Eitoku, Mikiya Fujieda, Narufumi Suganuma：Breastfeeding and risk of febrile seizures in the first 3 years of life:The Japan Environment and Children's Study：Brain and Development、Volume 44, Issue 3, Pages 203-209, March 2022.

□学会・研究会
1．〇満田直美、細川卓利、栄徳勝光、藤枝幹也、菅沼 成文：1歳までの熱性けいれん発症リスクと母乳栄養の関連性について(エコチル調査より)、第63回日本小児神経学会学術集会、【ハイブリッド開催】福岡、2021年5月26日～29日
2．〇新井 淳一、高知県糖尿病サマーキャンプスタッフ：「小児1型糖尿病バーチャルキャンプ トライアル」、日本糖尿病協会主催 Zoom開催、2021年6月6日
3．〇新井 淳一、高知県糖尿病サマーキャンプスタッフ:「小児1型糖尿病バーチャルキャンプ」、 日本糖尿病協会主催 Zoom開催、2021年10月9日（10月7日、10月24日）

□講義（講師、院外研修指導者含む）
1．細川卓利 ：「小児神経学」非常勤講師、高知大学医学部医学科、南国市 、2021年6月オンライン講義
2．細川卓利 ：「小児神経学」非常勤講師、高知大学医学部医学科、南国市 、2022年1月オンライン講義

外　科

□学会・研究会
1．〇尾﨑信三、中村衣世、上地一平：「CDK4/6阻害剤後の化学療法1st lineとしてエリブリンが著効した乳癌

多発骨転移の1例」、第18回日本乳癌学会中国四国地方会、鳥取大学医学部附属病院、米子市（Web開催）、2021年9月10日

2．○中村衣世、尾﨑信三、上地一平：「両側肺転移再発に対しHP＋DOC療法、T－DM1療法で病勢進行後、肺切除術施行し、HER単独療法のみで2年7ヶ月無再発生存中のHER2陽性乳癌の1例」、第18回日本乳癌学会中国四国地方会、鳥取大学医学部附属病院、米子市（Web開催）、2021年9月10日

化学療法・緩和ケア科

□学会・研究会

1．○安藤徹：「COVID19流行下にBLS講習会を開催するための工夫」、第49回日本救急医学会総会・学術集会、東京都中央区日本橋、2021年11月22日

□講義（講師、院外研修指導者含む）

1．安藤徹：「緩和ケア」、非常勤講師、開成専門学校、高知市、2021年9月1日～9月15日（3日間）

整形外科

□学会・研究会(ポスター展示含む)

1．○篠原雅幸、熊谷千鶴、丸山博、寺西裕器、山川晴吾、北岡和雄、西岡達矢：「偏食と日光暴露忌避によりビタミン欠乏性骨軟化症を来した一例」、第94回日本内分泌学会学術総会、Web開催、2021年4月22日～24日

2．○五十嵐陽一、山中陳靖、山川晴吾、北岡和雄、池内昌彦：「当院における変形性膝関節症に対するPRP療法の結果報告」、第113回高知整形外科集談会、オンライン「zoomミーティング」、2022年2月12日

3．○五十嵐陽一、山中陳靖、山川晴吾、北岡和雄、池内昌彦：「当院における変形性膝関節症に対するPRP療法の短期結果報告」、第38回四国関節外科研究会、Webライブ配信、2022年3月5日

放射線科

□講義（講師、院外研修含む）

1．耕﨑志乃：「中枢神経・頭頚部の画像診断」非常勤講師、高知大学医学部医学科3年生、南国市（Web開催）、2021年12月10日から2022年1月28日まで公開（49日間）

皮膚科・形成外科

□講義（講師、院外研修指導含む）

1．野田理香：「食で健康をとりもどす」、高知新聞所感雑感、高知市、2021年4月27日

2．野田理香：「終末糖化物質について」、形成外科徳島集団会、徳島市、2021年8月15日

麻酔科

□講義（講師、院外研修指導者含む）

1．畠中豊人：看護学科専攻課程1年生　講義「病態学Ⅰ　脳・神経」、高知中央高校、高知市、2021年9月9日～10月14日（毎週水曜日2時間　5回　10時間）

2．畠中豊人：看護学科専攻課程1年生　講義「病態学Ⅰ　消化器」、高知中央高校、高知市、2021年10月28日～12月2日（毎週水曜日2時間　6回　12時間）

3．畠中豊人：院内ICLSコース　インストラクター「日本救急医学会認定コース」、細木病院、高知市、2021年12月12日（終日）1回

□座　長

1．畠中豊人：「高知県における輸血過誤・インシデント報告2020」、高知赤十字病院　市村亜沙美　先生、「高知県における新型コロナウイルス感染拡大に伴う輸血医療への影響について」、高知医療センター　石本倫子　先生、第14回輸血・細胞治療研究会、高知血液センター、2021年11月6日

■ 看護部

□ シンポジウム

1．豊田邦江：「令和３年度看護職のワークライフバランス推進フォローアップワークショップ」、シンポジスト（Web発表）、高知県看護協会、高知市、2022年2月18日

□ 学会・研究会

1．○岡﨑千佐子、森木妙子：「看護管理能力の発揮に影響を及ぼす看護師長の支援－認定看護管理者教育課程ファーストレベル修了後－」、第25回日本看護管理学会学術集会（Web開催）、2021年8月28・29日
2．○千葉恵子、桃田恵苗、渡辺真智子、岡﨑千佐子：「回復期リハビリテーション病棟での転倒対策～安全に活動性を向上させる～」、2021年度高知県回復期リハビリテーション病棟連絡会第2研修会（Web開催）、2021年8月21日
3．○藤本あゆみ、岡﨑千佐子：「地域包括ケア病棟で勤務する卒後2年以内の看護師が退院支援で抱く困難感」、第52回日本看護学会学術集会（Web開催）、2021年11月26日～12月26日

□ 講義（講師、院外研修指導者含む）

1．岡﨑千佐子：「認定看護管理者教育課程ファーストレベル」統合演習アドバイザー、高知県看護協会（高知市）、2021年7月16日～18日（3日間）

□ 表彰

1．豊田邦江：令和３年度高知県看護協会長表彰、高知県、高知市、2021年6月5日
2．豊田邦江：高知県功労賞（保健衛生部門）、高知県、高知市、2021年11月3日

■ 薬剤部

□ 学会・研究会

1．○山本紗世、川竹麻由、渡辺朱里、西内祥子、大石美沙子、田中実奈、田所美和、市吉真貴子、八木亜紀子、小松めぐみ、田中照夫：「在宅復帰とポリファーマシー対策の視点を盛り込んだ入院時初回面談シートの作成と使用後の評価」、第60回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会　中国四国支部学術大会、松山市（オンデマンド）、2021年10月

□ 講演（講習会を含む）

1．田中照夫：「チーム医療推進の具体化と組織マネジメント」、病院薬学フォーラム in 四国、Web開催、2021年5月14日
2．田中照夫：「医薬品適正使用とチーム医療を考える」、明治製菓ファルマ社内勉強会、高知市、2021年11月26日

□ 講義（講師、院外研修指導者含む）

1．田中照夫：「臨床薬理学」非常勤講師、高知学園短期大学、高知市、2021年10月～2022年1月（15日間）

□ 座　長

1．田中照夫：「大学病院での医療安全とチーム医療の現状」、高知大学医学部麻酔科学教授　河野　崇、医療安全WEBセミナー、Web開催、2022年3月10日
2．田中照夫：「2022年4月診療報酬改定と薬剤師の役割」、日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会代表理事　武藤正樹、高知県後発医薬品安心使用促進協議会、Web開催、2022年3月17日

■ 医療技術部

栄養管理室

□ 講演（講習会を含む）

1．橋本由佳：「ナリコマエンタープライズオンラインセミナー」特別講師、Web開催、高知市、2022年1月27日、2022年2月17日

2．永野睦美：「大塚製薬工場オンラインセミナー」講師、Web開催、高知市、2022年2月4日

リハビリテーション課

□学会・研究会

1．○成瀬信夫：「脳梗塞発症後に肺炎や骨折も発症した超高齢者に対する構音訓練を経験して」、生涯学習プログラム症例検討会、日本言語聴覚士協会、Web開催、2021年5月26日
2．○西山歩李：「脳出血のため意識障害を呈し、経鼻経管栄養と経口摂取併用している1症例～3食経口摂取移行を目指して～」、生涯学習プログラム症例検討会、日本言語聴覚士協会、Web開催、2021年5月26日
3．○徳弘佑伊、橋田寿恵：「通所介護との連携による成功体験　歩行獲得～医師から車椅子生活と告げられたが諦めない～」、第18回日本訪問リハビリテーション協会学術大会in高知、日本訪問リハビリテーション協会、現地開催（高知市）・Web開催、2021年6月1日～30日（オンデマンド配信）
4．○沖田菜摘：「右急性硬膜下血腫を呈した患者に対する言語訓練を経験して」、生涯学習プログラム症例検討会、日本言語聴覚士協会、Web開催、2021年6月9日
5．○筒井佳代：「乏突起神経膠腫治療後の訪問リハビリアプローチ～スムーズな会話の再獲得～」、生涯学習プログラム症例検討会、日本言語聴覚士協会、Web開催、2021年6月9日
6．○川村立：「無発語の自閉症児1例への応用行動分析学を用いた言語獲得に向けた介入」、第22回日本言語聴覚学会in愛知、日本言語聴覚士協会、現地開催（名古屋市）・Web開催、2021年6月19日～7月20日
7．○田中辰輔、上村梨菜、古川敦子、西本美香、宮地剛、山本哲史、細木信吾：「心肺運動負荷試験と運動負荷心エコーの組み合わせが拡張不全心不全の診断と治療効果判定に有用であった一例」、第25回日本心不全学会学術集会、日本心不全学会、Web開催、2021年10月3日
8．○岡崎愛彩：「誤嚥により気管切開となった超高齢者とのコミュニケーション方法の検討について」、生涯学習プログラム症例検討会、日本言語聴覚士協会、Web開催、2021年10月13日
9．○前田舞子：「症例検討」、生涯学習プログラム症例検討会、日本言語聴覚士協会、Web開催、2021年10月13日
10．○大石由梨香：「右内包後脚から右放線冠に脳梗塞を発症した左半側空間無視を呈した症例」、生涯学習プログラム症例検討会、日本言語聴覚士協会、Web開催、2021年12月8日
11．○笠井美玖：「失語を呈する領域のラクナ梗塞を再発した非定型失語患者の訓練方法について」、生涯学習プログラム症例検討会、日本言語聴覚士協会、Web開催、2021年12月8日
12．○大崎佑太：「ラーメン屋復職に対し自信獲得を目指した小脳梗塞患者に対する作業療法」、現職者共通研修会事例発表・事例検討会、高知県作業療法士会、Web開催、2022年1月20日

□講演（講習会を含む）

1．千頭尚貴：「言語聴覚士の仕事について～私の体験談～」、高知高等学校、高知市、2021年12月23日
2．田中辰輔：「心臓リハビリテーション～心不全と理学療法士の介入～」、大塚製薬株式会社、高知市、2022年2月17日

□講義（講師、院外研修指導者含む）

1．野口耕造：「高知県理学療法士協会　新人プログラム研修　ティーチング・コーチング」、高知県理学療法士協会、Web開催、2021年7月18日（1日間）
2．野口耕造：「臨床実習前の準備と心構え」非常勤講師、土佐リハビリテーションカレッジ　理学療法学科、Web開催、2021年10月6日（1日間）
3．徳弘郁絵：「高知県理学療法士協会　新人プログラム研修　ウィメンズヘルス領域における理学療法」、高知県理学療法士協会、Web開催、2021年10月17日（1日間）
4．小林由季：「認知症アップデート研修」、高知県作業療法士会、Web開催、2022年2月11日（1日間）
5．氏原玲子：「認知症アップデート研修」、高知県作業療法士会、Web開催、2022年2月11日（1日間）

臨床心理室

□講演（講習会を含む）

1．池田貴美：「子どもを取り巻く様々な問題　～いじめ、虐待、発達障害～」、丸の内高校研修会、高知市、2021年6月4日
2．米本竜太郎：「ストレスとの上手な付き合い方」、細木病院まっことネット細木、高知市、2021年7月30日
3．池田貴美：「生徒の見守り方 ～ゲートキーパーとしての役割～」、丸の内高校研修会、高知市、2021年9月10日

■ 事務部

臨床支援課

□学会・研究会

1．〇金子智咲、片岡亜里彩、菅原麻里、門田美紀:「コロナ禍における精神科での臨床支援」、日本医師事務作業補助研究会　第10回全国大会、日本医師事務作業補助研究会、石川県（Web開催）、2021年9月19日
2．〇門田美紀、井上悠、廣内朱美、金子智咲:「コロナ禍における臨床支援課BCP作成の取り組み」、日本医師事務作業補助研究会　第10回全国大会、日本医師事務作業補助研究会、石川県（Web開催）、2021年9月19日

企画課

□講演（講習会を含む）

1．〇門田紘和：「テーマ：修了生から受講生へ」、四国病院経営プログラム、Web開催、2021年9月11日

■ 在宅部

□学会・研究会

1．〇廣井三紀:「南海トラフ地震に備える～日頃からの介護事業所の取り組み～」、日本在宅看護学会　学術集会、Web開催、2021年11月13日

訪問看護ステーションほそぎ

□講義（講師、院外研修指導者含む）

1．井上加奈子：「在宅看護技術」非常勤講師、龍馬看護ふくし専門学校、高知市、2021年4月13日～6月8日（3日間）
2．井上加奈子:「在宅看護方法論Ⅰ」非常勤講師、独立行政法人国立病院機構高知病院附属看護学校、2021年4月14日～7月7日（5日間）
3．井上加奈子:「在宅看護援助論」非常勤講師、高知大学医学部看護学科、2021年5月18日～7月6日（3日間）
4．井上加奈子：介護労働講習「医学関連の基礎知識（こころとからだのしくみ）」、講師、2021年6月21日～7月1日（3日間）
5．井上加奈子:「施設－在宅の移行期における療養者と看護への支援（実践）」、在宅ケア領域看護師研修講師、高知県看護協会、2021年7月14日
6．井上加奈子：2021年度高知県立大学がん看護インテンシブコースⅠ「高齢がん患者の自宅生活におけるセルフケア」講師、高知市、2021年10月2日
7．井上加奈子：令和3年度中山間地域等訪問看護師育成研修（フィジカルアセスメント）ファシリテーター、高知市、2021年11月6日
8．井上加奈子：令和3年度高知県難病患者等ホームヘルパー養成研修「難病に関する基礎知識Ⅰ・Ⅱ」「難病患者の介護の実際」講師、高知市、2021年12月12日

高知市上街・高知街・小高坂地域包括支援センター

□学会・研究会

1．学会名「コロナ禍における変革期の老人福祉」、主催　四国老人福祉学会、開催方式　Web方式（ZOOM使用）、〇廣井三紀、中居江美：「コロナ感染症の地域への影響とその後のつながりに向けて」、四国老人福祉学会第40回記念大会、2022年2月20日

□講演（講習会を含む）

1．西本かがり：「お口の話」、南部居宅介護支援ブロック会、春野あじさい会館、2021年11月18日

□取　材

1．「孤立死を未然に防ぐ、コロナ禍における支援センターの役割」、NHK、こうちいちばん、2021年7月
2．「コロナ禍における認知症の進行への影響について」、高知新聞、2021年9月

▶実習・研修生　（2021年４月１日～2022年３月31日）

依　頼　元　名	延べ人数
診　療　部（循環器内科）	
高知医療センター	1
（外科）	
高知赤十字病院	1
（精神科）	
国立高知病院	5
（内科）	
高知大学医学部６年生	9
（小児科）	
高知大学医学部６年生	9
合　計	25
看　護　部	
中央高等学校　小児実習（専攻科１年生）	8
高知県立大学看護学部　精神実習（３回生）	126
高知学園短期大学　老年実習（３年生）	35
高知学園短期大学　基礎実習（２年生）	30
近森病院附属看護学校（２年生）	42
龍馬看護ふくし専門学校（２年生）	8
合　計	249
薬　剤　部	
神戸薬科大学　薬学部（５回生）	1
神戸学院大学　薬学部（５回生）	1
合　計	2
医療技術部（リハビリテーション課　理学療法室）	
土佐リハビリテーションカレッジ 理学療法学科（４年次生）	1
土佐リハビリテーションカレッジ 理学療法学科（３年次生）	1
土佐リハビリテーションカレッジ 理学療法学科（２年次生）	1
高知医療学院　理学療法学科（第３学年生）	1
高知リハビリテーション学院 理学療法学科（４年次生）	1
高知リハビリテーション専門職大学 リハビリテーション学部　リハビリテーション学科　理学療法学専攻（３年次生）	2
高知リハビリテーション専門職大学 リハビリテーション学部　リハビリテーション学科　理学療法学専攻（２年次生）	2
徳島文理大学　保健福祉学部 理学療法学科（４年次生）	1
人間総合科学大学　保健医療学部　リハビリテーション学科理学療法学専攻（４年次生）	1
合　計	11
（リハビリテーション課　作業療法室）	
高知リハビリテーション学院 作業療法学科　（４年次生）	1
高知リハビリテーション専門職大学 リハビリテーション学部リハビリテーション学科　作業療法学専攻　（３年次生）	1
合　計	2

依　頼　元　名	延べ人数
医療技術部（リハビリテーション課　言語療法室）	
高知リハビリテーション専門職大学 リハビリテーション学部　リハビリテーション学科　言語聴覚学専攻（２年次生）	1
高知リハビリテーション専門職大学 リハビリテーション学部　リハビリテーション学科　言語聴覚学専攻（３年次生）	1
合　計	2
（精神科作業療法室）	
高知リハビリテーション学院　（４年生）	1
高知リハビリテーション学院　（２年生）	1
土佐リハビリテーションカレッジ（４年生）	2
合　計	4
ほそぎ入退院サポートセンター（患者サポート室）	
高知県立大学　社会福祉学部（３回生）	3
高知県立大学　社会福祉学部（４回生）	1
合　計	4
細木病院総計	299